

# 「北方文芸」全号目次総覧

1968・112006・12

## 二九六八年

一月号(創刊号)

### 特集有島武郎

●武郎の文体など―瀬沼茂樹●有島武郎研究  
雑感―山田昭夫●座談会『有島武郎の文学を  
めぐって』本多秋五・八木義徳・澤田・福穂  
木原直彦・小笠原克・山田昭夫●深刻・福穂  
崎の素人画家●有島武郎未発表遺稿・秋雨之  
他●木原直彦の文学散歩―有島武郎と札幌  
(上)●北海道―その思想的隘場と文学主体  
―高野斗志美●中野重治と伊藤整―佐藤春夫  
のこと―亀井秀雄●北海道文学史と私―  
佐藤喜一●文学と現代―原田康子●札幌半世  
紀―大黒マチルド●碑の詩―枯木虎夫●日高  
の馬―徳力牧之助●刃影―須田禎一●随筆・  
私と文学―池島信平 南から北を―山下秀之

1

助 思い出すまま―西村真吉 道立美術館誕  
生―工藤欣弥●風見鶏―菱川善夫・寺田京子  
●読者のひろば―子石真美・佐藤修・八  
木伸子・遠藤柳二●小説白雲木―長見義三・  
枯れ草―金子きみ

### 二月号(第一卷第二号)

新鋭創作三人集

●ワッナイ原野の四季―上西晴治●遠い湖―  
三好文夫●孵化―朝倉賢●座談会『風景景次  
郎人と学問―風巻春子和田謹吾 近藤潤一・  
千葉宣一・山根好助・小笠原克・小熊秀雄 小  
考―佐藤喜一●中野重治と伊藤整―性および  
社会の意識―亀井秀雄●木原直彦の文学散歩  
―有島武郎と札幌(下)●北海道を考える―  
島木健作●月界昇天―猪俣庄八●有島武郎と

2

雑誌「巴達のごとく―上杉省和●視線―更科  
源蔵●しいたげられた文化―山川力●絵と  
文―行雲流木・松島正幸●風見鶏―菱川善夫・  
寺田京子●広場―遠藤勝一●貴島正・古館慶  
●随筆・どこで何をするか―阿部知二 山火  
事のこと―日塔聰 若い詩人の肖像―園松登  
厚岸行―坂本亮 ヒロシマと札幌―草野真男  
●刃影―須田禎一●紹介します―旭丘高校文  
芸部●連載小説・地航ゆ―早川三代治

### 三月号(第一卷第三号)

小林多喜二特集

●座談会『小林多喜二の思い出―佐藤チマ・  
島田正策・武田暹・藤橋茂・小笠原克●多喜  
二文学における女性像―布野栄一●「新興文  
学」と多喜二―山田清三郎●定本『小林全集

3

―手塚英孝●多喜二とロシア文学―市原初男  
●A君への手紙―宮野駿●多喜二と私―大月  
源●小林多喜二を読んで―疋田武・大広行  
雄・柏谷喜久子・楠重寿・菅原英一・二宮清  
隆・徳永好治・早坂絃司●小林多喜二碑のこ  
と―浜林正夫●若い日―小林多喜二―山下秀  
之助●小林多喜二と私―小関六三●多喜二の  
こと―笠井清●小林多喜二文学碑と「権さん  
のこと」について●対談―多喜二・陸男・  
栄―平野謙・小笠原克●中野重治と伊藤整―  
自己確立の質―亀井秀雄●木原直彦の文学散  
歩―津軽海峡(上)●北海道を考える―小林  
多喜二●刃影―須田禎一●しいたげられた文  
化―山川力●エッセンス・オブ・S・F―ソク  
ラテスの妻―荒巻義雄●私のなかのサークル  
―袖木栄三●視線―更科源蔵●風見鶏―菱川

善夫・寺田京子●随筆・北海道百年 阿部謙夫・光る小石・大場利夫 カナダの新渡戸稲造 谷本一之 ある画家の笑い 佐野四清 風巻先生の源氏物語 秋山慶二 紹介します 北海道文学の源氏物語 広場 斎藤祐二 藤里淳也・山家国夫●道内同人誌評●小説・市街戦のジャズメン 佐藤泰志 轟沢 中沢 茂●連載小説・茉黄 道明寺武彦 地飢ゆ 早川三代治

四月号(第一巻第四号) 4

武田泰淳をかこむ座談会 ●座談会●土着するものの世界性 武田泰淳 ●菅原虎一・東川原克 小笠原克 澤田誠一 ●福保の言葉 亀井秀雄 一郎●求道者の美意識 亀井秀雄 一郎の問題 安東章二 ●中野重治と伊藤整 北海道塩谷村 亀井秀雄 ●文学に現われた北海道 武田泰淳 森と湖のまつり

―小笠原克●木原直彦の文学散歩―津軽海峽(下) ●札幌の十年 風巻春子 ●回想の太宰治 南部農夫治 ●安住さんの死 和田謙吉 ●

造社舞送曲 富重義人 ●二人の絵から 木郷新 ●刈影 須田禎一 ●詩・儀式 鴛葉紫野 ●エッセンス オブ S・F 日常性の告発 荒巻義雄 ●随筆 宮本百合子の手紙 中山やす本多のこと 藤枝静男 百年の歴史の中で 石井真二 時計台という名の図書館 小川川重彦 明るい落日 東川原克 ●風見鶏 柴川善夫・寺田京子 ●広場 大伝行雄 藤井良蔵 ●谷内茂・杉山鏡史 ●小説 半身の像 木野工 ●連載小説・茉黄 道明寺武彦 地飢ゆ 早川三代治

五月号(第一巻第五号) 5

座談会・とさん 弁の百年 ●座談会●とさん 弁の百年 五十嵐三郎 石垣福雄 芳賀統 渡辺茂 小笠原克 ●中野重治と伊藤整 リズムとその「錆なおし」

亀井秀雄 ●木原直彦の文学散歩 函館港 ●義人のと 求道の人 島木健作と亀井秀雄 一郎 大滝重直 ●北海道を考える 中谷吉郎 ●私のなかの北海道 菅原忠 ●札幌の十年 風巻春子 ●白雪会のことなど 山下愛子 ●北との結晶 船山馨とのこと 野口富士男 ●つけたげられた文化 山川力 ●刈影 須田禎一 ●残照 猪俣庄八 ●二セコアンヌプリとイワオスゾリ 木田金太郎 ●随筆 風景をみる眼 八木義徳 ●この雪あの雪 大兼孝 斜視と古本と 幸川実 中塚岡二十世のことなど 栗坪良樹 ●古川英 原稿二十世のことなど 栗坪良樹 における女性像 補遺 布野栄一 ●風見鶏 山田昭夫 寺田京子 柴川善夫 紹介します あさゆの会 ●広場 山口善夫 中沢菊枝 笠原肇 上家博英 北島瞭 ●小説 岬のかなたに 小松茂 兎 川崎彰彦 ●連載小説・茉黄 道明寺武彦 地飢ゆ 早川三代治

六月号(第一巻第六号) 6

詩歌特集 ●現代詩の成立 本田錦一郎 ●現代詩の栄光と悲惨 千葉直一 ●北海道の詩人たち 伊藤信吉 ●前掲短歌 短歌前衛 岡井隆 ●明とのなかに奪取は可能か 笠井嗣夫 ●ヴェトナムのための歌 笠井嗣夫 ●俳句 近感 森澄雄 ●風土性の始点と終点 中村憲一 ●作品 風山蝦生 柳川章子 いわさきかつく 友田喜雄 原村修 山口雅子 川上喜代 一 松川洋子 足立敏彦 とくたさとみ 宮田千恵 賀村順治 高橋さゆみ 金崎一光 矢島京子 増谷龍三 森輝子 永田耕一郎 井手節子 武内夕彦 道前節子 平井さち子 谷口重岐夫 島恒人 川村静子 草皆白影子 野田昭祐 ●座談会●自然 人間として 文学 亀田太郎 ●東川原克 ●木原直彦 ●文学に現われた北海道 小熊秀雄の「飛ぶ橋」 小笠原克 ●北海道文学散歩 函館出身 文学者 木原直彦 ●作家と世界観 今野大九

君 一本陸男 ●北海道を考える 一定の昆蟲 今野大九 ●エッセンス オブ S・F フラケンシユタインの末裔 荒巻義雄 ●札幌の十年 風巻春子 ●白雪会のことなど 山下愛子 ●刈影 須田禎一 ●ミュンヘン 文学案内 小松伸六 ●北との結晶 野口富士男 ●つけたげられた文化 山川力 ●戦争にブレレキをかけた新聞 小林直一 ●随筆 墓のほりり 十和田操 晶子の選集を編んで 新聞進一 北海道開拓の小説 風間光作 師弟二本木実 ひき蛙 金子さきみ ある感受性の悲劇 工藤正広 徳島 枯木虎夫 中浦澄子 佐藤春子 設楽光子 藤崎次郎 福井正和 高倉マツ 真下欣一 本庄栄二 犀俊介 紹介します 南風 風見鶏 佐藤喜一 柴川善夫 寺田京子 ●小説 這松の下の世界 川田為三 ●連載小説 地飢ゆ 早川三代治

七月号(第一巻第七号) 7

創作特集 ●死鴉 助川徳是 ●夜のエリート 飯塚剛 ●鼠 浅野太市 ●座談会●辺地と職業の中の文学 渡辺淳一 柚木栄三 三好丈夫 中沢茂 向井昭昭 菅原政雄 高階玲治 村上利雄 澤田誠一 ●中野重治と伊藤整 様式性の問題 亀井秀雄 ●文学に現われた北海道 大江健三郎 青年の汚名 小笠原克 ●北海道文学散歩 久保栄 ●北との結晶 和田秀恵とのこと 野口富士男 ●刈影 須田禎一 ●つけたげられた文化 山川力 幾山河 武林朝子 ●札幌の十年 風巻春子 ●白雪会のことなど 山下愛子 ●随筆 陸男の文学 一函館 雑筆 山田野理夫 わびしかりける 佐野法幸 小熊秀雄 再刊まで 入江好之 ●エッセンス オブ S・F パナナの皮 戦争 荒巻義雄 ●風見鶏 佐藤喜一 千葉直一 柴川善夫 寺田京子 ●連載小説 地飢ゆ 早川三代治

八月号(第一巻第八号) 8 ●中野重治と伊藤整 「芸」の理論 亀井秀雄 ●文学に現われた北海道 小川清雪の宿 夕張の春 小笠原克 ●北海道文学散歩 五後郭 木原直彦 ●私のなかの北海道 菅原忠 ●北海道を考える 石川啄木 ●幾山河 武林朝子 ●札幌の十年 風巻春子 ●刈影 須田禎一 ●風は頼に 改造社舞送曲 富重義人 ●北との結晶 北海道文学者とのこと 野口富士男 すすりと共に 松本春子 ●詩二篇 富樫吾郎 ●広場 山本美佐子 中嶋英二 佐々木智恵 丸山道子 山中菊枝 鶴堂 晶子先生の誤解 西村一平 早坂文雄を憶う 田上義也 ●夫の話 題一 原直徳 劇場でない劇場 竹岡和明 ●風見鶏 佐藤喜一 千葉直一 寺田京子 柴川善夫 ●小説 日付のない海 志田川倫 ●連載小説 地飢ゆ 早川三代治

九月号(第一巻第九号) 9

●中野重と伊藤整 其の史的位相 亀井秀雄 ●文学に現われた北海道 開高健 ●ロビソンの末裔 小笠原克 ●北海道文学散歩 湯ノ川 修造 題 恵山 木原直彦 ●木庄陸男のこと 山田たか ●刈影 須田禎一 ●すすりと共に 松本春子 ●札幌の十年 風巻春子 ●幾山河 武林朝子 ●随筆 宇野先生をおもう 中山周三 ●北海道文明論へのメモ 樋口敬二 上海にいた作家 八森虎太郎 素木しづと私 一好三千子 ●風見鶏 山田昭夫 柴川善夫 寺田京子 千葉直一 ●広場 阿部三恵 ●連載小説 地飢ゆ 早川三代治

十月号(第一巻第十号) 10

●座談会●芸術 歴史・ヒューマニズム 武谷三男 峯孝 富山妙子 澤田誠一 ●井上光晴 高野斗志美 ●北海道文学散歩 上場所の旅 木原直彦 ●海はみえない 藤本英夫 ●

すずりと共に一松本春子●幾山河一武林朝子  
●札幌の十年一風巻春子●刃影一須田禎一  
●隨筆・くちなしの花一金子きみ(石狩川)  
と史実一坂田出版。平岸の夏一水口幾代。歌  
集「土の遺産記念会」による一諸角和尙  
●広場一菊地喬一矢島ミサ子一新田電三●風  
見鶏一山田昭夫一千葉宣一寺田京子一菱川  
善夫●連載小説一地飢ゆ一早川三代治  
昌志郎●連載小説一地飢ゆ一早川三代治

十一月号(第一卷第十号) 11

●大健三郎論一高野斗志美●「挽歌」に於ける(愛)の構造一岩淵啓介●文学に現われた北海道一久保菜一のほり鑑一木原直彦●北海道文学散歩一松前の国(上)一木原直彦●大宰治伝の真実を求めて一長篠康一郎●いわゆる三派全学連の君に一小林好宏●思いつく人々一ティルダ・ヘックさんのこと一井出貢夫●すずりと共に一松本春子●ユーカテを影る一床ヌプリ●札幌の十年一風巻春子●幾山河一武林朝子●風見鶏一山田昭夫一千葉宣一●寺田京子●菱川善夫●隨筆・樹木と生命一原有徳一高校生との挑戦一本田義則一木田画伯の思い出一工藤まよ一逍遙私闘一川副国基●広場一藤井良哉●谷内隆一岩間庄八●高浪敏一高木美沙●刃影一須田禎一●小説一白い河一村上利雄●連載小説一松前一山田野理夫。地飢ゆ一早川三代治

十二月号(第一卷第十号) 12

●石原慎太郎論一高野斗志美●文学に現われた北海道一辻村もと子一馬追原野一小笠原克●北海道文学散歩一松前の国(下)一木原直彦●大宰治自殺未遂の謎一長篠康一郎●連作詩・愛のうた一友田多喜雄●風は頬に二改造社愛のうた一刃影一須田禎一●ノン・ハッセ夫人のこと一井手貢夫●すずりと共に一松本春子●幾山河一武林朝子●風見鶏一山田昭夫一菱川善夫一寺田京子一千葉宣

一●隨筆一漢文を読めぬということから一佐々木充一昔語り一加藤愛夫一高一木村敏男●道新文学賞受賞について一澤田誠一●広場一平野和夫一山本美佐子一鈴木杜世香一長野多津子一高見敏太郎●小説一砂土の上の旗の列一川辺益三●連載小説一松前一山田野理夫。地飢ゆ一早川三代治

(二九六九年) 13

一月号(第二卷第一号) 13  
一九六八年道内短篇秀作集  
●一九六八年道内短篇秀作集一陽だまり一家庭一立美の花咲く故郷一川村慶子一招待旅行の話一渡部秀正一虹と落椿一土屋祝郎●座談会「石狩野郎」の作者を聞いて一船山馨一関口次郎一木内進一木野工一原田康子一澤田誠一●顕光利一その誠実をめぐって一栗理良樹●大宰治伝の真実を求めて一長篠康一郎●文学に現われた北海道一伊藤整一若い詩人の肖像一小笠原克●北海道文学散歩一犬沼一駒ヶ岳一木原直彦●ハッセ夫人のこゝろ一井手貢夫●札幌の十年一風巻春子●幾山河一武林朝子●すずりと共に一松本春子●刃影一須田禎一●風見鶏一山田昭夫一千葉宣一●寺田京子●菱川善夫●隨筆一出版屋のころ一金山一昌三一半沢の亀一草皆白影子女あるモンスター一埴原和郎一学園紛争と断髪令一博間慶一詩の(立燈)と燈の(立燈)一小説一岡野寛●広場一土田景治郎一藤井良哉●連載小説一松前一山田野理夫。地飢ゆ一早川三代治

二月号(第二卷第二号) 14

●座談会「故郷」の問題をめぐって一橋川文三一高野斗志美一亀井秀雄一小笠原克●文学に現われた北海道一子母沢寛一厚田日記一小笠原克●北海道文学散歩一森一八雲一國縫一木原直彦●東海の小島一啄木の北海道の歌一武井静夫●札幌の十年一風巻春子●女子

留学生かけある記一小松菜穂子●刃影一須田禎一●隨筆一「秩父事件」その後一佐々木逸郎一オホソク文学園一柳谷実智博一京都の回想一峯孝一東野坊一中沢茂●風見鶏一山田昭夫一千葉宣一●寺田京子一菱川善夫●広場一佐藤ジュン子一岩間庄八一中嶋英二●小説一オフレック一上西連治一動物一倉崎齊一窓影一岩谷征捷●連載小説一松前一山田野理夫。地飢ゆ一早川三代治

三月号(第二卷第三号) 15

●開高健論一高野斗志美●私にとって(詩意識)とは何か一笠井嗣夫●文学に現われた北海道一早川三代治一処女地一木原直彦●北海道文学散歩一知也と八雲一木原直彦●武林朝子一女子留学生かけある記一小松菜穂子●刃影一須田禎一●隨筆一陸羯南のこゝろ一渡辺一雄一●小説一豊平川一の出版一竹内松彦一アネチヨコ考一勝安夫●風見鶏一山田昭夫一千葉宣一●寺田京子一菱川善夫●小説一奴の野理夫。地飢ゆ一早川三代治

四月号(第二卷第四号) 16

●行動的文学者(輝ける闇)などから一登川正雄●北海道文学散歩一長輪線一木原直彦●民族のぬかるみをみつめて一やまかわ一つとむ一ヘルマン一ハッセのこと一井手貢夫●風は頬に一改造社舞送曲一富重義人●女子留学生かけある記一小松菜穂子●刃影一須田禎一●隨筆一わたしの文学行脚一和田謙吾一余年の漁村部落一平中忠信一休刊から再建一編集部●幾山河一武林朝子●風見鶏一山田昭夫一千葉宣一●寺田京子一菱川善夫●広場一斉藤征義一竹岡竜太郎●小説一万国旗が舌を出している一早坂絳司一冬のぼじまり一山田太郎●連載小説一松前一山田野理夫。地飢ゆ一早川三代治一汗顔の辞一浪花剛夫●前書き

く後書き一小笠原克  
六月号(復刊号第一卷第五号) 17  
●古い思い出一伊藤整●隨筆一父のこと一瀧仁右衛門一地元と男一うた一谷口静司一学生と短歌一薄井忠男一銚路源原の花たち一荒沢藤太郎一安部公房論一高野斗志美一いろは北海道一石井貞二●北海道文学散歩一向洞爺一木原直彦●刃影一須田禎一●広場一末武綾子一根本勝利●風見鶏一山田昭夫一佐々木逸郎一草皆白影子一猪股孝一武田厚一●小説一傾ける空間一浅野太一はらから一堺富市郎命をかけて一辻村もと子

七月号(第二卷第六号) 18

●文学の中の風土一「雪明りの路」詩抄一伊藤整一「雪明りの路」をたずねて一阪本越郎●隨筆一雪明りの路一●小説一潮騒があつた一戸塚美波子●いろは北海道一石井貞二●北海道文学散歩一洞爺湖一木原直彦●有島武郎晩年の一問題一高山亮二●北海道の朝団つくり一丸木喜三三●女子留学生かけある記一小松菜穂子●同人誌だより一てりま一朝夕野●風見鶏一山田昭夫一佐々木逸郎一草皆白影子一猪股孝一廣場一岩崎俊夫一中嶋英二●小説一凍った川一林茂一はらから一堺富市郎 命をかけて一辻村もと子

八月号(第二卷第七号) 19

●文学のなかの風土一「生れ出づる悩み」一有島武郎一「はたな」の季節におもう一木田文二(漁夫画家)より一八木義徳一足跡一漁夫一木田金次郎一黒百合会有島武郎一恩師一有島一武者小路の有島訪問●隨筆一名妓系八噺一越崎宗一「ゴゴリとトルスト

イが噂した話―朝谷歌三 上野山ふるさと  
と―上野山梅 山菜野草美味到来―伊藤利幸  
●ヨロップ無題旅行―八木保次・八木伸子  
●武田泰淳における「文化」―佐々木春  
北海道の劇団つくり十年―鈴木喜三夫・高橋和  
巴論―高野斗志美●刃影―須田禎一●詩・空  
腹な茶碗―永井浩●女子留学生かける記  
小松菜穂子―有珠―木原直彦●風見鶏  
道文学散歩―虹田・有珠―木原直彦●風見鶏  
―山田昭夫・佐々木逸郎・草皆白影子・猪股  
泰●同人誌だより「表現」―安東瑛二●広場  
伴田二・佐藤ジュンコ・山崎月城・藤井良  
蔵●小説・素肌と帽子―北沢輝明 安海修一  
との恋―川村慶子 命をかけて―辻村もと子

九月号(第二卷第八号) 20

●文学のなかの風土―「摩周湖」―八木義徳・  
八木義徳の「摩周湖」と私―更科源蔵・摩周  
湖余談―八木義徳●随筆・草むらの一本の杭  
―畔柳二美のこと―市来義弘 かつづける話  
―安東瑛二 遠岡栄治氏の死―工藤欣弥 島  
木健作の手紙―荒又重雄●島木健作登場の  
前後―森山啓●竹内好の位相―神谷忠孝●短  
歌・勇松原野―中山周二●女子留学生かける  
記―小松菜穂子●時代と文学研究をめぐる  
対話―助川徳是●刃影―須田禎一●風見鶏  
―山田昭夫・佐々木逸郎・草皆白影子・猪股泰  
●同人誌だより「北見文学」―菅原政雄●広  
場―渋谷美代子・青木高・高橋聡一郎は北  
海道―石井貞二●北海道文学散歩―伊達紋別  
―木原直彦●小説・歪曲―松居陽子 赤い靴  
―金子きみ 命をかけて―辻村もと子

十月号(第二卷第九号) 21

●文学のなかの風土―「石狩川」本庄陸男・  
本庄陸男の紙と紙・比類なき誠美―堀田昇一・  
文学碑に寄せて―山内壮夫●随筆・雑誌の魅  
力―常住郷太郎●端と私―萬田聡雄 ア  
メリカ珍道中―渡辺勝 かつづける話―安東

瑛二●啄木・その小説と短歌の問題―武井静  
夫●島木健作登場の前後―森山啓●北海道の  
劇団つくり十年―鈴木喜三夫●刃影―須田禎  
一●女子留学生かける記―小松菜穂子●い  
ろは北海道―石井貞二●北海道文学散歩―  
室蘭と独歩―木原直彦●風見鶏―山田昭夫・  
佐々木逸郎・草皆白影子・猪股泰●同人誌  
だより「冬濤」―吉沢進吉●小説・おそねり埴  
萬市郎 歳月の小車―倉島齊 命をかけて―  
辻村もと子

十一月号(第二卷第十号) 22

●随筆 吉川銀之丞のこと―高山亮一 ミュ  
ンヘンの町角―入院生 北海道と大衆文学  
―中村純三 花院 加清津 「ダイジョブ  
です」―竹岡和田男●島木健作登場の前後―  
森山啓●雅名齋三論―高野斗志美●刃影―須  
田禎一●いろは北海道―石井貞二●北海道文  
学散歩 室蘭と武部●木原直彦●同人誌だ  
より「弦」―木田錦一郎●広場―二十歳のみた  
北海道●風見鶏―山田昭夫 佐々木逸郎・草  
皆白影子・猪股泰●肢体不自由児とともに―  
紅林晃●或る戦中日記より―畔柳二美・  
中野武彦編●小説・ひとりの賑やかさ―中沢  
茂

十二月号(第二卷第十一号) 23

●随筆 荒廃 あれ北海道の犬養 処女出版  
の記―吉田博 あり北海道の大業―小野慶郎  
師走の所感―山口透 秋の色―樋口忠次郎  
●林●即全集 澤田誠一●檀一雄論―神谷忠  
孝●北海道のことばの一つ。無助詞表現―  
小野米一●夏目漱石と本籍 武井静夫●詩・  
夏の旅―橋場恒雄●肢体不自由児とともに―  
紅林晃●ペン談義 林谷一郎●刃影―須田  
禎一●いろは北海道―石井貞二●北海道文学  
散歩―善蔵と蘆花 木原直彦●風見鶏―山田  
昭夫・佐々木逸郎・猪股泰・草皆白影子●広  
場―山本英佐子・金崎一光・早坂絃司●同人

誌だより「裸族」―谷克彦●小説・雪の来る  
まで―上西晴治●或る戦中日記より―畔  
柳二美・中野武彦編

一九〇号

一月号(第三卷第一号) 24

●文学のなかの風土―「火山灰地」吉田隆  
子宛書簡より・火山灰地の踏む・火山灰地書  
簡集より―久保菜・墓碑の字―渡辺マサ●随  
筆・「ドクトル」アブラハム―は小熊秀雄か  
一佐藤喜二 伝説と近代性―金沢―札幌―宮  
下健三・ボスと名人―林白言 北海の千人隊  
―小野慶郎 自分を含めた周囲の動きにつ  
いて―細谷直二 デイラン・トーマスのあとを  
尋ねて―矢口以文 パチンコ―八重子抄―末武  
綾子●連作詩・羊たち―友田多喜雄●北海道  
文学散歩―室蘭―木原直彦●中野重治の「甲  
乙丙丁」―須田禎一●肢体不自由児ともに―  
紅林晃●いろは北海道―石井貞二●広場―  
山口桂子・藤井良蔵・平野和夫●同人誌だ  
より「人間像」―針山和美●風見鶏―山田昭夫・  
永井浩 木村敏男・増谷龍三●戯曲・ムッシュ  
S(七巻)―寺久保友哉●或る戦中日記よ  
り―畔柳二美・中野武彦編

二月号(第三卷第二号) 25

●「宣言」の人びと―福士貞吉●ポール・ニ  
サンの生涯―須田禎一●随筆 政治的発想  
―木野工 小樽と小樽商大―藤田勇 スキー雜  
感―瀬川良弘 Mのこと―森本光子 支部沈  
黙さんのご忠告―佐々木逸郎●竹内好と中  
野重治―神谷忠孝●北海道にて―ヤボネシ  
アのことなど―小笠原亮●いろは北海道―  
石井貞二●風見鶏―山田昭夫 永井浩・木村  
敏男・増谷龍三●北海道文学散歩―室蘭―木  
原直彦●同人誌だより「ユカリ」―遠藤忠  
男●広場―菊地喬・末武綾子 青木高●小説・  
掌の中につぶて―向井豊昭 霧の海―古宇伸  
太郎

三月号(第三卷第三号) 26

●随筆 記憶の島―吉村博任 無想庵の肉親  
―三島康七「采女」―女性史の蔭に泣いた  
名花―中村和夫 怠惰のすすめ―和田謹吾  
たんぼ―竹吉新一郎●随筆・ソルジェニツ  
の「煉獄のなかで」―須田禎一●川端康成点  
描―川嶋圭一●素木しづ子の手紙―林原耕  
三●素木しづ子書簡解説―山田昭夫●いろは  
北海道―石井貞二●肢体不自由児とともに―  
紅林晃●「ここがロドスだ、ここでとべ」―  
羽野隆●風見鶏―山田昭夫・永井浩・増谷龍  
三●木村敏男 同人誌だより「新創作」―早  
川平●広場 秋田紋作・山崎月城・中村幸次・  
枯木虎夫●或る戦中日記より―畔柳二美・  
中野武彦編●戦後思想のくぎり―坂本幸四  
郎●小説 北海岸―能登義明●戯曲・地の涯  
て―田中和夫●北海道文学散歩―室蘭―木原  
直彦

四月号(第三卷第四号) 27

●広津和郎先生の書翰―古宇伸太郎●随筆・  
「地肌ゆ」の原稿―木戸清平 歌に向う―本  
間富次郎 酔思 稲積文字 母こそとはの  
……―菱川善夫「素木しづ子白描」補訂―山  
田昭夫●川端康成点描―川嶋圭一●鳴海要吉の  
こと―柚木紫三●キリスト教思想のくぎり―  
坂本幸四郎●倉橋由美子論―高野斗志美●反  
面教師としてのベルジャエフ―須田禎一●  
マキアヴェリアの喜劇マンダラ―ゴラ―福本和  
夫●肢体不自由児とともに―紅林晃●或る  
戦中日記より―畔柳二美・中野武彦編●北  
海道文学散歩―室蘭―木原直彦●風見鶏―山  
田昭夫 永井浩・増谷龍三・木村敏男●小説・  
蜚気楼三題―中野美代子 三十五才―木宮節  
子 葬りのあと―菊池昭●広場 佐々木逸郎  
五月号(第三卷第五号) 28  
●随筆 日高山系の町―蝦名賢造 虚空一矢  
―芦田月 月が鏡であったなら―庄司きみの

短歌一宮の内一平「はっかいどう語二語」余話  
―大沢哲夫●広津和郎先生の書翰―古字仲太郎●幸田露伴―福本和夫●大杉栄と広津和郎  
●須田直一●キリスト教思想のくぎり―坂本幸四郎●川端康成点描―川嶋至●放体不自田  
児とともに―紅林晃●北海道文学散歩―空蘭  
●木原直彦●同人誌だより「留萌文学」―東  
野ひろ子●風見鶏―山田昭夫・永井浩・木村  
敏男・増谷龍三●小説・ゼノンの時計―中野  
美代子 時計―北野流

六月号(第三卷第六号) 29

●舞踊詩劇：白風の華―河部文一郎●随筆・  
「裏話」北海道「レゴン」―今田敬一 着色漫  
小野寺俊一 術士の毒性―富岡木之介  
キツツキの話―斎藤春雄 天予子報―宮崎芳  
男●倉橋由美子論―高野斗志美●川端康成点  
描―川嶋至●キリスト教思想のくぎり―椎名  
麟三について―坂本幸四郎●幸田露伴―福本  
和夫●ミュースとロゴス―須田直一●広津和  
郎先生の書翰―古字仲太郎●行程三〇〇k  
m―動く石狩川―NHK取材班●風見鶏―山  
田昭夫・増谷龍三・木村敏男・永井浩●北海  
道文学散歩―登別と有馬―木原直彦●小説・  
イヌガラシモドキ茂れる―菅原政雄

七月号(第三卷第七号) 30

●幸田露伴論―福本和夫●北海道にて―伊  
藤整文学碑―覚え書き―小笠原直●北海道文  
学散歩―登別―カルルス温泉―木原直彦●困  
難の自覚から―情報と状況論―亀井秀雄●キ  
リスト教思想のくぎり―笠原芳光について―  
坂本幸四郎●行程三〇〇k m―安瀬と濃  
屋探検記―NHK取材班●随筆・ある教会の  
歩み―幸四郎 地名の旅―赤木三兵 ガラ  
クタ愚き―萩原眞「薄野百年史」の資料か  
ら―脇智 伝説「堀辰雄のペレ」―小柳透  
小説「星座」の主人公―伊藤秀五郎●スペイ  
ン美術展を見て―須田直一●風見鶏―山田昭

夫・永井浩・久保田涼衣・木村隆●広場―大  
場豊吉・高橋明雄●小説・鳥―岩谷征捷 艦  
樓―木野工

八月号(第三卷第八号) 31

●批評の根拠―高野斗志美●幸田露伴論―福  
本和夫●北海道文学散歩―クッタラ湖―木原  
直彦●困難の自覚から―喪家の狗と主持者の  
狗と―亀井秀雄●血と汚物のなかのルネサ  
ンス―須田直一●文芸評論家の文章―中野  
美代子 行程三〇〇k m―熊と格闘して  
26ヶ所の怪我をした男―NHK取材班●情の  
色(三十句)―寺田京子●随筆・羊角―徳方  
牧之助 日夏生と私―伊藤整 私は通行人  
人であつた―佐野法幸 一つの石―小池暢子  
西脇さんについて―瀬戸哲郎●風見鶏―山田昭  
夫・木内進・久保田涼衣・木村隆●広場―長  
峰直子・山崎山城●戯曲・鯨人―中野美代子  
●小説・低い山―金子きみ

九月号(第三卷第九号) 32

●批評の根拠―高野斗志美●幸田露伴論―福  
本和夫●伊藤整の「街」と「村」―伍助沢から  
塩谷へ―野坂幸弘 有馬武部の農場への関心  
―高山亮一●北海道文学散歩―戦前の登別温  
泉―木原直彦●困難の自覚から―肉体和言葉  
―亀井秀雄●意識の捕縛を解こう―須田直一  
●行程三〇〇k m―新橋冬丸―NHK取材  
班●随筆・独り言―松村達雄 花巻のこと  
―加藤多一 回想去来―沙原聖子 私は通行人  
であつた―佐野法幸 サト・ポロの小さな星  
―助川徳晃●風見鶏―山田昭夫・木内進・久  
保田涼衣・木村隆●小説・太陽叩き―中沢茂  
何ほどのことでもない情景―小柳山博

十月号(第三卷第十号) 33

●アイヌ問題特集  
●座談会「現代においてアイヌ問題とは何か」  
―山川力 牧野法郎 藤本英夫・小笠原克・

澤田誠一●アンソロジー近代アイヌ文学三人  
集(復刻)―連星北斗集 パチエラー八重子集・  
森竹竹一集●私はアイヌだつた―戸塚美波  
子●「橋のない川」と私たちの求める道―向  
井喜美恵ももう一つの北方領土―藤本英

十一月号(第三卷第十号) 34

●北海道文学：私―伊藤整●思い出の伊藤  
整―更科源蔵●半世紀の回顧―田居尚●ゴロ  
ダの丘の回想―沢田斉一郎●随筆・伊藤整の  
素顔―田上義也●「若い詩人の肖像」のモデ  
ルたち―大西雄三●「椎の木」の頃の伊藤整  
―阿部保一「後志の文学」を發刊して―武井  
静夫●歌集「林檎の花」をめぐって―遠藤勝  
一から伊藤整へ―木原直彦から遠藤勝へ●伊  
藤整の漱石論―佐々木亮●詩の成立、散文の  
契機―野坂幸弘●私のなかの伊藤整・伊藤先  
生のことなど―小熊健吉 伊藤整の書翰―山  
崎月城 伊藤整に会えざるの記―宮野駿 伊  
藤整・その文学の歩みについて―早坂純司●困  
難の自覚から―事実と文体―亀井秀雄●秋四  
人―短歌―坪川美智子・吉田寿人・菅野美知  
子・宮崎芳男●東風と。西風―須田直一  
●飄流の記―佐々木冬●行程三〇〇k m

―カラフト引揚船納骨堂語―NHK取材班●  
風見鶏―山田昭夫・木内進・久保田涼衣・木  
村隆

十二月号(第三卷第十二号) 35

●批評の根拠―高野斗志美●幸田露伴論―福  
本和夫●北海道文学散歩―樽原山と苦小牧・  
木原直彦●或る戦中日誌より―畔柳二美  
●中野武彦編●思い出の伊藤整―更科源蔵●困  
難の自覚から―歴史と反歴史―亀井秀雄●行  
程三〇〇k m―サロベツの主―NHK取材  
班●随筆・先頭の雁―細谷源二追想―中村還  
一 北海道の旅―善蔵の跡を訪ねて―大森澄  
雄 或る教師の小説―坂本幸四郎 受賞して  
困ったこと―永井浩●風見鶏―山田昭夫・木  
内進・久保田涼衣・木村隆●広場―かとうろ  
ろし・宮原孝志●ユリリー・ターニエル「贖罪」  
―須田直一●「葦牙」―松井集・津田露木・藤  
田素月・佐々木子牙・高田仁 高田仁とあ女  
●小説・霧のエサオマントツタベツ―白戸仁  
康

(二九七年)

一月号(第四卷第一号) 36

●批評の根拠―高野斗志美●独歩と北海道  
―武井静夫●北海道にて―私のなかの「火山  
灰地」―小笠原克●伊藤整の「街」と「村」  
―「生物祭」まで―野坂幸弘●幸田露伴論―福  
本和夫●北海道文学散歩―支笏湖―木原直彦  
●詩・天使の時他―小松悠子●思い出の伊藤  
整―更科源蔵●行程三〇〇k m―消える町  
営軌道―NHK取材班●随筆・ある陶匠の家  
系―花田洋一 有馬さんの手紙―金野声影子  
襟窓布席覚書―吉田博 千歳空港を通る  
人達―秦敏夫 素顔の子母沢さん―栗賀大介  
鈴木三重吉の詫び状―本保真吉 函館にやっ  
てきた文学展―坂本幸四郎●李恢成―われら  
青春の途上にて―須田直一●「原始林」四  
人集・平松勲・三浦久子・山階美智子・佐藤

●風見鶏―山田昭夫・鶴川章子・宮田益子・平井さち子・広場―山崎月城・松本昭夫・高橋留治●小説・駁者―澤田誠一　みぞろる―一条宗生

二月号(第四卷第二号)　37

●北海道民衆精神史へのアプローチ―井上伝蔵を追いながら―森山軍治郎●有馬武郎の農場への関心―高山亮二●幸田露伴論―福本和夫●王国維とその死について―つとむ三島由紀夫論のために―中野実代子●伊藤整文―父・昌盛のために―武井静夫●伊藤整文の「街」と「村」―「馬喰の果て」―「石狩」など―野坂幸弘●旅の追憶―相良義重・中谷先生のこと―小林平八　今年の書店界―中村康一　知られざる追憶―水口幾代　亀井勝一郎と私―武田友寿　海と故郷について―柚木栗三●チエコフスカヤ―「廃屋」―須田眞一●思い出の伊藤整文―更科源蔵●風見鶏―山田昭夫・鶴川章子・宮田益子・平井さち子●行程三〇〇km―糸とほねつぎ―二人の名人―NHK取材班●小説・乙部岳―一原有徳

三月号(第四卷第三号)　38

●批評の根拠―三島由紀夫の死―高野斗志美●北海道民衆精神史へのアプローチ―井上伝蔵を追いながら―森山軍治郎●伊藤整文―佐助沢の思い出―武井静夫●伊藤整文の「街」と「村」―「浪の響きのなかで」の意味―野坂幸弘●幸田露伴論―福本和夫●北海道文学散歩―穂別と長見義三●木原直彦●思い出の伊藤整文―更科源蔵●詩・短い夏―萩原寛●茶焼斬書―勝又光男●随筆・寺田屋お登勢の写真―坂本直行「跣路現代文学選集」のこと―島原省三「奇妙な回想」について―木内進　廿年苦辛不尋常―回憶猪俣庄八大人●伊藤漱平　巴里と影―伏木田光　沖縄の民芸とユークラ織―木内アヤ　医師チエーホフ

山下秀之助●陸羯南の性モラル―須田眞一●「かざろひ」四人集・西勝洋一・煙山久仁子・木村隆・反悔陽子●風見鶏―山田昭夫・鶴川章子・宮田益子・平井さち子●行程三〇〇km―知床の山師―NHK取材班●小説・山あなとの空速く―木村不二男

四月号(第四卷第四号)　39

●北海道民衆精神史へのアプローチ―井上伝蔵を追いながら―森山軍治郎●伊藤整文の「街」と「村」―「幽鬼の街」と「青春」―野坂幸弘●伊藤整文―忍路郡塩谷村―武井静夫●藤村の「家」―因む妻家の人々―堺浩●幸田露伴論―福本和夫●有馬武郎の「殉教者」について―高山亮二●大衆文学の原点と飛翔―「荒唐無稽」の構造―北けんじ●作品・そのプーム―乳房プームの中城ふみ子●脇哲●北海道文学散歩―平取―木原直彦●思い出の伊藤整文―更科源蔵●往復書簡―差別・人種問題―神谷忠孝・阿尾時男●資本の論理●と言論の使命―須田眞一●水原帯(五人集)―鈴木光彦　深沢伸二・南利一・谷口重岐夫・河草之介●ヤリスナヤ・パリヤナを訪ねて―市原初男●随筆・徒引因の道路―西野辰吉　旅から―松島正幸　「売文と地方記者」生活の負目―昆崑　「売文」を語る資格―花崎翠平　春の流水―松川洋子　北海道美術についてという―匠秀夫　詩書の特集余話―高橋留治　メモランダム―宇治土公三●津子●行程三〇〇km―山岸会●その後―NHK取材班●風見鶏―山田昭夫・鶴川章子・宮田益子・平井さち子●広場―青木高●中村純子・安藤寛一・加藤七平・鈴木木●小説・午後の対話―松居陽子

五月号(第四卷第五号)　40

●北海道にて―北緯四十度圏文化のこと―小笠原亮●北海道民衆精神史へのアプローチ―井上伝蔵を追いながら―森山軍治郎●伊藤整文―明治の終り―武井静夫●大衆文学の原点と飛翔―白井喬二論―北けんじ●作品・そのプーム―ムード―広告の「挽歌」―脇哲●幸田露伴論―福本和夫●北海道文学散歩―新冠二ビホク―木原直彦●或る戦中日誌より―畔柳二美・中野武彦編●詩・吃りの鼻唄―江原光太●劇団民芸の「神の代理人」―須田眞一●随筆・別れた街―小樺から札幌へ―松尾正路　パトグラフィへの断想―三島寛　Qの風景―金沢隆志　札幌―その近代の古さ―桂川寛　POLIGNYの宿竹岡羊子・飛鳥をたずねて―大沢哲夫・「小熊秀雄詩集」刊行の周辺―谷口広志　江別高校裁判について―黒木伊藤三　三冊の本―八匠集　一　大月源二―榎木俊郎　「辛夷」五人集―塚越博一・後藤礼子・岡崎正之・嵯峨美津江・寺西百合●風見鶏―山田昭夫・鶴川章子・宮田益子・平井さち子●行程三〇〇km―働こう学ぼう運動―NHK取材班●広場―菊地喬●小説・音楽―工藤治治

六月号(第四卷第六号)　41

●自由民権と北海道―谷中から来た人たち―小池喜孝●有馬武郎の農場への関心―高山亮二●幸田露伴論―福本和夫●伊藤整文―少年の日々―武井静夫●大衆文学の原点と飛翔―「大菩薩峠」考―北けんじ●作品・そのプーム―女給プームの広域論―脇哲●北海道文学散歩―静内と牧場―木原直彦●私見・風俗としての新左翼―日高晋●七〇年代の長戦中日誌ランナーのための海図―松田潤●或る戦中日誌より―畔柳二美・中野武彦編●競争報道カメランと札幌市長選挙―岡村昭彦●随筆・切抜雑感―米坂ヒナリ　重友先生の新解釈―依谷敏昭　屯田兵の孫―島本純一●ラフカディオ・ヘルンの人間像―渡辺沢見わたくしの音楽散歩―「音楽書目録」のまえがきから―高橋留治　札幌展の縁―徳力牧之助　師恩―倉島齊●行程三〇〇km―魔の

黄金道路―NHK取材班●文学とジャーナリズムの間―須田眞一●「アカシヤ」五人集―岡澤康司・堤房子・吉田えいじ・市村正之・稲月登介●風見鶏―山田昭夫・鶴川章子・宮田益子・平井さち子●広場―佐藤玲子・山崎月城・松本昭夫●小説・僕の脳味噌は水っぽいか―小椋山博

七月号(第四卷第七号)　42

●自由民権と北海道―谷中から来た人たち―小池喜孝●北海道文学散歩―コロポックル(静内)―木原直彦●随筆・ゴロダの丘を訪ねて―瀬沼茂樹　「龍神に凝る」あとさき―川村慶子　歴史の不思議―小松宋輔●「いりかり」四人集―伊藤達朗・清水もも三吉りゅう・菅野正治●「摩羅湖」と「鳥」・獣・人間―須田眞一●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・細井剛一●工藤孝徳●小説・続・襤褸―木野工

八月号(第四卷第八号)　43

●自由民権と北海道―谷中から来た人たち―小池喜孝●幸田露伴論―福本和夫●有馬武郎の農場への関心―高山亮二●「掃部物語」との関連について―野坂幸弘●伊藤整文―立立小樽中学校―武井静夫●大衆文学の原点と飛翔―宿一飯の論理―北けんじ●作品・そのプーム―股染プームの長谷川伸一●北海道文学散歩―様似―襟裳町―木原直彦●随筆・本庄陸男における魑魅魍魎―布野采一　コマ山下の弁―「全通北海道文学」三〇号の歩み―山下和章　故友を懐く―九島勝太郎　幼子と謙近藤潤一　旭川文学学校のこと―前期を終講して―三好文夫●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・細井剛一●工藤孝徳●権力と言論―須田眞一●「石狩」五人集・大塚千々々・大龍雪雪・但野静耕・佐藤牧翠・長谷草石●行程三〇〇km―襟裳秘話―NHK取材班●小説・ある夏の行進曲

—金子きみ

九月号(第四卷第九号) 44

●安部公房「根木武揚」論 加藤牧子●自由民権と北海道―谷中から来た人たち―小池喜孝●幸田露伴論―福本和夫●伊藤整彦―北見杓吉との出会い―武井静夫●大衆文学の原点と飛翔―怨念の美学―北けんじ●作品、そのブーム。左膳ブーム。の林不忘―脇野智●有島武郎の農場に対する関心―高山亮二●北海道文学散歩―後志へ―木原直彦●尾屋庵記―加藤愛夫●随筆・反軍国主義の舟橋聖一―小田切秀雄 女のいない小説―鈴木重吉 蕎麦のみや―山根対助 私と本の話―下村文庫―下村保太郎 児童文学の姿勢―和田義雄 映画三里塚―野坂浩志「平将門」とアヅマ・エミシ―須田禎一●行程三〇〇km―馬の国・日高―NHK取材班●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・細井剛・工藤孝徳●人集 増谷龍三・堀井美鶴・鈴木杜世春・松川洋子●小説・火の夏―澤田誠一

十月号(第四卷第十号) 45

●自由民権と北海道―谷中から来た人たち―小池喜孝●幸田露伴論―福本和夫●有島武郎の農場に対する関心―高山亮二●作品、そのブーム。愛染ブームの川口松太郎―脇野智●伊藤整彦―短歌との別れ―武井静夫●北海道文学散歩―羊蹄山と有島農場(上)―木原直彦―尾屋庵記―加藤愛夫●尾瀬・大雪山●知里―須田禎一●「流水」五人集―大網比紗・鶴島とく・折原さえ女・高橋一郎・多田文男●随筆・八・一五―麥川善夫 開拓婦人文集―拓土は笑りての発刊について―田中忠義 鳴海家をたずね―高橋明雄 山ホップ―森義忠 若き日の加藤愛夫―枯木虎夫 雄々峯―小松茂●広場―中西由多嘉・山本美佐子―山崎月城●風見鶏―山田昭夫・

友田多喜雄・細井剛・工藤孝徳●小説・祝生の学校―向井豊昭●連載小説・火の夏―澤田誠一

十一月号(第四卷第十一号) 46

特集 伊藤信二一人と作品  
●伊藤信二のこと―中野重治●「伊藤信二集」刊行計画当時のこと―風間六三●小林多喜二と風間六三―笠井清●伊藤信二略伝●伊藤信二作品集 死 反戦小説について 北海道通信 評説―冬しのぶ 小説・ゴモの遺族―作品の解説―風間六三 伊藤信二書簡―書簡への注―風間六三●自由民権と北海道―谷中から来た人たち―小池喜孝●伊藤整彦―緑丘の教師たち―武井静夫●北海道文学散歩―羊蹄山と有島農場(下)―木原直彦●或る戦中日誌より―畔柳二美・中野武彦編●随筆・自費出版やりくり帖―宮の内一平 麗女―のシムーズ―井上芳枝「偶感」―藪枝子 最後の梅田事件―林白言●網走のベン・層雲峡のベン―須田禎一●第一回北海道文学まつりに参加して―富岡木之介●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・細井剛・工藤孝徳●連載小説・火の夏―澤田誠一

十二月号(第四卷第十二号) 47

●自由民権と北海道―谷中から来た人たち―小池喜孝●開高健論―登川正雄●幸田露伴論―福本和夫●有島武郎の農場に対する関心―高山亮二●作品、そのブーム。君の名はブームの菊田一夫―脇野智●北海道文学散歩―畔柳二美(姉妹)と狩太―木原直彦●随筆・歴史小品―東北地方の独自の歴史―山崎謙 北海道新聞学賞を受けて―木野工 宮田益子 くれんのこと―新川ひろ子 おとなしうでね 蔵●兄兄弟の受書―須田禎一●ガムナー五人集―草野白影子・鈴木恭三・平野謙三・加川憲一・齋藤茂●広場 丸野澄江・遠藤孝志●

風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・細井剛・工藤孝徳●小説・夢の中央―菅原政雄 更けゆく秋の夜―伊藤桂子●連載小説・火の夏―澤田誠一

一九七七年

一月号(第五卷第一号) 48

新春小説特集  
●亀井勝太郎私論―亀井勝太郎と北海道―武田友寿●伊藤整彦―北国の乙女たち―武井静夫●作品、そのブーム。よろめき。の丹羽友雄―脇野智●北海道文学散歩―ニセコアンヌブリー―木原直彦●金田一京助博士の死―藤本三英夫●詩―幻想海峡―塩谷辰昭●森本三三●随筆・妙な記憶の後日譚―竹内好 創設期の札幌の音楽―村井満寿 シベリアの民話―米内哲雄 志賀直哉先生を思ふ―高橋留治 ●精神安定剤と脳手術―須田禎一●「青空」四人集―鶴谷忠恭・古川輝子・巖光任・大島やえ●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄 田村哲三・土岐鍊太郎●小説 風の道―藤沢阿以三 一回復刊―工藤治子●連載小説・火の夏―澤田誠一

二月号(第五卷第二号) 49

アイヌ問題特集  
●アイヌアナクネビリカ―知里真志保の残したノート―萩中実志●馬沢佐美夫 抵抗の論理―須貝光夫●アイヌ問題に思う―成田得平 ●青っていくウタリ―伊藤明●往時のアイヌと現代―荒井源次郎 この「日本」に(異族)として―佐々木昌雄 ●Aさんへ―戸塚美波子 ●雪虫の次は雪―川桐節子 ●心の傷―安田曜子 ●一つの経験―岩瀬ミチ子 ●差別がある」といふことから―井下律子 ●離れへの断片的提唱―最愛なる父に贈る―大橋雅信 ●抱卵にしんをとるな―朝谷歌三 ●北海道文学散歩―半月湖と林英美子―木原直彦●召命のなかに生きた人―須田禎一●風見鶏―山田昭夫

夫 友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●広場―青木高●連載小説・シャクシャインが哭く―三好丈夫・火の夏―澤田誠一

三月号(第五卷第三号) 50

北方文芸第50号記念号  
●文学の風土性―北方文芸第50号への言葉 ●荒正人 船山馨 ●工藤敏弥 篠田一士 ●富士正晴 一色彰 ●徳力牧之助 磯田光一 ●五十嵐二郎 吉田精一 ●木野工 小川国夫 ●無木精之 金子きみ ●竹内好 山下秀之助 ●荒成恭基 山川力 ●西野辰吉 佐藤喜一 ●和田謹吾 ●和田芳恵 川副国基 ●風山辰生 ●寺久保友史 ●田原高 ●久保正文 駒田茂二 ●佐々木基一 ●田居尚 ●伊藤斗志美 ●中沢茂 八木義徳 ●木村不二男 ●野藤吉吉 ●創造の環(同人誌へのアンケート) 文芸おとけ 文芸道場 南風 日高文芸 人間像 室蘭文学 北象文学 あすら 第一形態 狼煙 楡 文芸北見 札幌文学 柏友文学 文芸北国 修羅 全通北海道文学 鋼路春秋 市民文芸 国鉄文学 室蘭市民文芸 文学会議 いぶり文芸云々 いろいろ 北見文学 座談会 花が北海道―小林金三 坂本直行 林白言 花崎翠平 藤本英夫 小笠原克●小説 民俗紀行―更科源蔵●亀井剛私論―青春の記憶 武田友寿●八木義徳の出版記念会―野口富士男 悲劇的精神―福本和夫 ●この山田禎一 ●評伝 福本和夫 ●伊藤整彦―武井静夫 ●行程三〇〇km―幻の観光地―NHK取材班●郭沫若史劇のヒロイン―須田禎一 ●北海道文学散歩―俱知安―木原直彦●広場―熊谷真紀子・石塚邦男●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●小説・ヤインC3の事情―森義忠●連載小説・シャクシャインが哭く―三好丈夫 火の夏―澤田誠一 ●北方文芸誌目次

四月号(第五卷第四号) 51

●北海道民衆精神史へのアプローチ―無名開拓者の自叙伝から―森山軍治郎●亀井勝一郎私論―昭和の青春―武田友寿●「えごう」五人集―久保洋吉・荒川楓谷・鈴木光吉・浦生貨車夫・越前湖歌●帝國ホテル・ケルールの思い出―浅利流を痛惜する―須田禎一●北海道文学散歩―東根知安行―木原直彦●随筆・思い出の人―大場利夫 自然と環境(札幌)―笠井清 石狩平原の手紙―枯木虎夫 私の軽井澤―伊藤俊夫●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●小説・民俗紀行―マタギ部落―更科源蔵●連載小説「火の夏」澤田誠一 シヤクシャインが哭く―三好文夫

五月号(第五卷五号) 52

●小説・民俗紀行―かくれ切符丹―更科源蔵●坂本直寛の「北海道の発達」について―小池創造●「海鳴」四人集―北見恂吉・井島延治・片山栄志・土井利子●ト(うらない師)と祝(ねぎ)のあいだ―道化役者にはなりたくない―須田禎一●北海道民衆精神史へのアプローチ―無名開拓者の自叙伝から―森山軍治郎●行程三〇〇km―戸井軍用線始末記―NHK取材班●北海道文学散歩―小沢から岩内へ―木原直彦●随筆・ロウ製型作雑感―水坂ヒデノリ ある種の老境―小野規矩夫 ペッドの恐怖―一原有徳 優雅な生活―東野ひろ子●「更科会」のこゝろ―更科源蔵●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●広場―寺島珠雄・秋田紋作●連載小説・シヤクシャインが哭く―三好文夫 火の夏―澤田誠一

六月号(第五卷第六号) 53

●亀井勝一郎私論―統・昭和の青春―武田友寿●小説・民俗紀行―猿を記る谷―更科源蔵●北海道民衆精神史へのアプローチ―原始の

森の中から―森山軍治郎●北海道文学散歩―岩内―木原直彦●随筆・日本で一番小さな市―岩瀧啓介 八木義徳さんに寄せる―谷口達三 帆上岩波 三不の運動も辞さず―歴史の少年 軀車かららの栄光―坂本幸四郎●過去の偽作と未来の偽造―須田禎一●広場―中田宏二郎●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●連載小説・シヤクシャインが哭く―三好文夫 火の夏―澤田誠一

七月号(第五卷第七号) 54

●小樽にて―小林多喜二の思い出―風間六三●家族の詩―枯木虎夫●小説・民俗紀行―ミイラの寺―更科源蔵●伊藤俊彦―小樽市中学校―武井静夫●北海道民衆精神史へのアプローチ―原始の森の中から―森山軍治郎●蘇漢は静者なり―八世紀の人民詩人。について―須田禎一●随筆・夏期大学の追憶―越崎宗一 凄まじい古都―小柳透 雑司ヶ谷の頃―田中孝 奥尻島の春―堀真 「71札幌芸術文化年鑑」のこと―佐藤庫之介●北海道文学散歩―雷電―木原直彦●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・土岐鍊太郎・田村哲三●連載小説・シヤクシャインが哭く―三好文夫

八月号(第五卷第八号) 55

●亀井勝一郎私論―民衆の中へ―武田友寿●小説・民俗紀行―伝説の影―更科源蔵●北海道民衆精神史へのアプローチ―鯉文化を求めて―森山軍治郎●「青女」五人集 三言 杜秋・玉手北巻・小林閑東端・木村あさ・木村東郎●権力を告発しよう―小池喜寿「谷中から来た人たち」を読んで―須田禎一●北海道文学散歩―漁夫画家―岩内―木原直彦●随筆・短編集―落葉―出版の途―兄弟山三郎 徐君兄弟を慕おう―北海道徐君兄弟を敬う

学まつり(二)案内

九月号(第五卷第九号) 56  
●鳩沢佐美夫―文学の原点 須貝光夫●小説・民俗紀行―渡路の霧―更科源蔵●伊藤整伝―「雪明りの路」の出版―武井静夫●キム・ジハの詩に思う―須田禎一●北海道文学散歩―稗歌―木原直彦●随筆 箴言歌舞伎のこと―菅村敬次郎・田村哲三●北海道文学散歩―二題(猿の腰掛・橋―阿部みどり)女 たんぽの頃―西條正人●西田信春日記●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●広場―妻木勝義●小説 病める愛―工藤治子

十月号(第五卷第十号) 57

●亀井勝一郎私論―閉ざされた歲月―武田友寿●北海道にて―アイヌと云ふ新しくよい概念―小笠原克●小説・民俗紀行―巫女考―更科源蔵●北の詩(その散筆的叙情の行方)―高橋愁●オリンピック精神への疑義―須田禎一●西田信春日記―手記(党杉本良吉と私)―風間六三●北海道文学散歩―東根知安行―木原直彦●随筆・ランボウ異変―夏雲の手術―松尾正路 シヤクシャインの絵―伊坂重孝 エゾニウと何となく―加藤多一 旅・あれこれ―桜井勝美 北の人―外山滋比古●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●広場―菊地喬●小説 奢りの夏―佐藤泰志

十一月号(第五卷第十一号) 58

現代女流詩人特集  
●歴談会●北の詩―その女流の系譜―淺沼君子・小松瑛子・北浦淳子・中田美恵子・小田幸枝・佐々木逸郎・友田多喜雄●アンソロジー―竹内てるよ・中島美那子・左川ちか●現代女流詩人作品抄―館美保子・三谷木の実・村田和歌子・羽田野幸子・桑門津欄子・花村小夜子・渋谷美代子・林美脈子・高橋明子●黒

い天鷲織の天使―左川ちか小伝―小松瑛子●随筆・北に開いた窓―川田靖子「木暮」の頃―福島穂穂 女の詩―鶴川章子 更科葉那子さんのこと―貞盛仁●「わたしの詩」に寄せて―小谷川俊太郎―片岡潤之助  
●「わたしの詩」七人集―室住素子 小助川イシ・平松さな子・寺西正子・堀美弥子・丸山ハナ・篠原悠子●地図を歩く―コムケトの晩夏―堀淳一●伊藤整伝―上京への夢―武井静夫●西田信春日記(シヤクシャイン 攪乱屋)―本多勝一●わが胸の燃ゆる思い―須田禎一●北海道文学散歩―余市と露伴―木原直彦●第二回北海道学まつりに参加して―坂本幸四郎●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●小説 蛸沼の話―北澤輝明

十二月号(第五卷第十二号) 59

●ある文学的出発―「驢馬」―1959  
●杉野要吉●中野重治との関連で―杉野要吉●亀井勝一郎私論―故郷哀歌―武田友寿●行程三〇〇km―北海少年九―NHK取材班●西田信春日記―時の敗者マクガバン―須田禎一●北海道文学散歩―余市のまち―木原直彦●随筆 西田信春君を懐く―鈴木孝二 ヤツメウナギ―山本武雄 二つのいのち―篠原邦幸 わけのわからないもの文化―荒巻義雄 本の雑談―伊藤利孝●風見鶏―山田昭夫・友田多喜雄・田村哲三・土岐鍊太郎●広場 山崎月城・尾藤哲男●パリにて―小池珠子●小説 海胆市八月叙景―中沢 鍵の調べ―川村慶子

(一九七三年) 60

一月号(第六卷第一号)  
●カムイの森で―萩原實●伊藤整伝―父昌盛の死 武井静夫●地図を歩く―堀淳一●美と真実と人民と―富山妙子「わたしの解放」を読む―須田禎一●北海道文学散歩―余市と北斗木原直彦●随筆 夢の話―三浦綾子 声

と文学―進藤紫 いのちの炎―土林献夫●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●広場・安藤徳一・青木高・平野和夫●小説・悪夢―藤沢阿以三 時の舞い―土屋祝郎

二月号(第六卷第二号) 61

●地図を歩く―堀淳一●行程三〇〇km―松前の人買い―NHK取材班●深い霧のなかに―ノッペラボウの列島にあつて―須田禎一●絵本づくり―花田弥一●随筆・ある私信―花崎卓平。えぞキリシタン。の刊行を了するまで―水田富智「ムツシユ・S」の公演を終えて―寺久保友哉。大雪山縦貫道路について―坂本直行●北海道文学散歩―伊藤整と塩谷●木原直彦●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●小説・顔は花園のなかに―所雅彦 時の舞い―土屋祝郎

三月号(第六卷第三号) 62

●小田親堂歌集抄―作品六十首●小田親堂論(鷹の悲劇)●蔦川善三●世界のふるさと。ペトナム―伊藤吉紀●亀井勝一郎私論―文字の回復―武田友寿●地図を歩く―堀淳一●犯人の妻い―あらず―須田禎一●北海道文学散歩―小梅と啄木―木原直彦●本のプロムナード―物の見えたる―随筆・気になると―和田謙吾。ウタリと云うことばの概念―牧野法郎 怪部滞在記―小林金三「おやら新書」のこと―和田義雄●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●小説・三つの骨壺―山形敏男 時の舞い―土屋祝郎

四月号(第六卷第四号) 63

●世界のふに現われた自然保護論―木越富士彦●世界を歩く―堀淳一●伊藤吉紀●地図を歩く―堀淳一●亀井勝一郎私論―政治と文学のあいだ―武田友寿●行程三〇〇km―山津波のあと―NHK取材班●民族の虚

像と実像―須田禎一●北海道文学散歩―明治の小梅―木原直彦●随筆・中学生の西山信春と私―石井圭吾夫。親堂先生を憶う―菱川六郎●フンチャック時の現代文 松子きみ 佐々木城佑氏のこと―木村真佐雄 金子さく 中記―田中彰●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●本のプロムナード―日本へ架けた橋●小説・雨音―小松茂 時の舞い―土屋祝郎

五月号(第六卷第五号) 64

●愛のうた―友成への抒情詩―友田多喜雄●炭鉱長屋の現代史―森山軍治郎●故・冬花亭先生―高橋留翠●地図を歩く―堀淳一●世界のふるさと。ペトナム―伊藤吉紀●文学に現われた自然保護論―木越富士彦●権力・半権力・権力きらい―須田禎一●北海道文学散歩―描かれた明治の小梅―木原直彦●随筆・林橋の花―川並秀雄 久保栄研究会に参加して―今野聰 古宇伸太郎のこと―笠井清 南チロルに娘を育てるの記―小松伸六●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●本のプロムナード―「北国抄」●小説・箱の中で―山形敏男

六月号(第六卷第六号) 65

●続・民俗紀行―佐渡のトンチボ―更科源藏●アイヌと(日本)の中でるとき―平村芳美●炭鉱長屋の現代史―森山軍治郎●文学に現われた自然保護論―木越富士彦●世界のふるさと。ペトナム―伊藤吉紀●地図を歩く―堀淳一●阿部知二さんのこと―須田禎一●北海道文学散歩―小林多喜二と小梅―木原直彦●随筆・漱石と岩内―穴倉升夫「六歌山」など―山下秀恵●ご好意―阿部信流の川下村保太郎。ご好意―感謝―阿部信流の川下村保太郎・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●広場―菊地喬●本のプロムナード―わたしの解放―小説・わらわ人形―松居陽子

七月号(第六卷第七号) 66

●(家)のたなかい―有島武郎「親子」再論―高山亮二●詩―一九七三年ある日ある時に―戸塚美波子●続・民俗紀行―共産部落―更科源藏に現われた自然保護論―木越富士彦●世界のふるさと。ペトナム―伊藤吉紀●地図を歩く―堀淳一●わがアルト・ハイデルベルヒ―須田禎一●北海道文学散歩―多喜二のなかに小梅―木原直彦●随筆・北海道の旅―川口昌男 三岸好太郎と新善光寺附近の思い出―数納清 劇史稿」の奨め―佐藤藤之介●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●本のプロムナード―雪国のいもうと―小説・闇の中(田面守夫)―浅野太市

八月号(第六卷第八号) 67

●遺恨―ふるさとの味―北方持清(私の道)―赤い風。わるい風。手術後遺症。水の海を―魔女を狩る仮面(須の国)エザビロツチ。暗い歌(独夜)神歌。少年。斜面 凶象)「死の毒の満つる火の舌」(七)の章 終りなき途上)いびつな球体のしめつぽい一部分(指)手。耳。頭。胃「美しい死への憧憬」(夜の航海)拾遺詩篇。山湖幻想 人間モドキ。雪女郎。詩論。論理定型。大鳥栄三郎略年譜。覚え書。友田多喜雄。いびつな球体のしめつぽい一部分。序。安部公房。エザビロツチの肖像。千葉治平。見ることへの渴き―藤川益明。大鳥栄三郎の詩と死―斎藤邦男。我れ折リヲマノ前二注ガシ。大鳥栄三郎の霊位に捧げるパニエ。鷲巢繁明●長い友情の終り―栗橋健一●炭鉱長屋の現代史―森山軍治郎●地図を歩く―堀淳一●尾崎秀実さんをめぐって―須田禎一●北海道文学散歩―岡田三郎と小梅―木原直彦●本のプロムナード―わが谷は緑なりき●随筆・恍惚

のモムト―脇田勇 資料と記念史―安藤鉄夫。オナチと鬼。高野斗志美●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●小説・猫と片栗。川村慶子

九月号(第六卷第九号) 68

●吉田一穂書簡集―更科源藏宛●お真さんのこと―武井勝夫●続・民俗紀行―女性信仰―更科源藏●亀井勝一郎私論―文芸復興記への序章―武田友寿●文学に現われた自然保護論―木越富士彦●世界のふるさと。ペトナム―伊藤吉紀●行程三〇〇km―町の名目―NHK取材班●地図を歩く―堀淳一●大杉先生五(周回)―須田禎一●随筆・花壇―小野連司「の岬」の種内―山下和夫。セールのスマン先生。横田庄八。北海道と藤村―堺浩●風見鶏・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝●北海道文学散歩―若い詩人の肖像(伊藤整)―木原直彦●本のプロムナード―かくれた次元●広場―相田忠朗。片岡みほ子●北海道文学まつり(第三庄)●案内●小説・兎―佐藤泰志 裏窓。三河登久

十月号(第六卷第十号) 69

●特集久保栄 ●戯曲(林橋園日記(四幕)「林橋園日記」の問題)●小笠原克●地図を歩く―堀淳一●世界のふるさと。ペトナム―伊藤吉紀●続・民俗紀行―狐火。更科源藏●VETO(拒否)の精神―須田禎一●北海道文学散歩―小梅の港―木原直彦●本のプロムナード―コタンに死す―随筆二礼帳を新制したこと―佐々木逸郎 畷々たる絶壁―坂内弘治 人と北方方言―白坂恵子。金詰佑さんのこと―谷川絵伊子●風見鶏―山田昭夫・笠井嗣夫・水口幾代・金崎茂枝



矢口以文・水口幾代・齋藤玄●小説「停留所」前の家「寺久保友哉」

九月号(第七卷第九号) 80

●座談会「東欧・北欧(その民族と文化)」を巡つて―高倉新一郎・東村源藏・澤田誠●韓国と日本の狭間の中で―在日韓国人への差別構造―李炳水●現代の神々―尹鐘士・山根泰輔●北海道文学散歩―厚田一寛・樫石 沈黙―木原直彦●刃影―われわれは再び裏切りをしてはならぬ●随筆「エス・ベラント」という理想―向井豊昭 女らしさ、真実らしさ、など―松尾正路 よみがえる名画―水路毛五郎「猪狩満直の詩」佐藤久弥●風見鶏・結城遠一●矢口以文・水口幾代・齋藤玄●小説「白い街」―宮川乃乃

十月号(第七卷第十号) 81

●復刻・小説「熊の澤石灰山の報告」―満州慰問隊「歓迎会」評論―室谷邦夷宛 解説「脇智」●オホーツクの少年―本庄陸男・松田貞夫●武田泰淳論への試み―序・「因縁(せしん)とく」する世界―小笠原克彦●父と開拓の日本―福田の中で―李炳水●現代の神々―銀行―山根泰輔●北海道文学散歩―石狩の野牛―原直彦●刃影―回遊族の語録より●随筆「カワセミのこと」―新妻博 薔薇の花東「樫谷美枝子」列車の中で―森本等 加藤さんの文学碑―田中北斗 遠い人たち―高橋栞一郎●風見鶏・結城遠一 矢口以文・水口幾代・齋藤玄●小説「乞食月憐」寺久保友哉

十一月号(第七卷第十一号) 82

●武田泰淳論への試み「兎のすゝ」その戦後(への上陸)―小笠原克彦●現代の神々―新聞―山根泰輔●韓国と日本の狭間の中で―在日

韓国人への差別構造―李炳水●北海道文学散歩―野賊と「のぼり窓」―木原直彦●刃影―ながれからを怒らせたのであろうか●随筆「ある人」のころざし―西田信春と伊東三郎のこと―吉倉伸「マイクのような鬚をり」―土上寛にせて―浅野明信 女流文学展の裏方―小松英一●風見鶏・結城遠一 矢口以文・水口幾代 齋藤玄●「ローカル」の充滿―第四回「北海道文学まつり」の記―多川建●小説「朝の微笑」佐藤泰志 父の遺したもの一木宮節子

十二月号(第七卷第十二号) 83

●私の「文章世界」時代―森川舟三●武田泰淳論への試み―北海道・その表現世界の契機―小笠原克彦●現代の神々―大学教授―山根泰輔●北海道文学散歩―辻村もと子「馬追原野」―木原直彦●刃影「今太閤が現代を笑う」とはす喜劇性●随筆「一人暮らし」寺田京子 ある評計「脇智」ことしの秋の私の旅―下村保太郎●風見鶏・結城遠一 矢口以文・水口幾代 齋藤玄●小説「ローカル線」寺久保友哉 汽車に乗つて―椎野萌

(一九七五年)

一月号(第八卷第一号) 84

●小林多喜二「東知安行」の位相について―高山亮二●散文詩「シベリアの旅」東村源藏●自治の故郷はいずこに―フランク・田舎放浪記―森山軍治郎●歌詠「蝦夷錦」のこと―越崎宗一●北海道文学散歩―岩見沢「もと子」善藏、武羅夫―木原直彦●刃影「庶民の五十年」天皇の五十年……●随筆「んぼの会」坂本一亀 雪の余白に―工藤正広 演劇空間の底―梅津清●風見鶏・結城遠一 工藤正広 鈴木杜世春●川端麟太●小説「せめて着せたまへ」澤田誠一 お多福風邪―畔柳二美

二月号(第八卷第二号) 85

●愛の護面―大沼スミ●自治の故郷はいずこに―フランク・田舎放浪記―森山軍治郎●武田泰淳論への試み「ひかりこけ」―暗冥の「マツカウシ」洞窟へ―小笠原克彦●北海道文学散歩―岩見沢と中村武羅夫―木原直彦●刃影―拝啓日本帝国臣民殿●随筆「芸術・文学と地方自治」五十嵐広三 六十年目に再会した少年―山本武雄 三島由紀夫氏とノーベル文学賞―石川巖●気まくれ四四百二十軒―小柳透●風見鶏・結城遠一 工藤正広 鈴木杜世春 川端麟太●小説「死者たちのための連祷」菊池昭 昏い街角―野馬千恵子

三月号(第八卷第三号) 86

●伝蔵と森蔵―秩父事件の潜行者―伝蔵のころ―小池喜孝●物理の世界を散歩する―次元移行―田中一●北海道新聞界の足跡―生成とその傾向―佐藤忠雄●武田泰淳論への試み―「ひかりこけ」暗冥の「マツカウシ」洞窟へ―小笠原克彦●自治の故郷はいずこに―フランク・田舎放浪記―森山軍治郎●北海道文学散歩―武羅夫「北海道文学」代用教員―木原直彦●刃影「新聞いびり」はおやめなさい●随筆「樺太文学の系譜」木全圓壽 ゆすった署名本―金坂吉良 録音資料のこと―谷本一 学術・芸術・文学と地方自治―五十嵐広三●風見鶏・結城遠一 工藤正広 鈴木杜世春 川端麟太●小説「香水」木宮節子 朝の馬槽―坂井悦子

四月号(第八卷第四号) 87

●フロンテンの月蝕―佐山俊●伝蔵と森蔵―秩父事件の潜行者―二つの伝蔵伝説―小池喜孝●自治の故郷はいずこに―フランク・田舎放浪記―森山軍治郎●ふきこのう文庫「重度子」身障児に本を説ませたい―小林静江●北海道新聞界の足跡―函館の新聞と新聞人―佐藤忠雄●或る戦中日誌。より―畔柳二美・中

野武修輔●北海道文学散歩―本庄陸男「石狩川」―木原直彦●刃影「革新とはなんなる抽象論ではない」山川力●随筆「雪の降る日」加清爾 立春雄飛 米坂ヒデノリ 同人雑誌のことなど 登川正雄●北海道文学散歩―藤本英夫 とうもろこしという名前―日高晋●風見鶏・結城遠一 工藤正広 鈴木杜世春 川端麟太●小説「お遍路の来る町」深谷禎子

五月号(第八卷第五号) 88

●武田泰淳論への試み「ひかりこけ」―暗冥の「マツカウシ」洞窟へ―小笠原克彦●自治の故郷はいずこに―フランク・田舎放浪記―森山軍治郎●伝蔵と森蔵―秩父事件の潜行者―森蔵の足跡―小池喜孝●物理の世界を散歩する―時間―田中一●北海道新聞界の足跡―北海タイムス・小樽新聞の経営陣―佐藤忠雄●北海道文学散歩―文学碑「石狩川」―木原直彦●刃影「三十年過ぎて」アジアにおいては「ま……山川力●随筆「かたかこの花」水島義治 原始回帰のころ―宮田久 回想のインパクト―田中祥三 どれんこの太陽たち―篠原邦幸 伊賀上野の旅―森本三郎●風見鶏・結城遠一 工藤正広 鈴木杜世春 川端麟太●小説「外燈の雪」小樽山博 雑司ヶ谷墓地―北野沈

六月号(第八卷第六号) 89

●八咫鳥事件―森蔵の勝男●伝蔵と森蔵―秩父事件の潜行者―谷川勝彦●小池喜孝●北海道新聞界の足跡―北海タイムス・小樽新聞の異色記者―佐藤忠雄●北海道文学散歩―樺戸監獄―木原直彦●刃影「ネバールとタイ」この目で見た―山川力●随筆「大きい頭」大きい眼―日塔聰 寛容に肩をすくめる―脇田勇 ティール・スビーチー長谷川喜彦●風見鶏・結城遠一 工藤正広 鈴木杜世春 川端麟太●小説「花選る日」一條宗生

七月号(第八卷第七号) 90

●私のヒマラヤ記(1926年) ●自治の故郷はいづこにーフランス田舎放浪記ー森山軍治郎 ●伝蔵と森蔵ー秩父事件の潜行者ー森蔵の足跡ー小池喜孝 ●物理の世界を散歩するー正確に知るこゝ田中一 ●澤田誠一(北の夏)に寄せてー野間宏・八木義徳 ●北海道文学散歩ー北村智恵子(「防雪林」)ー木原直彦 ●刃影ー二風谷を書いた対照的な二書ー山川力 ●随筆・うまい酒がのみたいー茅野春雄 ●美利河温泉ー藤川益明 ●雀の顔・人間の顔・木の顔ー佐藤庫之介 ●風見鶏ー結城遠一 ●谷川俊伊子・永平利夫・進藤紫 ●小説・団楽・倉馬齊

八月号(第八卷第八号) 91

●いの中のテキストー鷗巣繁男詩集(記憶の書)ー工藤正広 ●半蔵抄ー水口幾代 ●私のヒマラヤ記ー続(1926年) ●伝蔵と森蔵ー秩父事件の潜行者ーアイヌ人との連帯 ●小池喜孝 ●フランス田舎放浪記ーワゴン色の町と辺境の星ー森山軍治郎 ●北海道新聞界足跡ー札幌の群小紙に活躍した新聞人ー佐藤忠雄 ●北海道文学散歩ー札幌内・市采知・幾春別 ●木原直彦 ●刃影ーいびせせことよー山川力 ●随筆・するこがなひー加藤多一 ●私一自黒土門 ●風見鶏ー結城遠一 ●谷川俊伊子・永平利夫・進藤紫 ●小説・スパコイノイノイー一夜の瀬音ー小松茂

九月号(第八卷第九号) 92

●武田泰淳論(その試み)ーひかりこけー「暗冥の(マッ)カウシ洞窟」へー小笠原亮 ●伝蔵と森蔵ー秩父事件の潜行者ー森蔵の里がえり ●小池喜孝 ●フランス田舎放浪記ーサン・カンタンの鐘ー森山軍治郎 ●物理の世界を散歩するーちくはくの世界ー田中一 ●北海道新聞界の足跡ー地方小都市の新聞活動ー佐藤忠雄 ●北海道文学散歩ー美唄のヤマー木原直彦 ●

刃影ー海洋博よ、ウチナーンチユをうららるるなー山川力 ●随筆・風土のはなしー本郷新九十九折のこゝろ勝玄夫 ●遣うんだよな、民主主義ー外山欽平 ●文学展のこゝろ三浦俊彦 ●風見鶏ー結城遠一 ●谷川俊伊子・永平利夫・進藤紫 ●小説・胸すもうー寺久保友哉 ●霊園前記にてー澤田誠一

十月号(第八卷第十号) 93

●離島の老女たちーサキ婆さんのことー高橋三枝子 ●オホトクツクの夏の日にてー本庄隆男 ●三十七回忌ー松田貞夫 ●詩・石狩河口ー海上の太陽ー阿部保 ●伝蔵と森蔵ー秩父事件の潜行者ー森蔵の里がえり ●小池喜孝 ●北海道文学史ー明治編一に寄せてー八木義徳 ●加藤愛夫 ●本誌百号記念(北方文芸賞)作品募集 ●北海道文学散歩ー砂川と独歩ー木原直彦 ●刃影ーあ、アメリカとともに三十年ー山川力 ●随筆・北海道 移住せーというこー蓮池悦子 ●朝鮮語をひびかせることの意味ー江原光太 ●三年目ー徳力牧之助 ●曜日(の吉凶)ー阿部謹也 ●風見鶏ー結城遠一 ●谷川俊伊子・永平利夫・進藤紫 ●小説・手袋ー松田淳子 ●花火ー宮川ゆみ乃

十一月号(第八卷第十一号) 94

●創作特集 ●小説・長い夢ー小椋山博 ●翻訳・リュヴェルスの少女時代ー異邦人ーボリス・パステルナーク ●著工藤正広 ●小説・サイゴンが落ちたころー向井豊朗 ●戯曲・おぼ捨て穴ー寺久保友哉 ●フランス田舎放浪記ー国境を越えてー森山軍治郎 ●離島の老女たちー藤田ヨネさんー高橋三枝子 ●第五回北海道文学まつりのこゝろ ●御神体なきまつり。の愉しきー宮川ゆみ乃 ●北海道文学散歩ー空知川の岸辺ー木原直彦 ●刃影ー天皇の季節ー山川力 ●随筆・瀧流月形市街を襲うー熊谷正吉 ●石狩俳句を廻るー前川道寛 ●仙台さまー坂田資宏 ●

十二月号(第八卷第十二号) 95

●ヨーロッパあの日この日ーアルルの光と影ー堀淳一 ●物理の世界を散歩するーちくはくの世界のあとでー田中一 ●フランス田舎放浪記ーロリスへ行けそして「自由」になるのだー森山軍治郎 ●離島の老女たちー柏谷タキさんー高橋三枝子 ●或る戦中日誌。よりー畔柳二美 ●中野武彦 ●北海道文学散歩ー歌志内「雪をんな」ー木原直彦 ●刃影ーある新聞論についてー山川力 ●随筆・西田信春さんの思い出ー大槻利行 ●秩父事件夜明けへの道ー井上和行 ●高校演劇に、芝居を見たー佐々木逸郎 ●「患庭市民文芸」の発足ー吉野成一 ●「あさん」の話ー坪谷道子 ●世代ー小野規矩夫 ●いまなら言えるー和田義雄 ●風見鶏ー結城遠一 ●谷川俊伊子・永平利夫・進藤紫 ●小説・土葬ー小椋山博 ●鯉魚(ちようざめ)ー藤沢阿以三

一九七六年(第九卷第一号) 96

●愛とエゴとー高村光太郎の場合ー田村一郎 ●翻訳・リュヴェルスの少女時代ー異邦人ーボリス・パステルナーク ●著工藤正広 ●ヨーロッパあの日この日ー著工藤正広 ●ロースコンの夏 ●雲ー堀淳一 ●離島の老女たちー松谷ツヤさんー高橋三枝子 ●北海道における新聞強権小史ー北海道新聞発禁と柳内義之進 ●佐藤忠雄 ●フランス田舎放浪記ー共同体自治の彼方からー森山軍治郎 ●或る戦中日誌。よりー畔柳二美 ●中野武彦 ●北海道文学散歩ー新津川(上)ー木原直彦 ●刃影ーある現代人風景ー山川力 ●随筆・二川柳に見る戦後の札幌展よりー斎藤大雄 ●戦後三十年北海道文学展(銅野)ー始末ー島居省三 ●ギョードとクワンツ

二月号(第九卷第二号) 97

●フランス田舎放浪記ー枯葉舞うランをあとにー森山軍治郎 ●離島の老女たちー今野ウメさんー高橋三枝子 ●ヨーロッパあの日この日ーミヤマレにまどろむー堀淳一 ●或る戦中日誌。よりー畔柳二美 ●中野武彦 ●北海道文学散歩ー新津川(下)ー木原直彦 ●刃影ー新聞記者の死ー山川力 ●随筆・春春山房 ●本郷新彫刻五十年展によせてー本田明二 ●上野山清實のこゝろー福井正治 ●のだからまぼこ ●勝玄夫 ●樹の風景ー伊藤美穂 ●風見鶏ー結城遠一 ●谷川俊伊子・永平利夫 ●新妻福子 ●小説・野たちの乱拍子ー熊谷政江 ●少女がー小椋山博 ●千葉の枇杷ー中沢茂

三月号(第九卷第三号) 98

●内地文子「女坂」の世界ー遠藤久美江 ●父の炬火談話からー有島農場時代の生活ー阿部信 ●詩・農の伝承ー山田伍市 ●北海道における新聞強権小史ー山本忠礼と開拓使財産事件ー佐藤忠雄 ●ヨーロッパあの日この日。よりー畔柳二美 ●北海道文学散歩ー北竜・深川・音江 ●木原直彦 ●刃影ー上からの声・権力の随筆ー山川力 ●随筆・帆立の具柱ー武岡幹夫 ●随筆とエッセイー穴釜彦夫 ●猫の話などー萩原實 ●風見鶏ー結城遠一 ●谷川俊伊子・永平利夫 ●新妻福子 ●小説・明るさざる朝ー小椋山博 ●連載小説・花影ー原ミワ

四月号(第九卷第四号) 99

●わが十勝誌 橋場恒雄 ●翻訳・リュヴェルスの少女時代ー異邦人ーボリス・パステルナーク ●著工藤正広 ●父の炬火談話からー有島農場時代の生活ー阿部信 ●ヨーロッパあ

の日記の一日一翠のドナウ・ワームにて一堀淳  
●北海道における新聞弾圧小史―新聞界と  
園田安賢の対決―佐藤忠雄●〔北方文芸賞〕  
予選経過●北海道文学散歩―根室―上川  
原直彦●刃影―細網たる二子・ペイ開原・山  
川力●随筆・道一戸田正彦・女優の鼻木一音  
原澄子 過去創作―滋野透子 三度目の正直  
―米坂ヒナノリ●風見鶏―結城遠一 谷川絵  
伊子・永平利夫・新妻博●小説・海の音―小  
南武朗●連載小説・花影―原ミワ

五月号(第九卷第五号) 100

北方文芸百号記念号

●北方文芸賞受賞作―出刃―小樽山博●北方  
文芸賞鑑衡座談会―井上光晴・野間宏・吉行  
淳之介●北海道文芸賞応募作読後―編集部●対  
談―(民衆)への道―森山治郎・小笠原克  
●(風見鶏)の方向感覚●あの頃のこと―山田  
昭夫・あの頃のこと 感覚―佐藤喜一・月評  
子〕祭りをも木内進・風見鶏 執筆のころ―  
瀬川章子・アクシスの道―詩論の前提から  
原字修・時について思うこと―矢口以文・え  
にしたの光―工藤正広・鼠が猫になる時代―  
阿川善夫・感想二―木村隆・列車の進行方  
向―田村哲三・歌壇・歌人・批評―鈴木世  
春・三月の吹雪―久保田涼衣・寒木瓜 連載  
紫●小説・花影―原ミワ●パジニアから―  
菊池昭わが十勝誌(二)―橋場恒雄●父の  
炉辺談話から―有馬農場時代の生活(三)―  
阿部信一●ヨーロッパあの日の日―語つう  
イン・デュットつう(二)―堀淳一  
●刃影―警察的対応しかないので―山川力●  
北海道文学散歩―十勝岳・富良野―木原直彦  
●エッセイ特集・語学教師になるまで―小松  
伸六・夏目漱石と「北の国」(元正人)・別所  
二郎蔵さん―中沢茂・オットットット―進藤  
純孝●「無産者新聞」のこころ石堂清倫・北  
海道しらず―富士正晴・幸福―徳力牧之助・  
北海道と私―野口富士男・交響組曲二十カ

ラを聴く―八木義徳・原野の自活を―金子  
さきみ●勝てば官軍と負けても官軍 吉倉伸  
新大陸の馬―日高普・資料の肉内 磯田光一  
群聊二美さんのこと―久保田正文・オホツ  
海上の取材材―杉浦明平・漢方医のこころ  
田芳恵●(綱型)と(反乱型)―西野辰吉・  
短歌と真実―三浦綾子・一九七六年春―内  
好・北方文芸(二)の役割―長見義三・帯刺あ  
れこれ―九島勝太郎・日氏―木野工●風見鶏  
―結城遠一 谷川絵伊子・永平利夫・新妻博  
●北方文芸 総目次

六月号(第九卷第六号) 101

●小説・花影―原ミワ●北方文芸賞佳作・新  
興川柳派の成立と終息―五呂八と鶴彬につ  
いて―坂本幸四郎●わが十勝誌(三)―橋場恒  
雄●父の炉辺談話から―有馬農場時代の生活  
(四)―阿部信一●北海道における新聞弾圧  
小史(四)―不敬罪に泣かされた新聞人―佐  
藤忠雄●ヨーロッパあの日の日(七)―ゾー  
ストとヒールと私 堀淳一●刃影―白のひと  
びと―山川力●北海道文学散歩―狩勝峠―木  
原直彦●随筆・松原の風―稲垣達郎・弟の死  
―十亀昭雄・ほんややく―平松秀雄・老年につ  
いての随想―本堂正夫・国分寺と蝦夷―五十  
嵐三郎●風見鶏―結城遠一 谷川絵伊子・永  
平利夫 新妻博

七月号(第九卷第七号) 102

●小説・水の像―野島千恵子●評論・田山花  
袋(「トコロゴロ」)の虚構性―鴨島吉研  
(一)コマゴ高橋明雄●わが十勝誌(四)―橋  
場恒雄●北海道における新聞弾圧小史(五)  
―米騒動下の筆禍―佐藤忠雄●父の炉辺  
談話から(五)―有馬農場時代の生活―阿部  
信一●ヨーロッパあの日の日(八)―スロー  
ターの水辺にて 堀淳一●子供達のアメリカ  
遊学―武本昌●詩・眼の底の海―米坂ヒデ  
ノリ彫形展札幌会場にて―佐々木逸郎●刃

影―木を彫る詩人―山川力●北海道文学散歩  
―然別湖・糠平湖・三国峠―木原直彦●随  
筆・減びゆく職業―神谷忠孝・ブリュッセル  
の春―深谷禎子・銀の山脈―考―安田成男・  
二十日鳥―小野寺吉・山羊とタキノウエ―  
加藤多一●風見鶏―結城遠一 谷川絵伊子・  
坪川美智子・鳥恒人

八月号(第九卷第八号) 103

●小説・クリスマスの頃―菊池昭●北方文芸  
賞佳作―深い夜から―佐藤泰志●横光利一試  
論(一)―「悲しみの代価」と「負けた夫」―  
神谷忠孝●わが十勝誌(五)―橋場恒雄●北  
海道における新聞弾圧小史(六)―特高の魔  
手と新聞―佐藤忠雄●父の炉辺談話から(六)  
―有馬農場時代の生活―阿部信一●ヨーロッ  
パあの日の日(九)―チチエスタのうた  
つぐみ―堀淳一●追悼―寺田京子●寺田京子  
十五句・戦後の俳句―寺田京子・弔辞―更科  
源藏・原田康子・佐々木逸郎・朝倉賢・木村  
敏男●北海道文学散歩―十勝平原 木原直彦  
●刃影―カオランからカマウまで―山川力  
●随筆・独歩と寒村―平岡敏夫・ポロガイ  
スの印象―宇佐美福生・ジュー・ユー・アゲイ  
ン―梅田昌志●武者小路三郎の手紙―武井  
静夫・野間宏の講演会―村山出●本のプロム  
ナード―野間謙者「リンチ共産党事件」の思  
い出―風見鶏―結城遠一 谷川絵伊子・坪川  
美智子・鳥恒人

九月号(第九卷第九号) 104

●小説・夏草―小松茂・冬の光―吉田有志・  
ブラジルの霜(一)―金子さきみ●横光利一試  
論(二)―(眼)に楊花風論―神谷忠孝●わが  
十勝誌(六)―結婚花嫁●ヨーロッパあの日  
この日(十)―ストックホルムと娘と私―堀  
淳一●刃影―ワイロ考現学―山川力●北海道  
文学散歩―帯広の街―木原直彦●随筆―ホ

ンカンさん―倉島齊・啄木・西十番ビル―長  
野京子・こくわのこと―勝玄夫・銀の山脈  
の正解・森田弘彦・鉄を叩き乍ら―折原久  
左子●風見鶏―結城遠一 谷川絵伊子・坪  
川美智子・鳥恒人

十月号(第九卷第十号) 105

●小説・緋羊を連れて―小村たか子・ブラジ  
ルの霜(二)―金子さきみ●横光利一試論(三)  
―「機械について」―神谷忠孝●理想と現実―  
ノートル・高村光太郎●霜と白秋のこころの道  
の関係について―勝玄夫●白秋のこころの道  
について―渡辺ひろし●北海道における新聞  
弾圧小史(七)―彈圧の極限―高岡取濱一  
佐藤忠雄●父の炉辺談話から―有馬農場時  
代の生活(七)―阿部信一●ヨーロッパあの日  
この日(十一)―イナモト馬は呼ぶ―堀淳一  
●刃影―コトバが荒れる時―山川力●北海道文  
学散歩―久保菜火山灰地―木原直彦●随  
筆 芥川賞と年齢―保昌正夫・京南瓜―徳力  
牧之助―プリマヴェーラ―花田弥一・若狭小浜  
―小松太輔●風見鶏―結城遠一 谷川絵伊子・  
坪川美智子・鳥恒人

十一月号(第九卷第十一号) 106

●小説・ブラジルの霜―金子さきみ●特集・猪  
狩満直の詩とエッセイ  
●小説・猪狩満直の詩とエッセイ  
●詩満直の詩とエッセイ―詩―開墾地風景・拾  
遺詩抄・猪狩満直・農の詩―阿部信一●猪狩  
満直 思いつくまに―更科源藏・凍原の種  
子―開墾地風景(二)の周辺―佐々木逸郎・体が  
熱くなる―山田伍市・評論―土と修羅―三野  
混沌と吉野せい―新藤謙●北海道における新  
聞弾圧小史(八)―GHQの強権―道新のレッ  
ド(ブラジ)―佐藤忠雄●父の炉辺談話から  
―有馬農場時代の生活(八)―阿部信一●  
ヨーロッパあの日の日(終)―カジミア―  
ズ紀行―堀淳一●刃影―森竹市エカシの死  
―山川力●北海道文学散歩―心の中を流れる

河(帯広) 木原直彦●随筆・芥川と大宰の性意識―相馬正一・雨降りの花―小松瑛子・人間嫌い―古川春雄・「手種」出版前後―吉村唯行・生田花世さんのこと―宇治土公三津子●風見鶏―結城遠一・谷川総伊子・坪川美智子・島恒人

十二月号(第九卷第十号) 107

●小説・海峡―宮川ゆみの「ブラジルの箱」金子きみ●評論・古井由吉論―象徴のイメージをめぐって―浅井京子●刈影―わたしの昭和史から―山川力●北海道文学散歩―直見・十勝川温泉―木原直彦●三ヶ塔時代の「北方文芸」に苦言を呈す―坂本幸四郎●随筆・つりのスビー―川上より―北海道文学散歩。風の日に―三好文夫・「ひとつの歴史」と「少年詩集」―入江好之・えままつ豆本誕生(記)―橋場文俊・中原悌二郎帯広・銅路展におもひ―五十嵐広三●風見鶏―結城遠一・谷川総伊子・坪川美智子・島恒人

一九七七年

一月号(第十卷第一号) 108

●小説・路傍の夏―熊奈介・からくりの華―熊谷政江・お母さまは人車に乗って―刺賀秀子●評論・書くことの権利―文学の思想と造形―高野斗志美●北海道における新聞弾圧小史(九)―GHQの強権―道新レッド・パージ(下)―佐藤忠雄●刈影―四季についてのある感想―山川力●北海道文学散歩―広尾線(百姓記)―木原直彦●随筆・時代―近藤潤一・季節感―井手貞夫・シヤロレ牛―日黒土門・雑品考―折原久左門・モスタワの行列―田中彰●風見鶏―結城遠一・瀬戸哲郎・高橋愁・南利

二月号(第十卷第二号) 109

●小説黄昏の別れ―小沢富美江・後志、雨のち雪―伊藤桂子●民衆俳句シリーズ・荒海

の向こうで(鳥の文学)―森山軍治郎●広岡吉太郎(仁石衛門)―有島農場時代の生活―余話―阿部信●刈影―中国マスコミ拝見―山川力●北海道文学散歩―山下秀之助の日記―木原直彦●随筆―広尾線―開墾に沿って―中山周三・五年間―高橋三枝子・二十年間での高校演劇を顧りみて―宮崎衛・運動をもつて運動をたたく―北の会76のことなど―菱川善夫●書評・小樽山博「出刀」―神谷忠孝●風見鶏―結城遠一・瀬戸哲郎・高橋愁・南利

三月号(第十卷第三号) 110

●小説・ケレジーボックス―深秀俊・赤い風紋―池端秀介●評論・書くことの権利(二)―高野斗志美●民衆俳句シリーズ(二)―荒海の向こうで(鳥の文学)―森山軍治郎●寒川光太郎―木原直彦●刈影―魯迅と小林多喜二―山川力●北海道文学散歩―十勝の野(海岸)―木原直彦●随筆・想い出の雪―伊藤博之・留明文学誌のことなど―高橋明雄・一葉と久佐賀問題―木村真佐幸・「くぐり」の唄―桜井勝美●風見鶏―結城遠一・瀬戸哲郎・高橋愁・南利

四月号(第十卷第四号) 111

●小説・フナの木台の今朝太郎―伊藤緑郎●評論・書くことの権利(三)―高野斗志美●民衆俳句シリーズ(三)―自由自治の里から―森山軍治郎●ユンヘン詩抄―加藤愛夫●私の読書ノートから(「防雪林」について)―中村久子●刈影―ベトナムの過ぎた日々―山川力●北海道文学散歩―幕別(黒田温泉・止若)―木原直彦●随筆・アイヌ語読み、アイヌ語訳―「連池記」―孟宗忠由來(徳永直文学碑のこと)―伊中村子・伊豆の仙人―川嶋至●風見鶏―結城遠一・瀬戸哲郎・高橋愁・南利

五月号(第十卷第五号) 112

●小説・運河―澤田誠一・蜜のときをはなれて―熊谷政江●評論・書くことの権利(四)―高野斗志美●松前古老百話(白神一)―浅利政俊●刈影―天はかくも無情なものである―川力●北海道文学散歩―池田(佐左木俊郎)―木原直彦●書評・森山軍治郎著「フランス田舎浪記」を読む―田中彰●随筆・作品の愛―工藤正広・或る大会で―堀萬市郎・雪と炎のうた―田中五呂八と鶴彬―坂本幸四郎・私の七宝―飯沢能布子・明治の謎―森田弘彦・寒川光太郎のこと―吉田十四雄●風見鶏―結城遠一・瀬戸哲郎・高橋愁・南利

六月号(第十卷第六号) 113

●小説・りんきの村(一)―吉田十四雄●評論・書くことの権利(五)―高野斗志美●民衆俳句シリーズ(四)―自由自治の里から―森山軍治郎●松前古老百話(白神二)―浅利政俊●刈影―領土返せの詩人たち―山川力●北海道文学散歩―池田(吉屋信子)―木原直彦●随筆・浅井三井のこと・内田満・私の郷土意識と文学―木脇紀子・鮫たちの樹木と朝倉賢氏―早川平・伊藤整と矢崎弾と上海行―渡辺憲●風見鶏―結城遠一・友田多喜雄・高橋愁・南利

七月号(第十卷第七号) 114

●小説・りんきの村(二)―吉田十四雄●評論・書くことの権利(六)―高野斗志美●民衆俳句シリーズ(五)―自由自治の里から―森山軍治郎●松前古老百話(白神三)―浅利政俊●刈影―森竹市遺稿集を編集して―山川力●北海道文学散歩―陸別(徳富蘆花と岡翁)―木原直彦●随筆・札幌の思い出―佐々木千之・食いしん坊供養―伊藤利孝・所詮俳句は遊びだから―句集「微笑笑陀羅のこと」など―森句城子●風見鶏―結城遠一・橋場恒雄・高橋愁・園田夢蒼花

八月号(第十卷第八号) 115

●小説・りんきの村(完)―吉田十四雄●評論・寝たれ者の詩―金子光晴における「イロシ」―「フモル」―田村●民衆俳句シリーズ(六)―自由自治の里から―森山軍治郎●松前古老百話(白神四)―浅利政俊●刈影―原簿の図(丸木美術館再訪)―山川力●北海道文学散歩―佐藤春夫と十勝―木原直彦●随筆・巨大な村―植松安太郎・遠い記憶―水口幾代・朝太郎離郷―田村吉司・自然のてんま―千葉真郎・枯木虎夫の詩人葬―加藤愛志●風見鶏―結城遠一・橋場恒雄・高橋愁・園田夢蒼花

九月号(第十卷第九号) 116

●戯曲・情夜寝晩間無(もゆるゆめ)さてくやしき―幻想のお七―久保田浩●評論・投げなわを投げよ(改題)―高野斗志美●民衆俳句シリーズ(七)―自由自治の里から―森山軍治郎●松前古老百話(白神五)―浅利政俊●明治十四年の北海道(上)―赤心社の鈴木清社長長行日記から―本多貢・大竹敬蔵校長と石川啄木―福地順一●刈影―美術館についての雑感―山川力●北海道文学散歩―豊田と十勝―木原直彦●随筆・辻村もと子さん―吉田十四雄・「かあさん」のたからものあれこれ―三上雪子・泥棒まわり―勝玄夫・手作りの雑誌―ふれど・しっぷ。のこと―八森康太郎●風見鶏―結城遠一・橋場恒雄・高橋愁・園田夢蒼花

十月号(第十卷第十号) 117

●小説・夢の中の風景―宮川ゆみの・底―藤沢清典●評論・「ど」にもない俺―黒井千次の世界―島山雄介●明治十四年の北海道(下)―赤心社の鈴木清社長長行日記から―本多貢●刈影―東京と土別の人へ―山川力●北海道文学散歩―十勝川河口―木原直彦●随筆・吉行エスケ・覚書―神谷忠孝・観光の

なかの手仕事―木内綾・長野京そして童話のこと―加藤多一・豆本余話―和田義雄●風見鶏―結城遠一・橋場恒雄・高橋愁・園田夢蒼花

十一月号(第十卷第十一号) 1118

●小説・夏の出来事―小沢富美江●民衆俳句  
●山軍治郎●川柳の戦後(一)―坂本幸四郎●  
●松前古老百話(白神一)―浅利政俊●詩・道  
●夏―戸塚美波子●刃影―森竹市詩集・原  
●散歩―浦帆(熊の出る開樂地)―木原直彦●  
●随筆・室蘭と文学道跡―大澤哲夫・退職雑感  
●工藤欣弥・啄木の鵜外・漱石に対する意識  
―日良卓・啄木・賢治にみる若手の近代文学  
研究―浦田敬三●風見鶏―結城遠一・橋場恒  
雄・高橋愁・園田夢蒼花

十二月号(第十卷第十二号) 1119

●小説・天のかおり―刺賀秀子●評論・投げ  
なわを投げよ(八)―高野幸美●民衆俳句  
シリーズ(九)―母なる川の岸辺に(下)―森  
山軍治郎●川柳の戦後(二)―坂本幸四郎●  
弟子屈・雨のち晴―東回祿蔵文学碑除幕式の  
記―佐々木逸郎●北海道文学まつりの  
こと―山田広●刃影―それはだれのルツなの  
か―ルツ上を一読して―山川力●北  
海道文学散歩―音別・武羅夫と幹彦―木原直  
彦●随筆・「北海道文学」五十号―鳥居晋三  
●ベルギー人、M氏を有島記念館に案内して  
―阿部信一・羊蹄日記―谷川絵伊子●風見鶏  
―結城遠一・橋場恒雄・高橋愁・園田夢蒼花

(一九七八年)

一月号(第十一卷第一号) 1220  
●小説・後志・曇りのち雨―伊藤桂子●川柳  
の戦後(三)―坂本幸四郎●続民俗紀行つ  
ともれ―更科源蔵●再会まで(一)―わが獄

中記 風間六三●刃影―(詩風)に地が凍り、  
雪が積って―山川力●北海道文学散歩―銅路  
と啄木―木原直彦●随筆・古地図―余話―  
堀洋一・ローマ皇帝の味方―森田弘彦・はじ  
めまして―どらねこ文庫で―石川悦子  
辻村もとの短歌―高橋留治・伊藤整・川崎  
昇両氏との出会い―吉田十四雄●風見鶏―結  
城遠一・橋場恒雄・西勝洋一・園田夢蒼花

二月号(第十一卷第二号) 1221

●小説・紙飛行機―中沢茂・地虫―川森ミホ  
●川柳の戦後―坂本幸四郎●続民俗紀行  
(鱈鮫)―更科源蔵●続・明治十四年の北海  
道(晩成社・依田勉三の「北海道紀行」から)―  
本多實三●詩・私の戦中戦後―山内栄二●刃影  
―十二―至大五政治報告―山川力●北海道文学  
散歩―中戸川吉一(銅路)―木原直彦●随筆  
―和田芳忠さんの死―比良信治・上野山清貴さ  
ん―吉田十四雄(リラの会)●学習風景から  
―山根対助・「鱈鮫の作家」―「白猿記」出版  
記念会に出席して―小松茂●風見鶏―結城遠  
一・橋場恒雄・西勝洋一・園田夢蒼花

三月号(第十一卷第三号) 1222

●小説・鳥とんだ―熊谷政江●川柳の戦後  
(完)―坂本幸四郎●続・明治十四年の北海  
道(晩成社・依田勉三の「北海道紀行」から)―  
本多實三●再会まで(二)―わが獄の内と小説  
風間六三●石狩川(一)の周囲―史実と小説の  
あいだ―伊達邦直のこと(二)―坂田資安●  
松前古老百話(白神二)―浅利政俊●刃影―  
毎日新聞のアケスエス権への試み―山川力●北  
海道文学散歩―明治の銅路―木原直彦●随  
筆・帯広の「火山灰地」―小林正雄・北の海  
展のこと―佐野火翁・「生まれさされる」こ  
と―山本赤●風見鶏―結城遠一・橋場恒雄・  
西勝洋一・園田夢蒼花

四月号(第十一卷第四号) 1223

●小説・耳の中の虫の音―北野流●高村光太  
郎訪問記―更科源蔵●再会まで(三)―彈圧  
下・小樽の文化運動―風間六三●石狩川(二)  
の周囲―史実と小説のあいだ―坂田資安●松  
前古老百話(白神八)―浅利政俊・依田亀悦  
●続・明治十四年の北海道―本多實三●刃影―  
棄民とはいわれるけれど―山川力●北海道文  
学散歩―戦前の銅路―木原直彦●随筆・岡本  
潤さんの死―上林秋夫・原野から吹きつけて  
くる声―田上善也・昆布で屋根葺く物語―  
脇野・むかしふるさは―田村昌由●風見鶏  
―結城遠一・橋場恒雄・西勝洋一・園田夢蒼  
花

五月号(第十一卷第五号) 1224

●小説・黄色い花―宮原政雄●新連載・能登  
へ―坪野哲久「百花」の世界を中心に―澤田  
誠一●石狩川(二)の周囲―史実と小説のあい  
だ―坂田資安●刃影―活字の列のなかで―山  
川力●北海道文学散歩―銅路のまわり―木原直  
彦●随筆・コブシの花―沢田トヨ・私の小さ  
な画廊―長谷川洋行・研究家でない研究―渡  
辺ひろし●風見鶏―結城遠一・橋場恒雄・西  
勝洋一・園田夢蒼花

六月号(第十一卷第六号) 1225

●賢治治活特集  
●賢治のなかの北海道―風はどこから吹きは  
じめたか―斉藤雅義・ジョン・ニはなぜ汽車  
に乗ったか―賢治の幽明境イメージを追って  
―田下良子・宮沢賢治と弥勒信仰―池川敬  
司・賢治の青春―岩手病院の生活より―吉田  
英一・巻二―「修羅」―負い目・信仰・ふる  
さと―田村一郎・駒ヶ岳・鳴火湾―宮城二男  
人間下田の水動性・玉川雄介・記憶の中の  
雑誌―賢治童話との出会い―八森虎太郎・私  
のなかの「雨ニモマケズ」―清藤玲子・私の  
アプローチ―鈴木杜世春・暮業のもやうの陶

碗―小松英子・サカレンの誰かの声―川辺為  
三●小説・ある夜―谷川絵伊子●高村光太郎  
訪問記(二)―更科源蔵●芥川の講演旅行(上)  
―武井静夫●刃影―人民が居る文化―山川力  
●北海道文学散歩―「挽歌」と原田康子―木  
原直彦●風見鶏―結城遠一・橋場恒雄・西勝  
洋一・園田夢蒼花

七月号(第十一卷第七号) 1226

●小説・眠る故郷―工藤正広・梅南―刺賀秀  
子●能登へ―坪野哲久「百花」の世界を中心  
に―澤田誠一●高村光太郎訪問記(3)―更  
科源蔵●石狩川(二)の周囲―史実と小説のあ  
いだ―坂田資安●芥川の講演旅行(中)―武  
井静夫●英国の印象―芥川・コペンハーゲンから  
―ロンドンへ―平松秀雄●刃影―「不確実性」の時  
代を読む―山川力●北海道文学散歩―戦後  
の銅路―木原直彦●随筆・前後―和田義雄・  
倒立した長靴―高文彦・豊平川源流考―辻井  
達一●風見鶏―結城遠一・光城健悦・反怖陽  
子・塩野谷秋風

八月号(第十一卷第八号) 1227

●小説・重い魚―伊藤公夫・雪娘―工藤治子  
●能登へ(三)―澤田誠一●芥川の講演旅行  
(下)―武井静夫●刃影―文明への逆らい―  
山川力●北海道文学散歩―舌辛村と猪狩満直  
―木原直彦●随筆・北海道の桜桃忌―神谷眞  
孝・二本のクギ―戸塚美波子・民俗・追いつ  
たこれの「宮田久」・札幌を想う―高木黄史●  
風見鶏―結城遠一・光城健悦・反怖陽子・塩  
野谷秋風

九月号(第十一卷第九号) 1228

●有島武郎晩年の作品「酒狂」―骨」の成立  
をめぐって―高山亮一―鎌倉夫人―運命論  
者として―断橋―渡辺凱一・有島武郎未発表

書簡および全集逸文若干内田満・全集逸文六編・附解題―山田昭夫●仁右衛門の馬―佐々木逸郎・有島記念館のオプンを終えて―渡辺富雄●小評・ある邦楽家の場合―須田順一●能登へ―坪野哲久〔百花〕の世界を中心に4―澤田誠一●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(仙台藩のこと)―坂田資宏●刈影―小梅運河を考ふる―山川力●北海道文学散歩―阿寒湖―木原直彦●アイヌ・ネノ・アンアイヌ―三好文夫への告別の言葉―高野斗志美●英国の印象(二)テムズ川―平松秀雄●風見鶏―結城達一・光城健悦・反怖陽子・塩野谷秋風

十月号(第十一卷第十号) 129  
続有島特集  
●有島武郎と浅井三井(秘められた有島未発表の書簡―川並秀雄)●小説・淡雪の海―宮川ゆみの●能登へ―坪野哲久〔胡蝶夢〕の世界を中心に5―澤田誠一●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(仙台藩のこと)―坂田資宏●英国の印象(三)ダブリン―平松秀雄●詩・死んだ村―外四篇―友田多喜雄●刈影―山中一●偶感―山川力●北海道文学散歩―阿寒の山々―木原直彦●随筆・オニゲル―三國洋子・江差追分名歌は志賀重昂の作か―脇哲・オノの木―佐々木忠郎・松浦武四郎のカタクリ―森田弘彦●風見鶏―結城達一・光城健悦・反怖陽子・塩野谷秋風

十一月号(第十一卷第十一号) 130  
●小説・連帯孤独―中沢茂・桃子―木宮節子●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(仙  
台藩のこと)―坂田資宏(エゾ)から(エド)へのメッセージ―江戸文学を照射する一視点―湯沼誠二●英国の印象(四)―エジンバラ―平松秀雄●刈影―新聞に希望を捨てまい―山川力●北海道文学散歩―鶴居村と「処女地」―木原直彦●随筆・わが仮想博物館―今

田敬一橋智恵子の家系について―福地順一・初老奮起―小谷博樹●風見鶏―結城達一・光城健悦・反怖陽子・塩野谷秋風  
十二月号(第十一卷第十二号) 131  
久保栄特集  
●新資料(三人の樵夫の話)―久保栄・久保栄の「三人の樵夫の話」―山田昭夫・火山灰地と沢の炭焼夫争議―久保吉春・のぼり窓の構成―三和康太郎・火山灰地)の胎動―堀田直子・のぼり窓の里で―大澤紀恵子・「火山灰地」をめぐる―柿木ヒデ・高校生の「火山灰地」を覗いて―久保吉春●小説・翳―藤沢清典●英国の印象(五)―湖水面方―平松秀雄●刈影―人間としての金芝地方―山川力●北海道文学散歩―釧路川流域・塘路湖―木原直彦●風見鶏―結城達一・光城健悦・反怖陽子・塩野谷秋風

〔一九七九年〕  
一月号(第十二卷第一号) 132  
●小説・それぞれのソウル―菊池昭・寂しさのはてなむ国―川森ミホコ●来時の道を忘却せず―地方紙説話記記者の歩み―小林金三●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のこと)―坂田資宏●刈影―雲岡石窟―山川力●北海道文学散歩―虹原野原―木原直彦●随筆―評伝小熊秀雄)後に想う―佐藤善吉・近況―入江好之・横光利一論を刊行して―神谷忠孝・小梅運河と共に―峰山富美●風見鶏―結城達一・新井章夫・反怖陽子・北光星

二月号(第十二卷第二号) 133  
●小説・ぬはたま小南武朗●来時の道を忘却せず(二)―小林金三●評論・銀河にかか  
る発電所―斎藤征義・小林多喜二の蟹工船と博愛丸事件について―浅利政俊●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家

のこと)―坂田資宏●刈影―音威子府の砂沢ビッキ―山川力●北海道文学散歩―弟子屈と更科源藏―木原直彦●随筆・歌にもぐる時―小梅運河・あずさ―山根対助(幼年歳時)の周辺―木内達・空き山像背文(謎々蔵時)・郭沫若さんの想い出を追って―山内崇治●風見鶏―結城達一・新井章夫・反怖陽子・北光星

三月号(第十二卷第三号) 134  
●小説・湖―宮川ゆみの・もうひとつの朝―佐藤泰志●来時の道を忘却せず(三)―小林金三●評論・恐怖のあたり―萩原朝太郎●猫町(論上)―高澤秀次●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のこと)―坂田資宏●詩・小さなものたち・以後―友田多喜雄●刈影―いまさら北海道論でもないが―山川力●北海道文学散歩―弟子屈・木原直彦●随筆・札幌初期の女流詩人をめぐる―小柳透・共通語に関する一少考―片山晴夫・作家の墓窓―木村真佐幸●風見鶏―結城達一・新井章夫・反怖陽子・北光星

四月号(第十二卷第四号) 135  
●往復書簡―外岡秀俊VS沢田展人●小説・暮色の人―小松茂●評論・恐怖のあたり―萩原朝太郎●猫町(論下)―高澤秀次●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のこと)―坂田資宏●刈影―あまりにも臆病なプレス)―山川力●北海道文学散歩―摩周湖(戦前)―木原直彦●随筆・唄う詩のこと―南川周三・劇画を讀まないわけ―新藤謙・本屋のなげき―再販制度にあれて―岩本取・暖冬雑感―米坂ヒナリ・五嶋軒の若山徳次郎さん―比良信治●風見鶏―結城達一・新井章夫・反怖陽子・北光星

五月号(第十二卷第五号) 136  
小梅運河特集  
●発言―小梅運河・倉庫・街並を守ろう)・文化の破壊者へ―夏堀正元)・ポト祭審判書記―駒木定正)・「小梅運河を考ふる旭川の会」―福岡イクトル・僕に請うる小梅対馬幸一)・アツペイトル・陳情書・請願書)・「小梅運河を守る市民の夕」報告)・宣言)・小梅運河を守る運動の歩み―増田又喜)・運河ジャーナル抜粋)・覆水盆に返らず)・小梅運河)・街並み保全の視点)・小笠原克)・詩)・運河よそれが愛なら)・佐々木逸郎)・悔いなき明日よ)・小柳透)・小説)・研ぎ師)・刺青秀子)・来時の道を忘却せず(四)―小林金三)・ち)・須藤正敏●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のこと)―坂田資宏●刈影―ある漫画家の死―山川力●北海道文学散歩―摩周湖(戦後)―木原直彦●風見鶏―結城達一・新井章夫・反怖陽子・北光星

六月号(第十二卷第六号) 137  
●小説・颯風伝説―佐藤泰志)・どこにもない俺)―黒井千三)・世界)・畠山雄介)・蛇紋岩の峰の下(穂別)・賢治忠)・斎藤征義)・「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(坂田資宏)・詩)・雲の詩三篇)・八森虎太郎)・アメリカ婦人の歌集)ともし)―川並秀雄)●刈影―道北を一周して)―山川力●北海道文学散歩―川湯温泉)・木原直彦●随筆)・黄の世界)・安西均)・三月)・二月)・三月)・二)・松山昌一)・栗山寺の地蔵菩薩半像)・武田秀峯)・指揮官氏家丹宮の自決)脇哲)・「サイロ物語」と私)・米村勇多郎)●風見鶏)・結城達一)・新井章夫)・反怖陽子)・北光星

七月号(第十二卷第七号) 138  
●小説・黒いしたたり)・堂下頼)・風にとぶ砂)―宮川ゆみの)●伊藤整義)詩)から)風へ)―竹本修)●砂金掘り)渡辺良作の一生(一)―沢田トヨ)●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のこと)―坂田資宏●詩)・

忍路・小松英子●刃影―ひとつの戦後十年史  
―山川力●北海道文学散歩―屈斜路湖・木原直彦●随筆・タバコと探偵小説―斎藤春雄・あるアメリカ人と俳句―横道秀川・有珠山麓から―岡村正吉・夕張川の記―八条志馬・明日ありと思ふ心の―山本丞・アトリエの野良猫―木田明二●風見鶏―結城遠一・新井章夫・堀井美鶴・菊地満翠

八月号(第十二卷第八号) 139

●小説・花はどこへ行った(上)―白戸仁康  
●小熊秀雄論(一)―原型期の位相―塔崎健二●砂金掘り渡辺良作の一生(二)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のごとく)―坂田資宏●刃影―18・15が(風化)するとうとう―山川力●北海道文学散歩―釧路村―木原直彦●随筆・町を走る色―伊藤隆一・カッつきまでなく―友田多喜雄・初夏雜感―三好丈夫と文学伝習所と―高野斗志美 革命と青春の記録(証人台)の完結によせて―柚木栄三●風見鶏―結城遠一・新井章夫・堀井美鶴・菊地満翠

九月号(第十二卷第九号) 140

●小説・花はどこへ行った(下)―白戸仁康・街―対馬後編●小熊秀雄論(二)―偉大な自然人的開拓者―の位相―塔崎健二●石狩川―の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のごとく)―坂田資宏●砂金掘り渡辺良作の一生(三)―沢田トヨ●刃影―大字厚―をたしなめる―山川力●北海道文学散歩―厚岸とてするよ―木原直彦●随筆・猫姿の記―水口幾代・金属と人間の結びつき―山田三代喜・「画家ヌカコロ」出版―工藤欣弥・新井章夫・堀井美鶴・菊地満翠

十月号(第十二卷第十号) 141

●小説・鳥よ、眠れ―川辺為三●小熊秀雄論

(三)―偉大な自然人的開拓者―の位相―塔崎健二●砂金掘り渡辺良作の一生(四)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のごとく)―坂田資宏●ひとり旅―文学碑二つ―小村たか子●刃影―石炭の隣隣寮―山川力●北海道文学散歩―厚岸のまち―木原直彦●随筆・北の文学碑から―木村敏男・十勝野の夏に集う―田村圭司・夢―木下順一・梅田事件―林白言●風見鶏―結城遠一・新井章夫・堀井美鶴・菊地満翠

十一月号(第十二卷第十一号) 142

●小説・村の話―澤田誠一・残光―さいとうぜんい●小熊秀雄論(四)―偉大な自然人的開拓者―の位相―塔崎健二●父の復活をめぐって―生れ出づる悩み―武井静夫●砂金掘り渡辺良作の一生(五)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のごとく)―坂田資宏●刃影―あらさう二つの権利主張―山川力●北海道文学散歩―浜中町とムツゴロウ―木原直彦●随筆・函館山要塞上官射殺事件―坂本幸四郎・旭川文学伝習所の日々―竹本修・平山金十郎三つの像―藤野哲・「ハマナス」のかけで―を刊行して―入江好之●風見鶏―結城遠一・新井章夫・堀井美鶴・菊地満翠

十二月号(第十二卷第十二号) 143

●小説・沼―澤井茂夫・後遺症―木宮節子●島尾敏雄 その初発のすがた―「虎の棘」を視座として―上岡康信●釧路新聞における啄木の執筆記事―福地順一●砂金掘り渡辺良作の一生(六)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のごとく)―坂田資宏●刃影―戦時中のあるけつな体験―山川力●北海道文学散歩―根拠原野―木原直彦●随筆・北へ来なかった―「五足の靴」―中山周三・コモチカナヘビのことなど―神田長松・顔のケガ―森山軍治郎・幻影の

故郷―栗坪良樹●風見鶏―結城遠一・新井章夫・堀井美鶴・菊地満翠

二九〇年

一月号(第十三卷第一号) 144  
●小説・熟れてゆく夏―熊谷政江●西域の旅―更科源藏●関宮林蔵―峯孝●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のごとく)―坂田資宏●詩・冬の旅―萩原貢もう一度冬の木のことを考えよう―鷲谷峰雄●短歌・歳日蔵草―水口幾代 北京長安街―平松勤 継ぐ―矢島京子 陶然―川村壽人●北海道文学散歩―根室へ―木原直彦●随筆・賞のあとと―佐々木節 樺皮―小楳山博文まつり参上記―堂本茂 風見鶏―結城遠一・鷲谷峰雄・堀井美鶴・菊地満翠

二月号(第十三卷第二号) 145

●小説・魚船干場の周囲―宮川ゆきの わたしの過去帳―向井豊昭●座談会―北海道文学全集―を語る―小笠原克・木原直彦・和田謹吾●砂金掘り渡辺良作の一生(七)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(岩出山伊達家のごとく)―坂田資宏●刃影―運河は簡単に死なない―山川力●北海道文学散歩―根室港と寺島樫史―木原直彦●随筆・宮沢賢治記念館のことなど―八森虎太郎―加藤の最期―小松茂 長い顔の紳士たち―柳多一●風見鶏―結城遠一・鷲谷峰雄・堀井美鶴・菊地満翠

三月号(第十三卷第三号) 146

●小説・溢れる海―さいとうぜんい●寝室―園田恵子 七月湖愛―佐藤泰志●歴史と現実―ノート・真壁仁詩集―街の百姓―とその農業の背景について―勝又光男●砂金掘り渡辺良作の一生(八)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(黒船来航のころ)―坂田資宏●俳句・麦の笛―木村敏男●

本 澤田誠一 著「白い土地の人々」―小松栄輔●北海道文学散歩―戦前の根室―木原直彦●随筆・「人間の土地」と私―玉井裕志 日米今はもかし―平井さち子 鼻の履歴―対馬俊明●風見鶏―結城遠一・鷲谷峰雄・堀井美鶴・菊地満翠

四月号(第十三卷第四号) 147

●小説・セピアの色の写真―北野流 ホテルの前の石の橋―佐藤梅子 着陸―助川徳是「ヤヌス」の月に―香沢久里●蝦夷歌詠―森山弘毅●砂金掘り渡辺良作の一生(九)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(黒船来航のころ)―坂田資宏●刃影―あるシヤ船ナリのこと―山川力●北海道文学散歩―根室と中沢渡―木原直彦●随筆・死者を纏うて―江原光太「我きとは」―松村達雄「功労章」のおそろし―須田昭一●斜眼の風景―風見鶏―結城遠一・鷲谷峰雄・堀井美鶴・菊地満翠

五月号(第十三卷第五号) 148

●小説・花びらの舞い―堂本茂 風の向うからの声―菅原政雄●リアリズムの鬼才―山田義夫の歌―藤倉徹夫●「石狩川」の周囲―黒船来航のころ―坂田資宏●まゆちと地図を歩く―堀淳二●北海道文学散歩―根室と高見順―木原直彦●随筆・東洋の片隅からケルト人の愛憎―宮田久 奥様―市瀬見 本新さんの想い出―枋内忠男「作家」のひとびと―亀山巖●斜眼の風景―風見鶏―結城遠一・鷲谷峰雄・堀井美鶴・菊地満翠

六月号(第十三卷第六号) 149

●有島武郎とクロボトギン(一)―高山亮二●小説・鼠―藤沢清典 ゆるやかな蘭―麻田伸彦●俳句・暖冬―川端麟太・写実の眼―榛谷美枝子●はじめての西洋の街並み―比良信治●刃影―「人間の土地」のひとたち―山川

力●隨筆・新谷行について―上杉浩子 私の本庄陸男と「石狩川」―朝井善一郎●赤い絵―大久保一良●北海道文学散歩―最果ての街―木原直彦●短歌・小旅―相良義重●まゆ子と地図を歩く―堀淳一●砂金掘り渡辺良作の一生(十一)―沢田トヨ●「石狩川」の周囲―史実と小説のあいだ(黒船来航のころ四)―坂田資宏●詩・河口のある風景―湯田克衛●斜眼の風景●風見鶏―結城遠一●鶯谷峰雄●堀井美鶴●菊地満翠

七月号(第十三巻第七号) 150

北方文芸百五十号記念号 特集●故郷への便り

●故郷(銅路)への便り―小松伸十六 帰郷者の感想―西野辰吉 ジョン・パクスター、ウィル船長―長谷川四郎 故郷への便り―八木義徳 還暦に候―木野工 人間 指相撲 未木―夏堀正元●小説・点晴―朝倉賢 街指相撲 中沢茂●座談会―八〇年代の文学に向けて―小笠原克・高橋揆一郎・小楢山博・寺久保友哉・森山軍治郎・澤田誠●北海道文学散歩―国境の海―木原直彦●北海道文学散歩―開拓の歩いた一五〇回―木原直彦●はじめての西洋の街並み―比良信治●砂金掘り渡辺良作の一生(十二)―沢田トヨ●まゆ子と地図を歩く―堀淳一●短歌―坪川美智子・大沼スズ●俳句―貴志聖子―川原政代●「石狩川」の周囲―黒船来航のころ五)―坂田資宏●風見鶏―結城遠一●鶯谷峰雄 水口幾代 園田夢蒼花●北方文芸 総目次

八月号(第十三巻第八号) 151  
●小説・インカシシ山から―一條宗生 異臭―木宮龍二●昭和民衆史の私(二)―西野辰吉●有島武郎とクロボトキン(二)―高山亮二●隨筆・ロマンの残党―長谷川喜彦 読書―高橋実 屯田の木像さん―大澤紀恵子●

刃影・あれは幻影だつたのか―山川力●詩・ホロシロ山―三谷木の実●俳句・春風譜―宮部鳥巢●北海道文学散歩―納沙布岬―木原直彦●「石狩川」の周囲―黒船来航のころ六)―坂田資宏●まゆ子と地図を歩く―角館にて―堀淳一●風見鶏―結城遠一●鶯谷峰雄・水口幾代 園田夢蒼花

九月号(第十三巻第九号) 152

●小説 孔房抄―刺賀秀子 寛文蝦夷の島―向井豊昭●昭和民衆史の私(三)―西野辰吉●有島武郎とクロボトキン(三)―高山亮二●隨筆・ハネムーン―木路毛五郎 戦前官製歌の構造―脇哲 叔父小森のこと―藤園澄耳●まゆ子と地図を歩く―堀淳一●砂金掘り渡辺良作の一生(最終回)―沢田トヨ●北海道文学散歩―根室と夏堀正元―木原直彦●はじめての西洋の街並み―比良信治●詩・夜―上杉浩子●斜眼の風景●「石狩川」の周囲(仙台藩勤王始末)―坂田資宏●風見鶏―結城遠一●鶯谷峰雄 水口幾代 園田夢蒼花

十月号(第十三巻第十号) 153

●小説 海辺の町へ嫁く―宮川ゆみの 生残の鳥―岩谷恒捷 野九道路―助川徳是●昭和民衆史の私(三)―西野辰吉●有島武郎とクロボトキン(四)―高山亮二●隨筆・ソ象園橋での三十六時間―桜井勝美 世紀の春―土橋秋良 金子由香利のこと―芭蕉二 春になると―瀬戸哲郎●北海道文学散歩―木原直彦●まゆ子と地図を歩く―堀淳一●はじめての西洋の街並み―比良信治●刃影・慰霊碑と慰霊祭廻堂―山川力●「石狩川」の周囲(仙台藩の勤王始末)―坂田資宏●俳句・雁の道―川端何洗 波の泡 鈴木青光●短歌・わが母のうた―菅野正治 霧のころ―谷藤栄子●斜眼の風景

十一月号(第十三巻第十一号) 154

●小説・その後―林白言 朱い糸、朱い裂―川辺為三 馴鹿―中沢茂●隨筆・北二(冬)―山田野理夫 棄郷と帰郷―草森紳一 はなれ賢女―おとら―おりん―山本丞丞●時実新子論―坂本幸四郎●北海道文学散歩―知床半島―木原直彦●「石狩川」の周囲(仙台藩の勤王始末三)―坂田資宏●まゆ子と地図を歩く―堀淳一●はじめての西洋の街並み―比良信治●詩・六月の狂気―松本昭夫●俳句・芭蕉祭―勝又木風雨 水河の石―原九糸●短歌・偶感―本間武司 琵琶もなく―北川緑南●風見鶏―結城遠一●鶯谷峰雄・水口幾代 園田夢蒼花

十二月号(第十三巻第十二号) 155

●小説 小豚のような女―須田順一 砂―藤沢清典●隨筆 異郷人―鷲巢崇男 余市にいた白虎隊長―前田克己 蟹の暇言―田辺隆吉●刃影 冷笑の若者ら―山川力●昭和民衆史の私(四)―死神の手―西野辰吉●「石狩川」の周囲(仙台藩の勤王始末四)―坂田資宏●まゆ子と地図を歩く―リアスの岸辺―堀淳一

一九八一年

一月号(第十四巻第一号) 156

●小説・時の家―さいとうぜんいち 六月の光―刺賀秀子 昏い部屋―木宮龍二●北海道文学散歩―知床半島―海明け―木原直彦●有島武郎とクロボトキン(五)―高山亮二●隨筆・同窓のひとびと―小林金三 アララト山を眺めながら―長野正 履歴書の行間―小谷博真●詩・時への祈り―小柳透●新春俳句 若水―北光星 初御空―源英彦●昭和民衆史

の私(五)―西野辰吉●「石狩川」の周囲(仙台藩の勤王始末五)―坂田資宏●まゆ子と地図を歩く―水河の裾の潟湖の町(ヘフン)―堀淳一●斜眼の風景●風見鶏―水木秦・文梨政幸 坪川美智子 園田夢蒼花

二月号(第十四巻第二号) 157

●小説 撃つ夏―佐藤泰志 肥料くさい夫婦―千本きくよ●近代女流文学の出發(中島湘煙の文学)―北田幸恵●隨筆・北オホーツクの樫幸町から―筆―谷口芳男 一閃の友人達―白居直彦 薄野の夜―鈴木二三タヌキの八景論論考―星光一●昭和民衆史の私(六)―西野辰吉●その後(三)―林白言●「石狩川」の周囲(仙台藩の勤王始末六)―坂田資宏●まゆ子と地図を歩く―雨のハフン―堀淳一●刃影 砂びビッキのうた―竹深延人●北海道文学散歩―知床旅情―木原直彦●風見鶏 水木秦・文梨政幸 坪川美智子 園田夢蒼花

三月号(第十四巻第三号) 158

●小説 勢川體村浦―向井豊昭 手紙―木本義徳 ゆくゆくは汽車―馬場公彦●近代女流文学の出發(中島湘煙の文学)―北田幸恵●金子光晴研究―ついで―二上杉浩子●昭和民衆史の私(七)―西野辰吉●俳句・冬草―園松政●詩・紅い花―下村保太郎●「石狩川」の周囲(仙台藩の勤王始末七)―坂田資宏●隨筆・ポーランド断章―灰谷慶三 これでは眠れない―久保田浩●まゆ子と地図を歩く(フイヨルドと鬼の山)―堀淳一●北海道文学散歩―斜里岳―木原直彦●風見鶏 水木秦・文梨政幸 坪川美智子 園田夢蒼花

四月号(第十四巻第四号) 159

●小説 空―澤井茂夫 開頭街頭のあなたに―敵崎●金子光晴研究ノート(光晴と反戦)

―上杉浩子●有島武郎とクロボトキン(六)

―高山光二●昭和民衆史の私(八)―西野辰吉●隨筆・穴があつたら入りたい―高木光子

民衆史の北と南―三木健一・渡世―森山軍治郎●俳句・雪國―上杉浩子●石狩川一周

園(仙台藩の勤王始末八)―坂田資宏●北海道文学散歩―原生文●木原直彦●刃影・キ

トピロを喰う―という詩のある現代風景・竹

深人●まゆ子と地図を歩く(水河湾と水河

湖の水辺)―堀淳一●風見鶏―水木泰・文梨

政幸・坪川美智子・園田夢蒼花

五月号(第十四巻第五号) 160

●小説・ピカデング幻想―藤村有香里・手

宮つ子―西カオル●金子光晴研究ノート(孤

独)―自立的主体としての自我―上杉浩子●

石川啄木と鋼路の花柳界―福地順一●昭和民

衆史の私(九)―西野辰吉●隨筆・スキ・嫌

い―伊藤桂子 浪漫派と政治―小崎 芭

ランス―長見義三●石狩川の周囲(仙台藩の

勤王始末九)―坂田資宏●北海道文学散歩

―網走紀行―木原直彦●詩・残飯のうた―山田

伍市・旅、スケッチ―友田多喜雄●まゆ子と

地図を歩く(砂嘴を抱く北の果て 狭湾)―堀

淳一●新刊紹介●風見鶏―水木泰・文梨政幸・

坪川美智子・園田夢蒼花

六月号(第十四巻第六号) 161

●小説・犬の時間を―須田順一 鉄橋 吉

川ゆみの●俳句の芸術の高揚についての考

察―新妻徳●金子光晴研究ノート(愛)―上

杉浩子●隨筆・姉妹都市活動とコトバ・杉

昭子・むつと花考―小林植作 春を探す

大塚陽子●石狩川の周囲(仙台藩の勤王始末

十)―坂田資宏●刃影・アトランタの黒人悲

劇―竹深英人●北海道文学散歩―網走まで

―木原直彦●昭和民衆史の私(十)―西野辰吉

●まゆ子と地図を歩く(レイキヤヴィークに

て)―堀淳一●風見鶏―水木泰・文梨政幸・

坪川美智子・園田夢蒼花

七月号(第十四巻第七号) 162

●小説・近代文壇の虚空へ―さとう

えんち●堀淳一●菊池昭 出発―中島煙の文

学三―北田幸恵●金子光晴研究ノート(光

晴と女性)―上杉浩子●俳句の芸術の高揚に

ついての考察 新妻徳●隨筆・村人たちの

生活と私―太田立 ホテル維新 齊藤政文

董の花のことび―菊地昌實 白鳥―武田秀

峯●小柳さよ●さようなら―原子修●北海道

文学散歩 網走刑務所―木原直彦●まゆ子と

地図を歩く(南の島の北の岬)―堀淳一●石

狩川の周囲(仙台藩の勤王始末十一)―坂

田資宏●風見鶏―水木泰・文梨政幸・宮西頼

母・中村参郎

八月号(第十四巻第八号) 163

●小説・ノコノ長ぐつ―加藤多一 夕映―

牧野法郎 十二軒物語―八森虎太郎 ロ

リイ館物語 小松珠子 ヤマセの吹く鳥―柴

村紀代 金色のチョウ―長野京子●第四回北

海道子ども本のつどい―斎藤陽子●座談会

―揺れる世の子どもたち(現代中学生気質)―

小田自郎 佐藤直一 白川康 秦正見 森

山軍治郎●児童文学特集すいひつ―石森文学

資料が故郷―来た―和田義雄 或る日の授業

―坪谷京子 障壁 者による国際年と絵本

と文学―鴻池守 赤い鳥 最後の童謡―

渡辺ひろし「故郷」まで―後藤電一「児童

文学の旅」に寄せて―小林静江 札幌松竹屋

のこと―前川康男 日本児童文学とみる(生

命観)―西田良子●有島武郎の童話 武井静

夫●零才初めのためくらしのうた―田中聖海

●北海道に於ける児童文学の現状と展望―笠

原肇●北海道文学散歩―流水の街、網走―木

原直彦●風見鶏―水木泰・文梨政幸・宮西頼

母・仲村参郎●北海道文学館のページ

九月号(第十四巻第九号) 164

●小説・昆布を拾う女―北野沈 銃声―刺賀

秀子●「のほり蒸(第一部)」作中事件日程表

―三福康太郎●隨筆・幻の高玉英―さんを探

す―堀島瑞穂 泉(ふくろう) 忌始末―北け

んじ 切りつめた話―川辺為三●石狩川

の周囲(仙台藩の勤王始末十二)―坂田資宏

●北海道文学散歩―網走への旅―木原直彦●

金子光晴研究ノート(詩の方法)―上杉浩子

●有島武郎とクロボトキン(七)―高山光二

●まゆ子と地図を歩く(光る海 曇る海)―

堀淳一●文学館のページ●風見鶏―水木泰・

文梨政幸・宮西頼母・仲村参郎

十月号(第十四巻第十号) 165

●小説・虫は深部へ―北江青●隨筆・四十年

向うからの手紙―木金圃寿 父広治 思うま

ま―酒井五十雄 深川住まい―小川精一●

石狩川の周囲(仙台藩の勤王始末十三)―

坂田資宏●まゆ子と地図を歩く(風の中の小

さな鳥)―堀淳一●短歌・魚―島―松川洋子

●俳句・石眠る―平岡一林●北海道文学散歩

―網走をうたう―木原直彦●斜眼の風景●北

海道文学館のページ●風見鶏―水木泰・文梨

政幸・宮西頼母・仲村参郎

十一月号(第十四巻第十一号) 166

●小説・初詣―木宮節一 踊る夏―藤江郁

夫●隨筆・空虚化の言葉―樋田昌志郎 外

務省往信328号―木内綾 消えた死体―橋

本絵 ハロ―叔父―菅原澄子●俳句・秋の風

―島恒人 わが寒景―川淵増雄●短歌・私

●金子光晴研究ノート(天皇制について)

―上杉浩子●斜眼の風景―新妻徳●ミラー

●高揚のための一考察―浦田博●ミラー

●ホルの美―原子修●又三郎の風―斉藤

征義●北海道文学散歩―オホツツクの海―木

原直彦●まゆ子と地図を歩く(海まどころの

秘島)―堀淳一●石狩川の周囲(仙台藩の

勤王始末十四)―坂田資宏●文学館のページ

●風見鶏 水木泰・文梨政幸・宮西頼母・仲

村参郎

十二月号(第十四巻第十二号) 167

●小説・動物爆弾―北江青 風―澤井茂夫

●隨筆・有島武郎の名画(やちだもの木立)―

八旗利郎 正方形の美学―佐佐木方齊 イノ

チガケル敵樹●ミラーホルの美―原子修●

金子光晴研究ノート(宗教について)―上杉

浩子●俳句・里の小石―名護屋トキ子●北海

道文学散歩―サロマ湖紀行―木原直彦●石

狩川の周囲(仙台藩の勤王始末十五)―坂

田資宏●まゆ子と地図を歩く(離島の孤愁)

―堀淳一●ラッシュ口場所をめぐる人びと―須

摩正敬●文学館のページ●風見鶏―水木泰・

文梨政幸・宮西頼母・仲村参郎

一九八二年

一月号(第十五巻第一号) 168

●小説・R君 金川君 村の話3)―澤田誠

一雨の夜の難たち―町田和子●斜眼の風

景・コクワ 史料原載 作家の手帖 虚構

について―高橋揆一郎●金子光晴研究ノ

ト(東洋と西洋)―上杉浩子●隨筆 二人の

作家との出会い―風間六三 初冬の記―水口

幾代 人と心のある町―香沢久里 シヤ

クシヤンの秘室―石川順一●石狩川

の周囲(仙台藩の勤王始末十六)―坂田資宏●

ミラーホルの美―原子修●ラッシュ口場所を

めぐる人びと―須摩正敏●津川俊六追悼―山

川精三 浦通彦●詩・冬の旅―萩原貢●短

歌 石狩低地帯 中山周三 曙光―山口雅子

●俳句・松の園―高橋謙一 走狗―木村敏男

●北海道文学散歩―サロマ湖 北風―二載踏み

鳴らし―木原直彦●文学館のページ●風見

鶏―水木泰 鈴木杜世春 宮西頼母 島恒人

二月号(第十五卷第二号) 169

●小説・霞の部屋―八条志馬 陸橋の上―刺賀秀子●ミラーボールの美―原千修●富田碎花と有島武郎―川並秀雄●北海道文学散歩―薄別「北風ぞ吹かん」―木原直彦●「石狩川」

の周囲(仙台藩の勤王始末十七)―坂田資宏●ラシヨロ場所をめぐめる人びと―須摩正敏●随筆・老いということ―木野工●グッハハハ強制収容所―恩村雅子 えず鹿の恋―岡村正吉●作家の手帖・モデル小説す考―高橋揆一郎●その後―林白言―二人の並木凡平・その御路時代―宮内一平●雪の村―犀川野火男●文学館のページ●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・宮西頼母・島恒人

三月号(第十五卷第三号) 170

●小説・終い湯―宮川ゆみの 冬の陰―伊藤桂子●金子光晴研究ノート―上杉浩子●ミラーボールの美―原千修●随筆・大の迷味―栗栖継 五銭と五円―思い込み―駒田信二とびこみ電話―阿部隆次 老人クラブ―須摩マリ子●ラシヨロ場所をめぐめる人びと―須摩正敏●作家の手帖・取材あどさき―高橋揆一郎●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱)―坂田資宏●北海道文学散歩―サロマ湖の三里番屋―木原直彦●文学館のページ●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・宮西頼母・島恒人

四月号(第十五卷第四号) 171

●小説・鷲―北野沈 移住家族―吉川みす江●金子光晴研究ノート(十一)―上杉浩子●ミラーボールの美―原千修●雀頭居雜記・蚊を飼う話―高橋忠弥 田口タキ(遊説的恋愛を貫いた誠実)―宮野隆●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱)―坂田資宏●随筆・同人雑誌三十年史」の刊行を終えた、いま―田中和夫筆を執れば物語かれ?―高久裕子●俳句・北の国―北建夫●ラシヨロ場所をめぐめる人びと

―須摩正敏●北海道文学散歩―サロマ湖とクメ湖―木原直彦●作家の手帖・予感について―高橋揆一郎●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・宮西頼母・島恒人

五月号(第十五卷第五号) 172

●小説・ハンロウツッパ―向井豊昭 鴉―柴田多恵●詩帖に抱りて―田口民也●ミラーボールの美―原千修●作家の手帖・響えについて―高橋揆一郎●雀頭居雜記・鳥たちとともに―高橋忠弥●金子光晴研究ノート(十二)―上杉浩子●水族館―鷲谷峰雄●随筆・クラス名簿がどいて―伊坂重孝 現代美術の表現は限りなく拡大しているもの―木路毛五郎「創成川」の九年間―倉島齊 へのぐさ―小野規矩夫●ラシヨロ場所をめぐめる人びと―須摩正敏●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱)―坂田資宏●北海道文学散歩―紋別のみち―木原直彦●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・宮西頼母・島恒人

六月号(第十五卷第六号) 173

●小説・舟母―澤井茂夫 日高の国―太田正義●随筆・札幌に現われた竹内好―飯塚朗 人生のつばやき―小松未輔 女男勇逸―山本順子●ミラーボールの美―原千修●雀頭居雜記(版画余談)―高橋忠弥●北海道文学散歩(紋別港・鴻之舞金山)―木原直彦●ラシヨロ場所をめぐめる人びと―須摩正敏●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱)―坂田資宏●作家の手帖・ポリシについて―高橋揆一郎●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・宮西頼母・島恒人

七月号(第十五卷第七号) 174

●小説・坂母―青山一実 野良のゆくえ―中紙輝●野母―道暲・直行さんまでゆく―更科源蔵 初めて坂本さんに会った日―峯孝「すずらんは食えるか」始末記―神谷忠孝 坂本直行さん―小林金三 五冊目の本―

小松未輔 直行さん―金井五郎 弔辞にかえて―水口幾代 ありがと―直行先生―小林静江●金子光晴研究ノート(十三)―上杉浩子●ラシヨロ場所をめぐめる人びと―須摩正敏●雀頭居雜記・源平草―高橋忠弥●詩・納戸神

―松岡繁雄●松岡繁雄詩集(賢女おろし)―薩川益明●作家の手帖・パランスの感覚について―高橋揆一郎●ミラーボールの美―原千修●北海道文学散歩―渚澤と本庄陸男―木原直彦●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・宮西頼母・島恒人

八月号(第十五卷第八号) 175

●特集・子どもの現実と考える●対談・子供の現実と文学―後藤竜二・森山軍治郎●N君とほく―川崎孝志●レポート―鈴木喜三夫・五十嵐よしみち・中座恰●児童文学が描く(子ども)のケンカ―西田良子●誰が子供を追いつめるのか―柴村紀代●小説・母なし子のように―富森菊枝 信子の随筆・笠原肇 ぶつちゅまん―三上敏夫●

九月号(第十五卷第九号) 176

●小説・野良のゆくえ第二回―中紙輝一 故国ではなく國後島―山形敏男●ミラーボールの美・第十回―原千修●渡辺茂との五十八年―更科源蔵●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱)―坂田資宏●ラシヨロ場所をめぐめる人びと(九)―須摩正敏●作家の手帖・イメージについて―高橋揆一郎●雀頭居雜記・越の寒梅―高橋忠弥●北海道文学散歩―北オホーツク―木原直彦●随筆・「原爆の図」展を終え

て―竹村泰子 私の北帰行―高橋三枝子 タダの本―盛美代治●美術のポシビリティー―藤原瞬と身体象象―佐々木謙二●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・瀬戸恵子・島恒人

十月号(第十五卷第十号) 177

●小説・恥じらい川―刺賀秀子 野良のゆくえ第三回―中紙輝一●随筆・三つの断章 A・B・C―田上義也 リスボンでの思い出―横道秀川 82室蘭文学塾感懐かかなまるよしあきから「超合理」への球体詩論的な転換の試み―原千修●雀頭居雜記・蝉時雨―高橋忠弥●観風歌謡考その3・都々逸・江差と高知(上)―森山弘毅●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱)―坂田資宏●美術のポシビリティーエッセー・ユリエリスと格子群―佐々木謙二●ラシヨロ場所をめぐめる人びと(十)―須摩正敏●北海道文学散歩―留門―木原直彦●風見鶏―水木泰・鈴木杜世春・瀬戸恵子・島恒人

十一月号(第十五卷第十一号) 178

●特集・北海道の中の宮沢賢治●畏怖と羨望の地―北海道―板井勝美 北海道の賢治版歌謡風景―吉正正信●札幌の夕―中沢茂 賢治の札幌と私の札幌―玉川雄介 北海道に刻した精神の沸騰―木内進 朝岡東童時代のこゝ新妻博 柳原ル彦 佐々木逸郎 イーハートボロの視座―原千修 まつくらな大きなものからの脱出―比良信治「灯の詩人」賢治―生きた賢治―研究考―内田朝雄 永遠の生をきた賢治のこと―小西正保 序説―宮沢賢治―瀬戸哲郎「われはこれ塔建つもの」―谷口正 宮沢賢治の童謡、その出会い―水田洋平 行者―澤田誠一 賢治・光太郎との出会い―木呂子敏彦 札幌への俳句旅行―幻におわった賢治の約束―藤府成●評論・宮沢賢治と「大銀河系図」―斉藤文一 宮沢賢治とエーゲ海―金

三

三

三

子民雄「宛名のなみ手紙」及び「修学旅行復  
命書」試論―西田良子 賢治北海道地理―八  
森虎太郎 遠くならぬ一斉藤征義「やま  
な」及び「ダナリ」について若手考察―  
石塚繁幸「或る農学生の日誌」についての  
考察―和田義雄 空を飛ぶもの―武沢和雄  
賢治晩年における(風への感想―結構雄雅  
詩・錫の章―山本丞●北海道文学散歩―増  
毛―木原直彦●風見鶏―水木秦・鈴木杜世春・  
瀬戸恵子・鳥恒人

十二月号(第十五卷第十号) 179号

●小説・青春のインク帳―杉村映子 野  
良のゆくえ(四)―中紙輝●随筆・函館文  
庫―長谷川誠一 自立を躊躇う男たちへ―三  
浦昇 小樽に生れて―森本光子 昔日の面影  
を求めて―大澤紀恵子●ミラーボールの美  
「十二」―超現実」から「超合理」への球体詩  
論的な転換の試み―原子修●美術のポシビ  
リティⅢ・シーサイド展リポート―佐々木謙二  
●雀頭居雜記・大黒柱の念珠―高橋忠弥●北  
海道文学散歩―増毛・別荘の村―木原直彦●  
「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱七)―坂田資宏  
●ラシヨ川」の場所をめぐる人びと(十二)―須  
摩正敏●小林多喜二と私のこと―没五十年を  
前にして―風間六三●俳句・眼中抄 北光星  
●風見鶏―水木秦・鈴木杜世春・瀬戸恵子・  
鳥恒人

一九八三

二月号(第十六卷第一号) 180号

●小説・零碼―本元千鶴子 絵馬―松岡繁雄  
野良のゆくえ(五)―中紙輝●随筆・河原  
撫子の咲くえ―小松瑛子 私の中の一産  
郭―佐藤喜一 Y君のごと―重森直樹 産  
閣開拓使と反骨の死―田中和夫●真実への  
ひとり旅(一)―栗栖繼●ミラーボールの美  
(十三)―原子修●遙かなる断章Ⅰ―理すきた

告白―小泉謙●雀頭居雜記 雑貨屋のステッ  
キ―高橋忠弥●ラシヨ川」の場所をめぐる人びと  
(十二)―須摩正敏●北海道文学散歩―雄冬  
―木原直彦●石狩川」の周囲(奥羽の戦乱八)  
―坂田資宏●美術のポシビリティⅣ・花田和  
治の所手性―佐々木謙二●詩・岳樺のある風  
景―佐々木逸郎 冬のこけし―菊谷峰雄●俳  
句・亥の一番星 園田夢蒼村 初茜―水田井  
一郎 初靨―山岸巨狼●新春詠―中山信ノ堀  
井美鶴 野原水瀬ノ土蔵培人ノ金坂吉児ノ猪  
股泰●小林孝彦●書評●風見鶏―水木秦・鈴  
木杜世春・瀬戸恵子・鳥恒人

二月号(第十六卷第二号) 181号

●小説・あの日、なぜ―齋藤秀世 実録老残  
記―桜井雅彦 野良のゆくえ(終)―中紙輝  
●随筆・みじめな小樽 運河―小笠原玲  
文学者訪問―藤井東陽 同居と別居―能藤玲  
子 北一条教会堂は消えた―富岡木之介●真  
実へのひとり旅(二)―栗栖繼●遙かなる断  
章Ⅱ・銀座に傷ついた―小泉謙●作家の手  
帖・感傷に―佐々木謙二●詩・迷い野  
に―山本丞 旅上―助川徳是●雀頭居雜記・  
禁じられた小旅行―高橋忠弥●ラシヨ川」の  
場所をめぐる人びと(十三)―須摩正敏●美術の  
ポシビリティⅤ・彫刻の量と空間―佐々木謙  
二●北海道文学散歩―昇寒別岳●留明沿岸―  
木原直彦●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱九)  
―坂田資宏●風見鶏―水木秦・鈴木杜世春・  
瀬戸恵子・鳥恒人

三月号(第十六卷第三号) 182号

●小説・十一月―篠原敦子 知覧巡礼―壹木  
茂●有島武郎―親子―論・補遺―その位置づ  
けを巡って―高山亮 友木生との関係―  
賢治の彫刻設計―八森虎太郎 海牛化石談  
義(もしも)―白井重有 利尻 本別Uター  
ン札幌―狩野絵子●真実へのひとり旅(三)  
―栗栖繼●遙かなる断章Ⅱ夜来香と鉄―小泉

謙●美術のポシビリティⅥ廃物芸術と形而上  
的アイロニー―佐々木謙二●北海道文学散歩  
―古丹別―三毛別―木原直彦●津川移民―  
森秀太郎・森巖●雀頭居雜記・日君の手紙―  
高橋忠弥●作家の手帖・なぜ書か―高橋揆  
一郎●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱十)―坂  
田資宏●書評・「草上四子」鳥居十三雄著―  
澤田誠一●風見鶏―水木秦・鈴木杜世春・瀬  
戸恵子・鳥恒人

四月号(第十六卷第四号) 183号

●小説・解化―澤井繁男 シソーの夏―杉  
村映子 バソンの館―梅基謙之介●随筆・  
人名録の話―堀淳一 ポント浜の事件―金子  
きみ 医療の原点―若木光允欣●真実へのひ  
とり旅(四)―栗栖繼●遙かなる断章Ⅳ・鬼  
哭歌歌―小泉謙●雀頭居雜記・春をまちなが  
ら―高橋忠弥●「石狩川」の周囲(奥羽の戦  
乱十一)―坂田資宏●美術のポシビリティⅦ  
―佐々木謙二●北海道文学散歩―羽幌―初山  
別―木原直彦●十津川移民(二)―森秀太郎・  
森巖●風見鶏―水木秦・鈴木杜世春・瀬戸恵  
子・鳥恒人

五月号(第十六卷第五号) 184号

●小説・達夫の木―刺賀秀子 愛人、さいと  
うぜんいち●随筆・詩の似合う人 文梨政幸  
高昭二のこと―白川仁康 女子大生の文体―日  
川昭二●遙かなる断章Ⅴ 玄海灘の庭―高橋  
忠弥●真実へのひとり旅(五)―栗栖繼●北  
海道文学散歩―天光・焼尻―木原直彦●十津  
川移民(三)―森秀太郎・森巖●風見鶏―水  
木秦・鈴木杜世春・瀬戸恵子・鳥恒人

●小説・配達人社―北江青 浴室―木宮節子  
老婆ふたり―千本さきよ●随筆・知里真志保  
手筆―山川力 講演―小樽山博 からおけ考

六月号(第十六卷第六号) 185号

●小説・耳から風がはいつて―杉村映子 乳  
房堂―菅原政雄 時計―佐藤玲子●随筆・82  
長春・畏敬する友に送る書信―石田孝吉 沼  
田流火のこと―大森亮三 空知太―田中忠昭  
●真実へのひとり旅(七)―栗栖繼●遙かな  
る断章Ⅶ・アウシユビツの暗い霧―小泉謙  
二●北海道文学散歩―樺太編(Ⅰ)―木原直彦  
●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱十三)―坂田  
資宏●十津川移民(五)―森秀太郎・森巖●  
二百号記念(北方文芸賞)原稿募集●風見鶏  
―北野慎人・永井浩・瀬戸恵子・鳥恒人

八月号(第十六卷第八号) 187号

●小説・蚊帳と兵曹―山田広 薄明の出会い  
―今堀陸夫●真実へのひとり旅(八)―栗栖  
繼●美術のポシビリティⅧ・絵画と彫刻の間  
―佐々木謙二●随筆・文藝―若者の手に戻る  
か 水木秦 狩太・美馬牛―上木寛―玉川雄  
介―まを捉えよ―木村淳子●遙かなる断章  
Ⅷ・続アウシユビツの暗い霧―小泉謙  
二●「石狩川」の周囲(奥羽の戦乱十四)―坂田  
資宏●北海道文学散歩 樺太編(Ⅱ)―木原  
直彦●十津川移民(六)―森秀太郎・森巖●  
二百号記念(北方文芸賞)原稿募集要項●風  
見鶏―北野慎人・永井浩・大塚陽子・鳥恒人

七月号(第十六卷第七号) 186号

●小説・美沙子の場合―阿部信一●随筆・珍

九月号(第十六卷第九号) 188号

●小説・美沙子の場合―阿部信一●随筆・珍

島遊歴―橋場文俊 立原道彦文学碑―堀澤光儀 札幌、ビールそしてワイン―及葉啓生●詩篇集 論理の情念(一)―木内直彦●函館港春夜光景 斉藤正義●美術運動 佐々木謙X・マニフェストのない美術運動

二●北海道文学散歩 樺太編(3)―木原直彦●石狩川の周囲(奥羽の戦乱十五)―坂田資宏●書評「三つの骨盤」小笠原克●真実へのひとり旅(九)―栗橋雅●津川移民(七)―森秀太郎●森蔵●俳句・百り金崎 葛杖 鶴岡 鈴木白歩●遙かなる断章IX 歌舞伎俳優に流れる血―小泉眞●二百号記念(北方文芸賞 原稿募集要項)風見鶏―北野慎人・永井浩・大塚陽子・金谷信夫

十月号(第十六卷第十号) 189

●小説 優しい声のポピュラーソング―栗田桂子 夜間救急病院―梅基謙之介●随筆・ゆつくりやつてくるもの―西村英樹 土別のふだん記運動―斉藤昌淳 逆説としての北方文芸(一)への期待―中館寛隆●真実へのひとり旅(十一)―栗橋雅●津川移民(八)―森秀太郎●森蔵●遙かなる断章X・市川景之助との出会い―小泉眞●論理の情念(二)―木内直彦●北海道文学散歩 樺太編(4)―木原直彦●俳句・朝市歌―四方万里子●石狩川の周囲(奥羽の戦乱十六)―坂田資宏●二百号記念(北方文芸賞 原稿募集要項)風見鶏―北野慎人・永井浩・大塚陽子・金谷信夫

十一月号(第十六卷第十一号) 190

●小説 バックノイズ―深海秀俊 向かいの女―野村昌次●随筆 月光板面―坂本幸四郎 私の結城庄司氏―石川徹 ランポ―ラダグの足音―橋本千津子●真実へのひとり旅(十)―栗橋雅●津川移民(九)―森秀太郎●森蔵●石狩川の周囲(北海道開拓志願)―坂田資宏●北海道文学散歩 樺太編(5)―木原直彦●二百号記念(北方文芸賞 原稿募集

集要項)北海道文学集會ご案内●風見鶏―北野慎人・永井浩・大塚陽子・金谷信夫

十二月号(第十六卷第十二号) 191

●小説 救出―六戸律 スリ山器情―鈴木扶 研明のやかん―長屋の3●随筆 炭鉱と文学―高橋英一郎 川辺三子 杜宅の子―小林金三 北炭タ張と私の思い―佐藤太勝 一九五〇年前の炭鉱の文化運動―菅井彬人 長篇「炭鉱労働者」を書き続けて―畑中康雄 昔日のごとく木路毛五郎●坑夫一代 第一章 黒い墓標―永井幸一郎 森山軍治郎●カンテラの灯を消すな―林義実●ヤマに生える―短風文平●詩 英さん―まつをかま・しげを―短歌―岡崎正之 鎌田一●俳句 鈴木光彦・松坂凡平 杉野黙勇●刈影 怒りの文字を残そう―山川力年表 近代北海道炭鉱小史(1)―桑原真人●北海道文学散歩 樺太編(6)―木原直彦●風見鶏―北野慎人・永井浩・大塚陽子・金谷信夫

(二九八四年)

●新月号(第十七卷第一号) 192号  
●小説 嘘と恋と十田三四郎●詩 太陽へのラブソング―原子修 鳥のうた―小松英子●短歌 丹頂鶴―矢島京子 新年記 荒谷七生 雪のまはれば―足立敏彦●俳句 福笑い―川端麟太 去年今年―豊島博男 銀の風―新出朝子●真実へのひとり旅(十二)―栗橋雅●随筆 オオカミの物語―風山稗生 地蔵菩薩の墓―上藤秋次 ことしの雪―島恒人 三十年かへばの話―篠遠ひろ子●坑夫一代(二) 第六共愛寮の人びと―永井幸一郎 森山軍治郎●書評 政治の中のアイヌ民族―鷺田小彌太●刈影 亀背の感性的変奏―山川力●津川移民(十)―森秀太郎●森蔵●遙かなる断章XI にはお・つあいちえん・ゴキゲンサン―小泉眞●北海道文学散歩

樺太編(7)―木原直彦●石狩川の周囲(北海道開拓志願二)―坂田資宏●風見鶏―北野慎人・永井浩・山名康郎・金谷信夫●年表 近代北海道炭鉱小史(2)―桑原真人

二月号(第十七卷第二号) 193

●小説 祺氏四度―杉村映子 朽ちていた木戸―柴田多恵●随筆 八木先生―松尾正路 古在紫琴のこと―北田幸恵 三國にて(高見順・三好達治)―中川悦子●真実へのひとり旅(十三)―栗橋雅●津川移民(十二)●森秀太郎●森蔵●石狩川の周囲(北海道開拓志願三)―坂田資宏●遙かなる断章XII 小泉眞●北海道文学散歩 樺太編(8)―木原直彦●刈影 政治のなかのアイヌ民族―山川力●書評 1945年 小林秀雄―鷺田小彌太●俳句 一人旅―三國圭子●風見鶏―北野慎人・永井浩・山名康郎・金谷信夫

三月号(第十七卷第三号) 194

●小説 スームレンズの奥から―不破俊輔●随筆 親のにおい―小槍山博 居酒屋開業十五年とパンチュー―馬場昭 中野重治生家跡―恩村雅子●津川移民(十三)―森秀太郎●森蔵●刈影 政治のなかのアイヌ民族3―山川力●北海道文学散歩 樺太編(9)―木原直彦●真実へのひとり旅(十四)―栗橋雅●書評 二代高橋英一郎●鷺田小彌太●坑夫一代(三) がいむらし日記(上)―永井幸一郎 森山軍治郎●年表 近代北海道炭鉱小史(3) 桑原真人●石狩川の周囲(北海道開拓志願四)―坂田資宏●風見鶏―北野慎人・永井浩・山名康郎・金谷信夫

四月号(第十七卷第四号) 195

●小説 碑前のスミレ―原田浩 秋の夜長―島山英治郎●随筆 二風谷の冬―連池悦子 私の終戦日記メモ―風間六三 ある青春―伊坂重孝●真実へのひとり旅(十五)―栗橋

雅●刈影 政治のなかのアイヌ民族4―山川力●作家の手帖 性格 氣質について―高橋英一郎●北海道文学散歩 樺太編(10)―木原直彦●石狩川の周囲(北海道開拓志願五)―坂田資宏●坑夫一代(四) がいむらし日記(下)―永井幸一郎 森山軍治郎●詩 白鳥たち―河部文一●書評 池田浩士 大衆小説の世界と反世界―鷺田小彌太●津川移民(十三)―森秀太郎●森蔵●風見鶏―北野慎人・永井浩・山名康郎・金谷信夫

五月号(第十七卷第五号) 196

●小説 彼岸校のころ―北野沈 密行―澤井繁男 秘のモナリザ―後藤あや子●随筆 希望 縮習 虚実―木間富雄 オランダ人の氣構―西野頼母 四海無極―橋本左内●真実へのひとり旅(十六)―栗橋雅●刈影 政治のなかのアイヌ民族5―山川力●作家の手帖 女について―高橋英一郎●坑夫一代(五) 天下の先山(上)―永井幸一郎 森山軍治郎●北海道文学散歩 樺太編(11)―木原直彦●津川移民(十四) 森秀太郎●森蔵●石狩川の周囲(北海道開拓志願六)―坂田資宏●書評 川村二郎 内田百閒論―無意味の涙―鷺田小彌太●俳句 羅漢寺―木村敏男●風見鶏―北野慎人・永井浩・山名康郎・金谷信夫

六月号(第十七卷第六号) 197

●小説 雨 さいとうぜんいち 春は名のみで池本透 春の藝参 建部直文 極楽とんぼ―沓沢久昌●真実へのひとり旅(十七)―栗橋雅●刈影 政治のなかのアイヌ民族6―山川力●作家の手帖 伸子 覚え書き―高橋英一郎●坑夫一代(六) 天下の先山(中)―永井幸一郎 森山軍治郎●北海道文学散歩 樺太編(12)―木原直彦●櫻田録―津川移民(十五) 森秀太郎●森蔵●石狩川の周囲(北

海道開拓志願七)一坂田資宏●風見鶏一鈴木杜世春・永井浩・山名康郎・金谷信夫

七月号(第十七卷第七号) 1998

●小説・半裸者―海相晋五 鬼燈―藤田節子  
●隨筆・カンニング―松尾正路 身辺雑記―森本三郎 葉の花、駒八―澤田誠 とうさんの靴―木村淳子 真実へのひとり旅千八―栗栖継●刃影・政治のなかのアイヌ民族―山川力●作家の手帖・小説「はぶらと軍神」の周辺―高橋撰一郎●坑夫一代(七)天下の先山(下)―永井幸一郎・森山軍治郎●櫻田録・十津川移民(十六)―森秀太郎・森蔵●北海道文学散歩・樺太編(13)―木原直彦●書評・中村稔『齋藤茂吉私論』―鷺田小彌太●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検六)―坂田資宏●短歌・花ぐもり―大久保興子●俳句・雨の浮粟―笠川弘子●風見鶏―鈴木杜世春・永井浩・山名康郎・金谷信夫

八月号(第十七卷第八号) 1999

●小説・公孫樹―中野武彦●隨筆・私の私と旅と―松本春子 水のある風景―本田錦一郎 柳絮の舞う街で―和田武雄 啄木いのなま集案―森川男作●真実へのひとり旅(十九)一栗栖継●女権と文学の間―北田幸恵●刃影・マスコミの責任―山川力●「石狩川」の周囲(北海道開拓志願九)―坂田資宏●坑夫一代(八)・ヤマの運命(上)―永井幸一郎・森山軍治郎●作家の手帖・小説「はぶらと軍神」の周辺―高橋撰一郎●書評・三浦雅士「主体の変容―現代文学ノート」―鷺田小彌太●北海道文学散歩・樺太編(14)―木原直彦●風見鶏―鈴木杜世春・永井浩・山名康郎・金谷信夫

九月号(第十七卷第九号) 2000

●北方文芸二百年記念号  
●北方文芸二百年記念号

●北方文芸二百年記念号

一小松伸六 保田与重郎宛元原道造の手紙のこと―杉浦明平 風紋のある風景―堀淳一「霞雪」断想―日高晋 文学と私―小池喜一 北海道と埼玉をつなぐ歴史の糸―小池喜一 緑陰漫筆 中紙輝一●詩・恥にまみれて―風山瑕生●対談「表現をめぐる文学と哲学の接点」―亀井秀雄・鷺田小彌太●賞発表☆川霧の流れる村で―藤沢清典☆雪道―澤井繁男 選評―野間宏・吉行淳之介・八木義徳・井上光晴●出刃のころ―小槍山博●真実へのひとり旅(二十)栗栖継●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検七)―坂田資宏●作家の手帖・「清吉の暦」覚え書①―高橋撰一郎●刃影・おとなの課題―山川力●書評(二)―中野武彦●花菜雨―荷川における草木の意味―原田直彦●北海道文学散歩・樺太編(15)―木原直彦●風見鶏―鈴木杜世春・永井浩・山名康郎・金谷信夫●北方文芸 総目次

十月号(第十七卷第十号) 2001

●創作・砂嘴のある風景―菅原政雄 公孫樹(3)―中野武彦●隨筆・資料・安西冬衛北海道旅行―山田野夫 詩人の願―堀義孝一ロックランドへの誓い―市川政司 幸福の匂い―高倉とき●真実へのひとり旅(二十一)栗栖継●刃影・ディレクションの独白―山川力●作家の手帖・清吉の暦「覚え書②」―高橋撰一郎●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検八)―坂田資宏●書評・石城謙吉「イワナの謎を追う」―鷺田小彌太●詩・ザクロの飛沫―戸塚美波子●坑夫一代(九)・ヤマの運命(下)―永井幸一郎・森山軍治郎●北海道文学散歩・樺太編(16)―木原直彦●北方文芸を励ます会を終えて―山川力●風見鶏―鈴木杜世春・永井浩・山名康郎・木村敏男

十一月号(第十七卷第十一号) 2002

●創作・公孫樹(4)―中野武彦●北方文芸

●創作・公孫樹(4)―中野武彦●北方文芸

賞候補作・兄嫁へのごぼ―白井秀●隨筆・数理にまつわる詩人の関心―木内進 秋日憂色―重森直樹 ある提言―山尾光弘●真実へのひとり旅(二十二)―栗栖継●刃影・詩・三岸好太郎における回帰―山川力●作家の手帖・「清吉の暦」覚え書③―高橋撰一郎●坑夫一代(十)・地底の叫び(上)―永井幸一郎・森山軍治郎●書評・水谷昭夫「山本周五郎の生涯」―鷺田小彌太●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検八)―坂田資宏●短歌・朱夏―横屋直男●北海道文学散歩・樺太編(17)―木原直彦●風見鶏―鈴木杜世春・永井浩・山名康郎・木村敏男

十二月号(第十七卷第十二号) 2003

●創作・北方文芸賞候補作・イスラムの戦場―北江晋 公孫樹(5)―中野武彦●隨筆・二度目の停年―井手真夫 井伏文学と旅―荒川有史 北海道みんぞく文化研究会成立の背景―宮良高弘「道標」ある影―秋庭功バリ大混線―菅戸逸夫●真実へのひとり旅(二十三)―栗栖継●刃影・小樽運河暮色 声は薄れて―山川力●有島武郎の札幌の案上―前川公美夫●作家の手帖・焼肉屋にて―高橋撰一郎●書評・日高晋「出発点としての崩壊」―鷺田小彌太●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検四)―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(18)―木原直彦●俳句・椈谷美枝子・豊島博男●風見鶏―鈴木杜世春・永井浩・山名康郎・木村敏男

二一九五年

一月号(第十八卷第一号) 2004  
●創作・北方文芸賞候補作 痴人のノートから―根津己實子 公孫樹(6)―中野武彦●隨筆・ていしばと―田中忠雄 機織唄―木内線 ああ……(北海道)―平村芳美 小さな随筆誌「紅」の事始めのこと―八森虎太郎●新春を詠う・詩・初日―三村美代子

●創作・北方文芸賞候補作 痴人のノートから

短歌・東雲―山本司 級会―田村哲三 俳句・初日―鶴田玲子 初詣―牧虹太●刃影・中国からきた四人の農業研修生―山川力●真実へのひとり旅(二十四)―栗栖継●有島武郎の札幌の家(下)―前川公美夫●北海道文学散歩・樺太編(19)―木原直彦●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検五)―坂田資宏●書評・江藤淳「自由と禁忌」―鷺田小彌太●風見鶏―鈴木杜世春・齊藤征義・山名康郎・木村敏男

二月号(第十八卷第二号) 2005

●創作・響きの浜―佐藤玲子 翠槍(あすなろ)(上)―宮内一平 公孫樹(7)―中野武彦●隨筆・わが友・内藤晋+加藤多一 業務連絡書―田中和夫 札幌創建社のこと―藤島隆 失われた絵―工藤秋弥●刃影・新しいアイヌ民族像を創造する日―山川力●真実へのひとり旅(二十五)―栗栖継●芥川文学の中の女―橋本稔●詩・火焔―新井章夫●書評・池田浩士「読む場所 書く時」―鷺田小彌太●北海道文学散歩・樺太編(20)―木原直彦●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検六)―坂田資宏●風見鶏―鈴木杜世春・齊藤征義・山名康郎・木村敏男

三月号(第十八卷第三号) 2006

●創作・カノンの女―宮内節子 公孫樹(8)―中野武彦 翠槍(下)―宮内一平●隨筆・萬と三岸好太郎―堀澤光儀 精神文化を考ふる―立花司 桂月と自然と詩―石川俊夫 紺頂を拝む―須藤隆徳●刃影・アフリカで何だ?―山川力●真実へのひとり旅(二十六)―栗栖継●書評・根津己實子「痴人のノートから」―鷺田小彌太●北海道文学散歩・樺太編(21)―木原直彦●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検七)―坂田資宏●有島武郎未発表書簡から「橋渡」・禮次その他―高山亮二●風見鶏―鈴木杜世春・齊藤征義・山名康郎

●創作・響きの浜

木村敏男

四月号(第十八巻第四号) 207

●創作・公孫樹(9)―中野武彦、夏果て  
―伊藤桂子●隨筆・詩人・秋山清さんのこと  
―坂本幸四郎 梅田事件余瀆―林白言 原野  
の詩人―玉井裕志「伽椰子のために」を觀  
たいわけ―草野ゆき子●俳句・花こぶし鳥  
ふで女●刈影・かぜで寝込み●雑誌を読む  
―山川力●真実へのひとり旅(二十七)―栗  
栖●フオクナ―晩年の恋(上)―菊池昭  
久保栄の父・久保栄太郎の生涯(上)―野川  
川道子●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検  
八)―坂田資宏●書評・詩季ゆい「雉子も鳴  
かずば」―鷗田小彌太●谷沢水一「雑子も鳴  
かずば」―鷗田小彌太●書評・季ゆいの思念  
―木原直彦●風見鶏―鈴木杜世春・斉藤征義・  
山名康郎・木村敏男

五月号(第十八巻第五号) 208

●創作・猫の骨(上)―田村喜恵 公孫樹  
(10)―中野武彦●隨筆・私が三度泣いた日  
―谷口芳男 幻の雑誌「四尖」の発見―松井  
勝美 騎馬民族幻想―新岡武彦●刈影・中野  
好夫先生を悼む―山川力●フオクナ―晩年  
の恋(下)―菊池昭●坑夫一代(最終号) 地  
底の叫び(下)―水井幸一郎 森山軍治郎●  
ヘルマン・ヘッセの手紙(1)―井手貴夫  
久保栄の父・久保栄太郎の生涯(下)―野川  
川道子●書くひと読むこと(1)―小説の不振  
?―鷗田小彌太●書評・桐山襲(風のク  
ロニクル)―堀川哲●北海道文学散歩 樺太  
編(23)―木原直彦●「石狩川」の周囲(邦直  
の北海道探検九)―坂田資宏●風見鶏―鈴木  
杜世春・斉藤征義・山名康郎・山田緑光

六月号(第十八巻第六号) 209

●創作・公孫樹(最終回)―中野武彦 夕惑  
い―畠山英治郎 猫の骨(下)―田村喜恵●

随筆・福水武彦さんのこと―伊藤太郎 マロ  
ニエ賛歌―吉田昭穂 らんぷ―浅原健蔵 木  
の記憶―岸村茂雄●刈影・みんながウタリ問  
題話話を注目している―山川力●ヘルマン  
ヘッセの手紙(2)―井手貴夫訳●書評・  
井上ひさしのエッセイ集よせて―堀川哲●  
書くひと読むこと(2) 大衆の芸術化―鷗田  
小彌太●北海道文学散歩 樺太編(24)―木  
原直彦●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検  
十一)―坂田資宏●俳句・紙の白さ―川増潤雄  
●風見鶏―鈴木杜世春・斉藤征義 山名康郎・  
山田緑光

七月号(第十八巻第七号) 210

短編小説特集  
●創作・ベジタリアンの反乱―小日向白郎  
両音―斎藤秀世 つらつら―原田浩 ビビア  
ン―杉村暎子 冬近々―北野流●隨筆・ピン  
クの紙―榎谷美枝子「十津川移民」を終え  
て―森蔵 馬―森敬●刈影・刻んでいるこの  
時は―山川力●有島武郎とハンス・コラー  
高山亮二●書くひと読むこと(3)―かきり  
なく重く、たえよなく軽く―鷗田小彌太  
●ヘルマン・ヘッセの手紙(3)―井手貴夫  
訳●書評・金泰生「私の人間地図」―堀川哲  
●北海道文学散歩 樺太編(25)―木原直彦  
●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検十二)  
―坂田資宏●風見鶏―鈴木杜世春・斉藤征義  
村井宏・山田緑光

八月号(第十八巻第八号) 211

●創作 紫陽花村までビートナツたつ―篠原  
敦子 絵の構図(さいとうぜんいち 瘦(ま  
むし)―高津磨古刀●隨筆・ビートンビシヤ  
ス―小笠原克 サイパン島の神社のこと―相  
神達夫 愛話器のむこう側―谷口佳子 修羅  
場―内田延一 答えのない問い―熊谷政江  
宮様のナギキ―中西章一 私の昭和史―山  
内栄治●刈影・ベトナム戦争神経症―山川力

九月号(第十八巻第九号) 212

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

十月号(第十八巻第十号) 213

●創作・沖繩、そして島―北江青、笑う機械  
―小日向白郎●隨筆・「ふだん記」主宰橋本  
義夫の死―岡田眞美 拝啓ルさん―歌偶友  
義・フーちゃん、羽虫―森蔵 近・現代史研  
究と新聞史料―桑原真人 ひろしまに棲  
んで六年、そして三年―村山治郎●民衆の中  
の光と影・少年期の空欄(上)―山内栄  
治●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷口孝男●  
刈影・貫塩喜蔵エカシに捧げる―昶詩―山川  
力●北海道は、はいえ、むら。はないのか  
―宮良高弘●書評・大江健三郎「小説のたく  
らみ知の楽しみ」―堀川哲●「石狩川」の周  
圍(邦直の北海道探検十四)―坂田資宏●北  
海道文学散歩 樺太編(28)―木原直彦●新

十一月号(第十八巻第十一号) 214

現代女流作家特集  
●特集Ⅰ・不遇な女の自己崩壊―水野浩二・  
旧約的世界における復讐の情念―太田弘子●  
特集Ⅱ・梨香―藤原誠子 地蔵さんの行進―  
今井美穂子 夕咲えの時―後藤あや子 明け  
てゆく横―佐藤瑠子、そして自由―飛ぶと  
いう―樹谷芳枝 虫たちの棲家―佐藤桃  
子 いくつかどこで流れ星―宮川ゆみの●特  
集Ⅲ・座談会、小説の功罪―高野ケイ・太田  
三恵子 狩野絵美子 山路ひろ子 二取由子  
西川和恵、司会―鷗田小彌太●特集Ⅳ・アン  
ケル●追悼更科源蔵さん―澤田誠一●民衆  
の中の光と影・少年期の空欄(下)―山  
内栄治●刈影・夏の四川省影裏の記―山川力  
●書評 松本健一「死語の戯れ」―堀川哲●  
「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検十五)―  
坂田資宏●北海道文学散歩 樺太編(29)―  
木原直彦●風見鶏―鷗田小彌太・斉藤征義・  
村井宏・山田緑光

十二月号(第十八巻第十二号) 215

更科源蔵追悼情号  
●グラフィア・ありし日の更科さん 座談会・  
更科源蔵の世界・人と作品の位置をめぐって  
―佐々木逸郎・藤本英夫・小笠原克 司会―  
森山軍治郎●追悼エッセイ・追悼―草野君の  
思ひわが友源蔵さん―竹内てるよ 更科君の  
思い出し山室静 更科さんの思い出し小松伸  
六 巨ききな掌の一人木義徳「種薯」のこ  
ろ 追悼の胸に灯りをともして―田上義也  
更科先生のこと―伊東廉 更科源蔵さんこそ  
ほんもの原野人―水田洋平 私だけの更科  
さんへの甘え―中沢茂 ああ更科さん―原子

●書くひと読むこと(4)―鷗田小彌太●書  
評・加藤典洋「アメリカ」の影―堀川哲●  
ヘルマン・ヘッセの手紙(4)―井手貴夫訳  
●北海道文学散歩 樺太編(26)―木原直彦  
●「石狩川」の周囲(邦直の北海道探検十二)  
―坂田資宏●風見鶏―森山軍治郎・斉藤征義・  
村井宏・山田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

●創作・わたしのジュステイヌ―不破俊輔  
朝の女―伊藤桂子●隨筆・大学生活―田辺孝  
好 アーティストセブイングタイムの契め―西  
尾源太郎 お好さんの口紅―菅原澄子 国際  
協力の植林―長三勇●刈影・禁書禁書のこと  
―山川力●長編評論・浮標と吃水線Ⅱ―谷  
口孝男●有島武郎の御料地の家―前川公美夫  
●有島武郎邸再考―秋庭功●ヘルマン・ヘッ  
セの手紙(5)―井手貴夫訳●書評・池田浩  
士「読む場所・書く時」―堀川哲●北海道文  
学散歩 樺太編(27)―木原直彦●「石狩川」の  
周囲(邦直の北海道探検十三)―坂田資宏●  
風見鶏―鷗田小彌太 村井宏・山  
田緑光

修・タカアシさん・高橋英一郎 存在感の人  
―和田謙吾 更科さんが道農会の給料取りで  
あったころのこと―福島瑞穂 更科先生は小  
説家だった―小椋山とトラックの戸―小  
松英子 ケンゾーさんと呼ぶひと―巨塚美生  
子 更科源蔵 小論 鳥居省三 序説 更  
科源蔵の詩 水井浩 更科源蔵詩抄 更科  
源蔵年譜 刈野 更科さんとアイヌ民族 山  
川力 民衆の中の光と影 若き記者たち(上)  
―山内栄治 北海道文学散歩 樺太編(30)  
―木原直彦 風見鶏―川辺為三 斉藤征義・  
村井剛 山田緑光

二一九八号

一月号(第十九卷第一号) 216

●創作 人の、烏ター北江青 礼服の木下順  
一 隨筆 火の会幻想 水瀧進彦 はぐ  
れ宗教・宗教くすれ 土屋博 ジャズの効用  
―佐野良二 更科さんは、アイヌに何を残し  
ていったのか―江原光太 弟子屈の町で―風  
間六三 悼 下村保太郎 木内達 三シボジ  
ウム 書くこと 生きること 想像力の制約  
を―堀川哲 言葉を抱きしめて―橋本征子  
をオホす心理劇 寺久保友哉 書評 吉本隆  
明 重層的な非決定 堀川哲 長編評論  
浮標と吃水線Ⅱ 絶絶した志と詩 谷口孝男  
中の光と影 若き記者たち(下) 山内栄治  
●石狩川 〓の周囲(邦直の北海道探検十六)  
―坂田資宏 北海道文学散歩 樺太編(31)  
―木原直彦 風見鶏―森山軍治部 斉藤征義・  
細井剛 比良晴男

二月号(第十九卷第二号) 217

地域の文学特集  
●創作 符号 相良主彦 擁抱―吉田典子 ●  
座談会 風土の中で今、何を何故書くのか!  
―堂本茂 井上彪 岡崎守 中村久子 今井

美嶺子 住吉淑子 司会 川辺為三 〓アンケ―  
ト 刈野 少数民族点描 山川力 民衆の中  
の光と影 谷間からの抵抗(上) 山内栄治  
●隨筆 会いませず されど 風山瑠生 更  
科さんを悼む 八森虎太郎 更科先生の厚い  
胸 西村信 若い友人達への便り 三浦四郎  
文学伝習所のこと 鈴木聖子 産休代替教員  
大澤信子 ●書評 神話的創造力の問題―  
堀川哲 北海道文学散歩 樺太編(32) 一木  
原直彦 ●石狩川 〓の周囲(小野省八郎の現地  
運動) 一坂田資宏 風見鶏 川辺為三 齊  
藤征義 細井剛 榛谷美枝子

三月号(第十九卷第三号) 218

●創作 ハムスター) になった少年 本吉洋  
子 いちめんげんげ 栗田桂子 ●隨筆 明  
治のロケ 親と 葉亭四迷 亀井秀雄 カラ  
スの一家 平野温美 美しき地名 藤井大  
西泰久 ●刈野 きみ 傲りたもうことなれ  
―山川力 民衆の中の光と影 谷間からの抵  
抗(中) 山内栄治 長編評論 浮標と吃水  
線Ⅳ 表現への渴望 全共闘小説 谷口孝男  
●アマデウス 試験 乾野 ルマン・ヘッ  
セの手紙(6) 一井手貴夫 賦 月 〓の喪失  
「立待野」の語源をめぐる―原田浩 ●書評  
坂本幸四郎著「涙の谷を過ぎると」 小林  
金三 本田錦一郎「アル」河岸から、ヨ  
ロッパの原風景を旅する 一川久保見志 ●石  
狩川 〓の周囲(小野省八郎の現地運動二)  
―坂田資宏 風見鶏 鷺田小彌太 斉藤征義・  
細井剛 比良晴男

四月号(第十九卷第四号) 219

●創作 狂人記 田山英治部 水の中 小池  
進 うれし―田山正義 ●隨筆 二つの会  
川西政明 弱者の光芒 重兼芳子 名もなく  
花もなく 小松茂 風土と冒険 高文彦 増  
毛のウニ 香川良道 彫と漆と私と 原田史

子 徳力牧之助さんを悼む 澤田誠一 ●刈  
野 金重培氏の「世評」 山川力 民衆の中  
の光と影 谷間からの抵抗(下) 山内栄治  
●北海道文学散歩 樺太編(34) 一木原直彦  
●書評 高橋明子著「エターナル・ビーフの生  
れた町」 小田節子 ●石狩川 〓の周囲(小野  
省八郎の現地運動三) 一坂田資宏 風見鶏―  
川辺為三 斉藤征義 細井剛 比良晴男

五月号(第十九卷第五号) 220

●創作 やとかり私語 金子きみ ●隨筆 冬  
季アジア大会と私 吉田翠 わが出版記念会  
―前川道寛 後の正面 廣瀬誠 ●刈野 原  
爆の図のある黒い館 山川力 民衆の中の光  
と影 風と沈黙(上) 山内栄治 ●書評 版  
と影 原 有徳のネガとポジ 一木原直彦 ●石狩  
川 〓の周囲(小野省八郎の現地運動四) 一坂  
田資宏 北海道文学散歩 樺太編(35) 一木  
原直彦 風見鶏 森山軍治部 斉藤征義 細  
井剛 比良晴男

六月号(第十九卷第六号) 221

●創作 イミテーションの夏が降る 浦生ゆ  
かり 背中 伊藤桂子 踏段の寛骨 田田弘  
子 ●隨筆 雨の降る品川駅 雑感 皆藤健  
一郎 ●刈野 文とおたみえ 詩の演奏  
―永井征男 わび・さび 職人 藤倉徹夫  
幸福の一杯 榛谷美枝子 ●影 〓の地域と  
いもうの 一坂田資宏 〓の周辺―  
西川徹郎 ●書評 鈴木美枝子訳「ラフォルグ  
詩集 嘆き節」 小田節子 山の中の光と影  
が(上) 森山弘毅 民衆の中の光と影 風  
と沈黙(下) 山内栄治 ●石狩川 〓の周囲(第  
一回移住) 一坂田資宏 北海道文学散歩  
樺太編(36) 一木原直彦 風見鶏 鷺田小彌  
太 斉藤征義 細井剛 比良晴男

●創作 アフリカの鼻 モンパサー 北江青  
修治のラメーメン 申妻ゆみ代 空を見上げた  
日 森谷今日子 磨かれた鏡の上で 水谷多  
摩江 ●隨筆 樺五睡さんのこと 佐藤朝子  
N先生の背中 高橋昭彦 フラッシュバック  
―山内栄治 ●刈野 民の心はどちらをとるの  
か 山川力 ●書評 藤本義 著「螢の宿」 中  
村久子 山間 自由の歌が(中) 一森山  
弘毅 民衆の中の光と影 戦意と混迷(下) 一  
山内栄治 ●石狩川 〓の周囲(一回移住二)  
―坂田資宏 北海道文学散歩 樺太編(37)  
―木原直彦 風見鶏 川辺為三 文梨政幸・  
細井剛 新妻博

八月号(第十九卷第八号) 223

●創作 差別 外重鐘 ●隨筆 二つの顔 鷺  
田小彌太 星と花と戦跡と 一宮川ゆみの ●歴  
談会 なぜ、近くて遠いのか 一田智子 金  
潤淑 崔弘 林炳澤 司会 森山軍治部 ●刈  
野 ぼくは韓国のおを知らない 山川力 ●書  
評 李恢成著「見果てぬ夢」 北村巖 民衆  
の中の光と影 戦意と混迷(下) 一山内栄  
治 山間 自由の歌が(中) 一森山弘毅  
●北海道文学散歩 樺太編(38) 一木原直彦  
●風見鶏 森山軍治部 文梨政幸 細井剛 新  
妻博

九月号(第十九卷第九号) 224

●創作 バニター 杉村映子 おせいの下宿  
年 椎野面人 良心人 高橋謙 折返  
千代子 狩野給美子 良心人 吉澤廣 出  
し高倉と子 時評 卑屈さの研究 木下順一  
●書評 足立巻一 著 人の世やちまた 一  
中村久子 ●新刊書を読む 小椋山博著「雪風」  
その原風景を読む 望月久子 ●キュー・ガ―  
デンの想い出 高島陽子 ●voice 鷺田  
小彌太 ●民衆の中の光と影 新しき出発 一  
山内栄治 ●石狩川 〓の周囲(一回移住三) 一

坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(39)―木原直彦●風見鶏―鷺田小彌太・文梨政幸・細井剛・新妻博

十月号(第十九卷第十号) 225

●創作・夜の異境―廣瀬誠 海(づがかない) 場所―水村雪 靴裏の冬―宮川ゆみの●随筆・吉河のある風景―八木健三 物と感性―金井英明 風に聴く―能藤祥子 機内の邂逅―小林金三●海岸文学ツア―語り・食べ・飲み泳ぎの二日間―今井美嶺子●長編評論・浮城と吃水線V・漂流する言語表現―谷口孝男●時評・テータばやり―佐藤朝子●書評・向井敏著『本のの中の本』―中村久子●新刊書を読む・水谷昭夫著『旅する花なれ』―我孫子晴美●北海道文学散歩・樺太編(40)―木原直彦●山間に自由の歌が(下)―森山弘毅●風見鶏―川辺為三・文梨政幸・細井剛・新妻博●第十六回北海道文学集会のご案内

特別冊号(一九八六年十月)

●創作・ミノタウロ―小日向白郎

十一月号(第十九卷第十一号) 226

●創作・不透明な夜を抱いて―蒲生ゆかり 鳥の手前―北江青 神風と神棚―水音徳●随筆・三冊の本―たけやひろし 私の中のフイリ 菅野茂・中山静枝●時評・二風谷に生きる―荻原茂●岬山軍治郎●時評・民族主義者のもと―と左翼の片膚さ―堀川哲●文学散歩・日高ツア―占城―二風谷(へ)―秋庭勝子●書評・ロジャー・L・サイモン―カルフールニアロール―笠井嗣夫●新刊書を読む・寺久保友哉著『恋人たちの時刻』―水谷多摩江 藤本英夫『アイヌの国から』―森山軍治郎●長編小説・天明糸絹連上騒動(一)―新井佐次郎●石狩川の周囲(第一回移住四)―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(41)―木原直彦●風見鶏―森山軍治郎・文梨政幸・細

井剛・新妻博

十二月号(第十九卷第十二号) 227

●創作・マイナス―の月蝕―森谷日生子 蜉蝣―斎藤勝彦 海とトランペット―佐野良二●随筆・『野の百合』を書く―田宮慧子 思想と人間像を捉えたる冬―山下進 十年前の趣意書から―山下富美子●時評・原型としての物語―木下順一●書評・ワイリッパ・K・テック『虚空の眼』―笠井嗣夫●長編小説・天明糸絹連上騒動(2)―新井佐次郎●有馬武部とコロポキン(8)―高山亮二●泣きべそ 生煮え 井上ひさし―おたみえこ●この時代を踏み越える―山崎ノブについて―篠原昌彦●新刊書を読む・希望ノブについて―時を史す―山田広●石狩川の周囲(第一回移住五)―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(42)―木原直彦●風見鶏―鷺田小彌太・文梨政幸・細井剛・新妻博

(一九八七年)

一月号(第二十卷第一号) 228

●創作・共犯者の館―甲斐ゆみ代 ファンタジア―高橋英一郎 ●随筆・廃仏毀釈ただですまぬ―熊平野郎●やさしい登山教室―藤井貞雄 熊平野郎●松原道子 魚と棲む部屋―盛田順 揺れ動く4/4拍子―富永信 くらごころ―石橋豊太郎●時評・小文字着眼―佐藤朝子●書評・ロバート・B・パーカー『キャッツキルの驚』―笠井嗣夫●コトバ・話し手の立場―川辺為三●懇談会・この一年の道内文芸を語る―川辺為三・森山軍治郎●鷺田小彌太●彷徨の回想(一)―小林金三●新刊書を読む・高橋英一郎著『北の絃』―龍田恵子●長編小説・天明糸絹連上騒動(3)―新井佐次郎●絶版文庫の漁誌学I・『花と死と運命』とアテナ文庫のこと―すずきゆたか●石狩川の周囲(第一回移住六)―坂田資宏●北海道文学散歩 樺太編(43)―木原直彦●風

見鶏―川辺為三・斎藤征義・野畑昌彦●年賀名詞交換

二月号(第二十卷第二号) 229

●創作・密告―朴重編 再会―藤田節子 泣き女―和城高平●随筆・ある日の女湯―坂本幸四郎 羊に載せられた三千年の歴史の重さ―恩村雅子 著さばき―吉田典子●時評・家族というテーマ―堀川哲●書評・『斎藤玄全句集』を読む―西川徹郎●彷徨の回想(2)―小林金三●長編小説・天明糸絹連上騒動(4)―新井佐次郎●絶版文庫の漁誌学2・ハンス・カロッツァ領―すずきゆたか●北海道文学散歩・樺太編(44)―木原直彦●風見鶏―森山軍治郎・斎藤征義・大塚達也

三月号(第二十卷第三号) 230

●評論特集・現代文学の交響あるいは可能性 ●創作・逢いに来た男―東直●随筆・地球は丸い―荒巻義雄 いのち―田辺孝好 鶏卵茶碗―須摩とよ 格闘技―小樽山晴●文芸評論特集・文学の現在―我孫子晴美 変容する状況・生きてゆく文学―北村誠 家族の居場所―妹尾雄太郎 北海道文学つてなあに―中野英一 小日向白郎『ミノタウロ』―皆藤健●絶版文庫の漁誌学3・文学に於けるアナル派(一)―すずきゆたか●書評・高橋孝『希望の土』ある群像の記―西川徹郎●時評・私怨・組織・革命―木下順一●長編小説・天明糸絹連上騒動(5)―新井佐次郎●石狩川の周囲(第一回移住七)―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(45)―木原直彦●風見鶏―鷺田小彌太・斎藤征義・高橋秀明

池崎葉奈子 乾いた手―水野照子 パサルルに行く―秋庭勝子●彷徨の回想3・旅で学ぶ―小林金三●書評・『寺山修司俳句全集』を

読む―西川徹郎●絶版文庫の漁誌学2 文学に於けるアナル派(2)―すずきゆたか

●時評・老後の明暗―佐藤朝子●新刊書を読む・宮内令子著『シリウス北海道の女』―合田 道●石狩川の周囲(第一回移住八)―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(46)―木原直彦●風見鶏―川辺為三・斎藤征義・野畑昌彦●北方文芸創刊20周年記念賞作品募集 五月号(第二十卷第五号) 232 ●創作・パックス・ニヒリア―田宮慧子 紀の製 小日向白郎 同行二入―田宮慧子●書評・磯田光一『左翼がヤクコになること』―皆藤健●絶版文庫の漁誌学5・T・ヒュースのトム・ブラウンの学校生活』―すずきゆたか●時評・健康な社会の恐ろしさ―堀川哲●長編小説・天明糸絹連上騒動(6)―新井佐次郎●随筆・失いしもの―三浦昇 流水―梶鴻風 遠い記憶のランプ―阿部三恵 猫『小鉄』―船津功●彷徨の回想(最終回)・歴史の歯車と―小林金三●石狩川の周囲(第一回移住九)―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(47)―木原直彦●風見鶏―森山軍治郎・斎藤征義・大塚達也●北方文芸創刊20周年記念賞作品募集

六月号(第二十卷第六号) 233

●創作・竜子―栗田桂子 ヴィジブル。だだ―廣瀬誠●随筆・木工入門―川川建夫 万年受験生―鏡持秀七 六歳の朝―東延江 ぜいたくな時間―蒲生ゆかり●書評・鮎川信夫 最後のコラム『遺稿集103篇』―皆藤健●絶版文庫の漁誌学6・歳時評―虚子自選句集』―すずきゆたか●時評・地下室からの『私』―木下順一●長編小説・天明糸絹連上騒動(7)―新井佐次郎●長編評論 女と表現(一)―

我孫子晴美 ●「石狩川」の周囲(第一回移住士)  
―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(48)  
―木原直彦●風見鶏・鷺田小彌太・斉藤征義・高橋秀明●北方文芸創刊20周年記念賞作品募集

七月号(第二十卷第七号) 2334

●創作・キーボード15―富永信 女先生と笛  
―万字康子 プレパラートの表皮―小池温子  
漂えなく沈まず―山川黎●随筆・粗忽の講演  
水井浩 一代ごとの家おとし―今井美穂子  
高輪今昔―岩田文庫 寅評なき―俺――玉田  
茂喜●書評・木村彰一「魅せられた旅人」  
―皆藤健●絶版文庫の漁誌書7・中島敦選集  
1・2・3と現代教養文庫のこと―宮澤賢治  
か●時評・複製と展示・写真―北野肇●長編  
小説・天明糸絹連上騒動(8)―新井佐次郎  
小説・新刊書を読む―菅野茂著「アイヌの里」  
風谷に生きて―山川力著「北限の石仏たち」  
水木奏●「石狩川」の周囲(当別開拓の見込)  
―坂田資宏●北海道文学散歩・樺太編(49)  
―木原直彦●風見鶏―川辺為三・斉藤征義・  
野田昌彦●北方文芸創刊20周年記念賞作品募集

八月号(第二十卷第八号) 2335

●創作・冬明けの頃―ザ・農考考 中紙輝一  
リリエンタル・シヤフル―小日向白郎●  
座談会・表現が、人間があふいて―国家秘  
密法を考える―川内谷実・林炳澤・伊東秀子・  
司会―森山軍治郎●随筆・食卓は汚れる―  
―竹村泰子 地名ニラ外記―かなまるよ  
しあき こだわりと腕力―倉島齊 俳句のエ  
ロス―北光星●書評・谷口孝男「吉本隆明の  
方へ」―皆藤健●絶版文庫の漁誌書8・アル  
トハ―ヘルベク―すずきゆたか●判尻局の  
四季・夏―梶風鴻●時評・完璧なるフジス  
トのみが完全なる愛を求める―堀川哲●長編  
小説・天明糸絹連上騒動(9)―新井佐次郎

●「石狩川」の周囲・百回を書き終えて―坂  
田資宏●北海道文学散歩・樺太編(50)―木  
原直彦●風見鶏・森山軍治郎・斉藤征義・大  
塚達也●北方文芸創刊20周年記念賞作品募集

九月号(第二十卷第九号) 2336

●創作・されど我ながら雪で―甲斐ゆみ  
代 鳥―折海音 もどり責め―水菅竜 死ぬ  
ばいなくなく―東直己●随筆・現代の三年寝  
太郎―寺久保久哉 親愛なるオスたち―木村  
政子 都市雑感―天野太郎 憧れの女優―大  
沼恵子 好日なき―椋谷美枝子 四つめ  
の「行ッテ」をめくって―宮澤賢治の「雨ニモ  
マケズ」新考―原修・長編小説・天明糸絹連  
浪浪鉄道―皆藤健●絶版文庫の漁誌書9―  
信州と―津村信夫時集―すずきゆたか●長  
編小説・天明糸絹連上騒動(10)―新井佐次  
郎●時評・発達から成熟へ―木下史高●新刊  
書を読む・小樽山博著「無縁塚」―水谷多摩  
江●北海道文学散歩・樺太編(51)―木原直  
彦●風見鶏・鷺田小彌太・斉藤征義・高橋秀  
明●文学集案のご案内

十月号(第二十卷第十号) 2337

●創作・置き土産―佐藤玲子 忌日日和―藤  
田美和子 都市空間への悲痛触覚(下)ロロ  
ン―富永信●随筆・素木―つ維考―沖藤典  
子 山く――堂本茂 水保1―声を―住吉  
淑子 シヤボ玉の中で―岡崎守 横路美喜  
さんの聞き書き―はれ話―渡辺恵子 蕎麥記  
―井上禮吉●書評・ガリ―ナ自伝(和田日記)  
―太田和雄●七〇年代の文学―私注―村上  
春樹の二作品について―鷺田小彌太●絶版文  
庫の漁誌書10モノラル・フレッシュの「リ  
リオム」と雑誌「学生」のこと―すずきゆたか  
●長編小説・天明糸絹連上騒動(11)―新井  
佐次郎●時評「オールデイズ」の人びと―  
熊谷政江●新刊書を読む・佐々木逸郎著「シ

ナリオ稼業」―水木奏●北海道文学散歩・樺  
太編(52)―木原直彦●風見鶏―川辺為三・  
斉藤征義・野田昌彦●鳥牧のフヨに乾杯―お  
たみえこ●文学集案のご案内

十一月号(第二十卷第十一号) 2338

●創作・思婦の客―齋藤公秀 ぼくの長い日  
―畠山英治郎●随筆・播磨雑記―ある極楽蜻  
蛉の旭川行―桜庭章 管理教育の最前線と市  
民運動の新しい波―稲田雅洋 異国 探検・  
逆縁―木村勲●書評・コリツォーフ―スベ  
イン日記)―太田和雄●絶版文庫の漁誌書11・  
〔樺樽本〕古本説話集(因縁話と俳諧古典の  
こと)―すずきゆたか●長編小説・天明糸絹連  
上騒動(最終回)―新井佐次郎●時評・ふた  
たび、家族というテーマによつて―堀川哲●  
新刊書を読む・佐々木栄松著「白いオビラメ  
―原野の人物物語」―堀越英三●北海道文学  
散歩・樺太編(53)―木原直彦●風見鶏―森  
山軍治郎・斉藤征義・大塚達也●文学集案の  
ご案内

十二月号(第二十卷第十二号) 2339

●創作・微熱の夏には、はぐれて―蒲生ゆか  
り 鳩、翔ばない―寺田文恵●随筆・タク  
シ―八柳敬史 ストープの原点は「大久  
保一良 水沢市に秘められた殉教者」―後藤寿  
庵)のことも―菊地直利 頑張れ!ファイ  
アマンの明た―北海道消防学校の卒業式か  
ら―谷口芳男 白雲木の実―吉井よ子 マ  
リアのパフォーマンス―橋本征之●一冊の  
重さ―野沢静子●書評・見田宗介「白いお城  
と花咲く野原」―太田和雄●絶版文庫の漁誌  
学12・或る意味での反面教師「天路歷程」―  
すずきゆたか●時評・昭和の終焉―木下史高  
●長編評論・女と表現(3)―我孫子晴美●  
最大の被害者はだれか?―「忠臣蔵」新考―  
原修●新刊書を読む―玉井裕志著「萌える  
大草原」―森山軍治郎●北海道文学散歩・樺

太編(54)―木原直彦●風見鶏・鷺田小彌太・  
斉藤征義・熊谷政江「マドンナのごとく」道  
新文学書受賞三  
(一九八八年)

一月号(第二十一卷第一号) 2440

●創刊20周年記念賞受賞発表 ●北方文芸創刊  
20周年記念賞受賞発表・ナハイバイの歌―長  
堂英吉●選評・小樽山博・立松和平・川西政  
明・木下史高・小松茂・高野斗志美・鳥居省  
三・神谷忠孝●随筆「ドム・ウィーとゴルパ  
チヨフ」を刊行して―トロツキとわれわれ  
―中野敏二 人物博物館―朝倉賢●創作・ふ  
たたび―森谷今日子●書評・石堂清倫「異作  
の視点」―皆藤健●絶版文庫の漁誌学13・「ジ  
ロウフ―ブランチ」日記と「津軽の野づら」―  
すずきゆたか●地路歷程ケイのひとり旅1―  
はぐれイタコと恐山―高野ケイ●俳句・恵方  
―木村敏男●時評・人生80年時代のレトロ・  
マン―熊谷政江●新刊書を読む―小樽山博  
「原人の恋」―鷺田小彌太●文学―燃えろ―  
文学集案フロワリール―渡辺恵子●北海道文  
学散歩・樺太編(55)―木原直彦●新年名刺  
交歓●風見鶏―森山軍治郎・高橋悠・宮本美  
津子・西川郁郎

二月号(第二十一卷第二号) 2441

●北方文芸創刊20周年記念賞佳作受賞作・わ  
が心くづぼるるとき―甲斐ゆみ代●創作・タ  
チ商い―柳田栄子●随筆・貧しきホスア子 柿  
木ヒバ ●「西川俊郎の世界」の開板を巡って  
の雑感―挿り入れていたアパ―北村洪  
史 来てくれ―帰ってうれし―輝風耀  
子●書評・岩田宏「日本古典の新・旧版に  
関するメモから」その(一)「枕草子」と「竹取」  
伊勢―すずきゆたか●「銀河鉄道の夜」は  
仏教文庫か?―宮澤賢治新考―原修●長編評

論 女と表現(4)―我孫子晴美●時評・資本の論理と社会の論理―アンチ百姓のムードによせて―堀川哲●地路歷程ケイのひとり旅 2・モンゴリアンブルウの旅(5)―高野ケイ●北海道文学散歩・樺太編(56)―木原直彦●風見鶏―鷺田小彌太・斉藤征義・内田弘・吉村唯行

三月号(第二十一卷第三号) 242

●創作・輝しぐれの消える―穂坂哲哉 堤防の見える窓―渡辺実千恵●随筆・北海道への旅―長室英吉 見える色見えない色―小野寺唯一 星がふる―香川良道 毒の正体―原嶋香 奥野たけ(1)―皆藤健●時評・私の文学空間―木下史高●絶版文庫の漁誌学15・わが師・野崎駿平先生と「鴨気眼鏡」―すずきゆたか●地路歷程ケイのひとり旅3・モンゴリアンブルウの旅(2)―高野ケイ●北海道文学散歩・樺太編(57)―木原直彦●風見鶏―川辺為三・宮本美津子

四月号(第二十一卷第四号) 243

●創作・遠すぎる栄光(ホモ・カニパリスの研究)―廣瀬誠 液(に)わたづみ―木下史高●随筆・函館俘虜収容所―浅利俊後 爆発物の上の繁栄―松尾伸三郎 当たら前にいて―相葉芳久 けがれられない時代―篠原敦子●時評・グルメの流れの片隅で―熊谷政江●書評・鮎川信夫拾遺―私の同時代―詩集「難路行」―千葉剛史●地路歷程ケイのひとり旅4・パキスタン・発見の旅(1)―高野ケイ●北海道文学散歩・樺太編(58)―木原直彦●絶版文庫の漁誌学16・名づける名人・高見順―すずきゆたか●風見鶏―森山治郎 斉藤征義・内田弘・吉村唯行

五月号(第二十一卷第五号) 244

●創作・白地図―杉村暎子 モノクローム・

モノクローム―蒲生ゆかり●随筆・仏想花―村久子 冬の旅―忠海光朝 インタビュー―林美香子 帽子―榎谷美枝子 私の農民文学賞―鳥井綾子●長編評論 女と表現(5)―我孫子晴美●時評・資本主義はなぜ悪い―堀川哲●書評・神谷忠孝「日本のタダ」―千葉剛史・目著紹介「集産党事件覚書」―刊行のあと―菅原政雄●絶版文庫の漁誌学17・文庫版で初めて裏面を覗いた「日本文学原論」―すずきゆたか●地路歷程ケイのひとり旅5・パキスタン・発見の旅(2)―高野ケイ●北海道文学散歩・樺太編(59)―木原直彦●試写室の窓から―高並真也●ほかいどうのしんかん書●風見鶏―鷺田小彌太・矢口以文・宮本美津子・吉村唯行

六月号(第二十一卷第六号) 245

●創作・魚敵の王―小日向白郎 椎の葉記・一章(樺)―あせいしじろう●随筆・Uターナー―工藤欣弥 無名デザイナーの言いたい放題―松島ていこ 祖父と父母―志田敏彦 台所から眺める若者―横川玲子 持病に生きる―須見光夫●書評・村瀬人の間失格(1)の発見―千葉剛史●時評・「事故の解説」―木下史高●地路歷程ケイのひとり旅6・半生半生ヒマヤトレッキング1―高野ケイ●絶版文庫の漁誌学18・日本古典の新版に關するメモから・その(二)―お伽草子と「伽草子」―すずきゆたか●北海道文学散歩・樺太編(60)―木原直彦●風見鶏―川辺為三・吉村唯行 斉藤征義・内田弘

七月号(第二十一卷第七号) 246

●創作・椎の葉記(二章「ミアア」)―あせいしじろう●随筆・愛別難吾―熊沢融真 北の四季―中川悦子 兵屋番号三七番の住人―白戸仁康 絹のアラス―平野温美 晴れた五月に―谷川勝男●書評・大江健三郎著「新し

い文学のために」―皆藤健●時評・偏見・カラオケ考―熊谷政江●地路歷程ケイのひとり旅7―半生半生ヒマヤトレッキング2―高野ケイ●絶版文庫の漁誌学19・哀悼・田宮虎彦―すずきゆたか●時美新子覚書―坂本幸四郎●北海道文学散歩・樺太編(61)―木原直彦●風見鶏―森山治郎・矢口以文・仲村けんじ・宮本美津子

八月号(第二十一卷第八号) 247

●創作・アバウト―北村洪史 1・ミーミー・森谷今日子●随筆・たまご―藤正美 唐津の土産―荒谷玲子「想像力」ということ―四ツ柳歌子 積丹の海(泊り、止まれ)―白石なな 乾杯―西木りゅう●書評・山田太一著「異人たちの夏」―皆藤健●時評・資本主義と欲望―堀川哲●現代詩とは何だったのか―原子修●絶版文庫の漁誌学20・文学における「アナル派」(三)―すずきゆたか●地路歷程ケイのひとり旅8・ケンジュラブへまっしぐら―高野ケイ●北海道文学散歩・樺太編(62)―木原直彦●忘れたくないこと・ペレストロイカとオウエル―太田和雄●比良信治著「早春の旅」私のなかの赤煉瓦―吉岡道夫●ポスト・モダンへの先駆け―開高直夏(夏の間)―鷺田小彌太●試写室の窓から?―高並真也●風見鶏―鷺田小彌太・内田弘・斉藤征義・吉村唯行

九月号(第二十一卷第九号) 248

●創作・はるかな夏(二 條宗生、ガラルフ・レンド―光田弘美●随筆・本の腰巻―詩人たち―江原光太 男と女と酒と―甲斐ゆみ代バック入り大根の事から―内田弘●時評・昭和五年の不幸―木下史高●書評・トリフ・フォノフ著「その時」―皆藤健●絶版文庫の漁誌学21・日本古典の新 旧版に關するメモから・その(三) 古今・土左・芭蕉連句集―すずきゆたか●地路歷程ケイのひとり旅

9・ケンジュラブへまっしぐら?―高野ケイ●北海道文学散歩・樺太編(63)―木原直彦●風見鶏―川辺為三・矢口以文・宮本美津子・仲村けんじ

十月号(第二十一卷第十号) 249

●座談会・核。に向かう生理と感性―蒲生ゆかり・白石なな・奥山茂樹・西村英樹・森山治郎●創作・星からのメッセージ―高木良治●書評・広瀬隆「危険な話」―皆藤健●随筆・小説集初出版によせて―中紙輝一 エンシカとの出会い―内藤憲一 賊軍とは―田中和夫 山田修 風と山崎 加藤多●時評・思ひ出のフェミニズム―藤堂志津子●地路歷程ケイのひとり旅10・西国札所遍路樂々(1)―高野ケイ●北海道文学散歩・樺太編(64)―木原直彦●風見鶏―森山治郎・斉藤征義・内田弘・吉村唯行

十一月号(第二十一卷第十一号) 250

創刊二五〇号記念特集「80年代文学の新潮流」●評論 新たな喪失をめぐって―我孫子晴美 偉大ななるパフエクトゥムを求めて―水谷多摩江 11月のなかの死―北村洪史 山田詠美集束 千葉剛史 海田とサボテンの恋愛―廣瀬誠「キッチン」から見える風景―蒲生ゆかり 東海林さだおの業績―東直己●座談会・廣瀬誠・我孫子晴美・水谷多摩江・蒲生ゆかり・北村洪史・東直己・森谷今日子・鷺田小彌太●88時のアンソロジー・身体以前―米山哲治 脱色の女―青木崇 欲動の振り子―白鳥真 目の記憶―桑原美由紀 出勤―生田四郎 声のない街―岩木田一郎 浅い春―つかさお エスニア―田中健太郎 腕屋の設計士―瀬川進 窓―岩佐久子 夏の白壁に何が―鈴木順三郎 空転する夢―坂田篤 88盛夏幻視行メモ―忠海光朝 いっ?

なのか まえー大島龍 譚一林美豚子 亜麻の花一渋谷美代子 曇った夏一高文彦 詩は動いかに忠海光明 時評・反原発と母性主義 一堀川哲 書評・WOMANOLLOGY 趣味一小池温子 随筆・北方文芸とわたし 太田弘子 ときめき時評一杉村暎子 砂漠の村一森谷今日子。はだしの地球。にてー大門光宏 夕焼け少女一和由美 地路歷程ケイのひとり旅①一無為徒食シベリア鉄道旅日記①一高野ケイ 北海道文学散歩・樺太編(65) 一木原直彦 忘れたいこと② 驚命至上主義・死生観一太田和雄 風見鶏 鷗田小彌太・矢口以文・宮本美津子・仲財けんじ 文学散歩・室蘭一羽田野京子 北方文芸総目次

十二月月号(第二十二卷第十二号) 251

特集サハリン日本海沿岸風土から ●創作・奉還一川辺為三 おびらしべ川一狩野絵美子 ●サハリンの朝鮮人文学・アナトリー・キムとサハリン一崔建永 創作童話・カンナ・カミイの子一江原光太 詩人の散文・思うに人生はただ形象のたわれぬ美文 随筆・讀原詩人試論一神谷忠孝 ●「村木寂朗」という名の詩人一笠井嗣夫 ●商館のころ一澤田誠一 海辺で一吉井より子 ●随筆・アイヌの人達もこの地から同じ日本海をながめ小松恵 銀河鉄道は走った一宇原英生 忘れられた海一齋藤秀世 書評・宇宙へのころぞし 一小池温子 時評・日黒中二の教人が意味するもの一木下実高 北海道文学散歩・樺太編(66) 一木原直彦 風見鶏 川辺為三 斎藤征義・内田弘一 吉村唯行

(一九九九年)

一月号(第二十二卷第一号) 252

●創作・てだめ話一東直己 郷党いのう えひよう 随筆・鏡餅一水井みち子 女の開拓一坂田資宏 三つの風景一駒井秀子 俳壇

誌発刊のごとく前川道寛 私と北方文芸一吉川みす江 裸か灯(久保栄断章)一佐々木逸郎 わが夕張望軍一強力道信 書評・大人にならないうためのレッスン一小池温子 時評・健全なる日々のために一藤堂志津子 地路歷程ケイのひとり旅②一無為徒食シベリア鉄道日記②一高野ケイ 北海道文学散歩・樺太編(67) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一森山軍治郎 詩一矢口以文・短歌一今川美幸 俳句一仲財けんじ

二月号(第二十二卷第二号) 253

●創作・オールドファッションドラフツング一栗田国子 巴拉園に眠る一初日向白郎 ●随筆・外国人労働者一朴重鶴 初冬の街一山岸謙之介 とりあえず 言葉から一飛鳥詩子 すぎた街一村中李理 船長になれなかつた話一丹野雄一 江部乙からレトリカ)まで一榎谷美枝子 時評・ハイブリッドな天皇制一堀川哲 書評 物語を撃つ 皆藤健一 ノート「パラ・コツ」の平和か「アトム」の危機か一原字修 ●のぼり窓一文体論ノート 三和康太郎 ●忘れたいこと③リクルートと笑い一太田和雄 ●一九八八年の収穫一鷺田小彌太 北海道文学散歩・樺太編(68) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一鷺田小彌太 詩一斎藤征義 短歌一千葉裕子 俳句一岡澤康司

三月号(第二十二卷第三号) 254

●創作・月の出をまつて一山川黎 よびだされるもの一麻生一郎 砂の上の太陽一影島優子 ●随筆・小倉にネフスキー通りをすずさゆたか 底流一齋藤昌淳 「狐」と「個」一阿部日和 「呼びかけ」としての日本語一鈴木扶 ●時評・平成元年フットボール木下順一 ●書評・昭和の二つの暗部を凝視一皆藤健一 マクンベツ日記①ヒトと牛たちの希望へ一加藤多一 ●北海道文学散歩・樺太編(69) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一川辺為三 詩

矢口以文・短歌一今川美幸 俳句一仲財けんじ

四月号(第二十二卷第四号) 255

●創作・針攪一中野武彦 愛別岳の麓で一高木五郎 ●随筆・丸木夫妻のこと一重野広志・小熊秀雄の逸文を発見して一肥田信子 破けないフォートグラフ①二取田一 あるレコードのうらばなし一別所透 一反百姓一高橋三枝子 ●時評・新しい自分の発見一藤堂志津子 ●ルポ・毎度おさわがせ五人原告団でございーい 姉帯美和子 書評・辺境からの黙示録一皆藤健一 マクンベツ日記②冬のネズミ一加藤多一 ●北海道文学散歩・樺太編(70) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一森山軍治郎 詩一斎藤征義 短歌一千葉裕子 俳句一岡澤康司

五月号(第二十二卷第五号) 256

●創作・沼までの距離一江藤あさひ 夜の光一木元千鶴子 水の関係一オロロー中村南 ●随筆・イエローとホワイト一安濃豊 鳴物停止一千田三四郎 昭和に逆さし友の分も一黒澤淳子 山の花に魅せられて一中野勝 文学館二十年一山村信 ●時評・エスタブリッシュメントと成り上がり者一堀川哲 書評・「近視」という脱自然一三井貴之 ●マクンベツ日記③ 台北線がなくなる一加藤多一 ●北海道文学散歩・樺太編(71) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一川辺為三 詩一矢口以文 短歌一今川美幸 俳句一仲財けんじ

六月号(第二十二卷第六号) 257

●創作・曇り空ゲーム一蒲生ゆかり ●随筆・旧稿新刊の年一木内進 十勝でもいまま女がおもしろい一横田緑 南極の風一山二高木知敬 大学・文学・反原発一斎藤志志 ●忘れたいこと④ 宗教の不寛容と無関心一太田和雄 ●書評・都市像の退廃一三井貴之 ●

時評・犯罪大園日本一木下順一 ●人と歴史・森廣の軌跡(新渡戸稲造と片山潜)一秋庭功 ●随想・なぜ書くのか一小田節子 ●マクンベツ日記④ 続・生き急げなくなる一加藤多一 ●自書を語る・生き急いで、旅一高野ケイ ●北海道文学散歩・樺太編(72) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一鷺田小彌太 詩一斎藤征義 短歌一千葉裕子 俳句一岡澤康司

七月号(第二十二卷第七号) 258

●創作・ビデオ・キヤル一東直己 幻木一高木五郎 ●随筆・一九八九年の風景一奥山茂樹 一円の偉力一藤本英夫 アリーの党派一杉村暎子 内なる国際化を思う一吉田雅 時評・エロス音楽一三井貴之 ●マクンベツ日記⑤ ホトケさまの午前一加藤多一 ●北海道文学散歩・樺太編(73) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一森山軍治郎 詩一原字修 短歌一今川美幸 俳句一鈴木光彦

八月号(第二十二卷第八号) 259

●創作・エノクの街路一甲斐ゆみ代 ●随筆・沖繩県首昌島の伝説一狩貝節一 尺八奮戦記一麻生一郎 ●合歡の花一藤田節子 書評・価値相対主義への警告一皆藤健一 時評・北京の虐殺一堀川哲 ●マクンベツ日記⑥ 美しいホロペー一加藤多一 ●北海道文学散歩・樺太編(74) 一木原直彦 風見鶏 創作・評論一妹尾雄太郎 詩一斎藤征義 短歌一千葉裕子 俳句一岡澤康司

九月号(第二十二卷第九号) 260

●創作・ライフライン一北村洪史 蒸発一時藤文字 父の睡一寺田文忠 ●随筆・美里別注 小説の中の女たち一 数植子 美里別川一 王威 朗 水の力一浅野洋子 八重山ホーリー 小藤博之 私と大衆文学との出逢い一高村はる ●書評・内輪を越える闘い一皆藤健

●時評・血の日曜日―木下順一● 忘れたくないこと⑤情報社会のエコリ的変質 ⑥天安門事件の呼びかける声―太田和雄● 新刊書を読む―小楢山博著● 鐘の裏―我孫子晴美● マクベス日誌⑦―いー日だった―加藤多一● 北海道文学散歩―樺太編(75)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―鷺田小彌太・詩―原子修・短歌―今川美幸・俳句―鈴木光彦

十月号(第二十二卷第十七号) 261  
●創作・血管里流の一屈異時 魯偉・西澤正彦 共訳・解説・中国から見た日本我留孤兒物語―土藤欣弥● 時評・青春は終わった―藤堂志津子● 書評・転向か、容容か―皆藤健● マクベス日誌⑧―友・子もこの本の集い―加藤多一● 北海道文学散歩―樺太編(76)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―森山軍治郎・詩―齊藤征義・短歌―千葉裕子・俳句―岡澤康司

十一月号(第二十二卷第十八号) 262  
●創作・雨の音の向こうから―森谷今日子・神託のピアス―杉村暎子● 随筆―長い一日―不破俊輔 窓から見える大きな木―江藤あさひ 名優と歌手―関鈴子 横町の春―永井みち子 鯨とりの話―小原廣子 夢を買う話―茶家羊子● 時評・できる子とできない子―堀川哲● マクベス日誌⑨―まじめに遊んだ後―加藤多一● 北海道文学散歩・風と夕日と蛙の静内● 北海道文学散歩―樺太編(77)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―原子修・短歌―今川美幸・俳句―鈴木光彦

十二月号(第二十二卷第十九号) 263  
●創作・呆と呼ばれて―藤澤清典 父のゼンユウ―北江 不等辺三角形―辻野有紀● 随筆―山頭火―残照―堂本茂 ウオッチング・ワンマンバス―小池温子 インガルシ―田辺安一 ビールと外国―高橋薫● マクベス

日誌⑩―ハクチャウが来る沼―加藤多一● 時評・経済は世界の終末に向って繁栄する―木下順一● 書評・しなやかさが光るブックレビュー―本 和子田中● イタリア古美術巡礼―堀野高子● 静内ラフコールにおおたみ● 新刊書を読む―小楢山博著「クマントケルの編み―浦生ゆかり 北海道文学散歩―樺太編(78)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―森山軍治郎・詩―齊藤征義・短歌―千葉裕子・俳句―岡澤康司

(一九〇年)  
一月号(第二十三卷第一号) 264  
●創作・側溝―木村政子 石の記憶―廣瀬誠● 随筆・異国の祭り―菅原澄子 自著を語る―父の森―狩野絵美子 昨今身辺無情なリ―重森直樹● 書評・死者を通して構築のロマソン―和田田善● 時評・非平等不服従主義―吉村恵● 零落①―影の如く①―中村美彦● マクベス日誌⑪―ひとりの友のこと―加藤多一● 北海道文学散歩―樺太編(79)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―鷺田小彌太・詩―原子修・短歌―今川美幸・俳句―鈴木光彦

二月号(第二十三卷第二号) 265  
●創作・ハモニカを聴く猫―松島ていこ 鳥の影―市川恵子 テゴイと兄弟―安濃豊 共和甲吹の風―菊地和恵● 随筆・いい日の条件―申斐ゆみ代 ポロナイスクからの便り―松田静徳 今は札幌 佐藤玲子● 紀行・「日本人」に落ちた日―小川千春● 書評・いま社会学者が面白い―和田田善● 時評・東欧の変貌をよせて―堀川哲● マクベス日誌⑫―タカを飼う男―加藤多一● 北海道文学散歩―樺太編(80)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―光城健悦・短歌―千葉裕子・俳句―岡澤康司

三月号(第二十三卷第三号) 266  
●創作・海が歌っている―小池温子 間柴慎悟伝―東直己 過ぎた風―後藤あや子● 随筆・宴のあとに―藤倉徹夫 藤倉の出版記念会―望月芳明 ● パル―江原順氏のことなど―木村芳野 雪道の頃―笠松久子 紋別このころ―中村広光 膀胱鬼胎の思い出―鈴木隆 現代性を照射―皆藤健● 時評・小説の運命―木下順一● 新刊書を読む―藤倉徹夫 蒼れんがと女―今井信子● イタリア古美術巡礼(中)―堀野高子● 北海道文学散歩―樺太編(81)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―森山軍治郎・詩―原子修・短歌―今川美幸・俳句―鈴木光彦

四月号(第二十三卷第四号) 267  
●創作・ブルトウ―小日向白郎 夜々のまえに―栗田桂子 わつちやいせい―南伸英● 随筆・さようなら開高健―中村久子 全国のサイトウさんに―大澤哲夫 東京初雪物語―龍田恵子 あなまたインド? 私もインド―藤原笛果 T.V名画展―山崎巖● 時評・自由恋愛という印章―吉村恵● 書評・タメの人の魅力―皆藤健● 詩・ああBKK―ユキカ―山川力● クリテリカル・エッセイ―小林秀雄の美意識―山下脩馬● 新刊書を読む 橋場文俊著「羊蹄のかさ雲」―小田節子● ソウル讃歌①―それは①―ウカリマズ―藤本英夫● 忘れたいこと⑦―神々のたそがれの響き⑧―ローザ、ベルリンの記念―太田和雄● 零落②―影の如く②―中村美彦● 北海道文学散歩―樺太編(82)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―鷺田小彌太・詩―光城健悦・短歌―千葉裕子・俳句―岡澤康司

五月号(第二十三卷第五号) 268  
●創作・ヒューストンホビー―空港―安濃豊 小品連作・影と光―万字康子 ホテル・シンデレラ―藤原とし子● 随筆・詩人となましい

高文彦 舞台―照井武 映画―泳ぐ人―中村南● 評論―中村南の作品―妹尾雄太郎● 時評・「婚外交渉の理論」と人間学―堀川哲● 書評・大学人と純文学を笑う―皆藤健● ソウル讃歌②―ハンクザン酔い―藤本英夫● 北海道文学散歩―樺太編(83)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―原子修・短歌―今川美幸・俳句―鈴木光彦

六月号(第二十三卷第六号) 269  
●創作・アジシ―町村重雄 桐の花とき―原雅也● 随筆・栗山町図書館通信第一報―山川精 井上伝蔵と石狩―前川道寛● 時評・続・小説の運命―木下順一● 書評・宇宙と賢治と蝶流と―おおたみえこ● ソウル讃歌③―ヘイチヤムカンマン―藤本英夫● 新刊書を読む 山内宗治著「雨花台の石」―森山軍治郎● 北海道文学散歩―樺太編(84)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―森山軍治郎・詩―光城健悦・短歌―千葉裕子・俳句―岡澤康司

七月号(第二十三卷第七号) 270  
●創作・湯澤―木下順一 合い鍵を鳴らす猫―浦生ゆかり● 随筆・古本の家―村上英治 石造りの家―杉井雅子 古本屋の空間―森影依 思ひ出すこと―森谷今日子 追悼―隆慶一郎 高村はる● 詩・愛のかき方―石の食卓―青木崇● 零落③―影の如く③―中村美彦● 時評・その後のミスターブッカー―吉村恵● 書評・崑崙山南 月斜めならんと欲す―おおたみえこ● ソウル讃歌④―コロナスとウカガシとキムチと―藤本英夫● 忘れたいこと⑧―日韓「光の世紀」はいつか⑩―田中正徳の書き残したごと―太田和雄● 新刊書を読む 森谷今日著「フレンス」―鷺田小彌太● 北海道文学散歩―樺太編(85)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―鷺田小彌太・詩―鈴木杜世春 短歌―村田俊秋・俳句―園田夢蒼花

八月号(第二十三卷第八号) 271  
●創作・雨の音の向こうから―森谷今日子・神託のピアス―杉村暎子● 随筆―長い一日―不破俊輔 窓から見える大きな木―江藤あさひ 名優と歌手―関鈴子 横町の春―永井みち子 鯨とりの話―小原廣子 夢を買う話―茶家羊子● 時評・できる子とできない子―堀川哲● マクベス日誌⑫―まじめに遊んだ後―加藤多一● 北海道文学散歩・風と夕日と蛙の静内● 北海道文学散歩―樺太編(86)―木原直彦● 風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―原子修・短歌―今川美幸・俳句―鈴木光彦



尾雄太郎・詩・鈴木杜世春・短歌・村田俊秋・俳句・園田夢蒼花

六月号(第二十四卷第六号) 281

●創作・バセリ・エイジ・森谷今日子●随筆・町内会のお石様・小畑隆寛 ふたたび、ぜひ、たくな時間・蒲生ゆかり 野口雨情と私・木脇紀美子 飲む・打つ・買う 遊び礼賛・稲田雅洋 コレラ・杉山弘 二冊の終刊号・郷武夫・時評・埴谷さんとナスタ・リヤ・木下順一●書評・春樹ファン必見、もうみんな買ったわーおおたみえこ●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち③あいつはあいつらしく死んだ―菅原澄子●国見時から見渡せば―西田茂●生きもうけ生ん 森山軍治治郎●評論・吉井よしの作品・妹尾雄太郎●北海道文学散歩・樺太編(96)―木原直彦●風見鶏●創作・評論・森山軍治治郎・詩・佐藤恵一・短歌・嵯峨美津江・俳句・四方万里子

七月号(第二十四卷第七号) 282

●創作・気配―木下順一 都会の崩山下郡子 空を行くくじらの話・朝倉聡●随筆・ヒゲよ、テレビよ、さようなら 小林金三 パワ―全開! 一万字康子●時評・ミニスカート襲来―岡田範子●書評・世はなまけのモザイク模様―おおたみえこ●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち④片想い―菅原澄子●メモリアル・コメント③脱出願望 教あれどー池川包男●詩・二見ヶ岡事務所―中村南●新刊書を読む・森羅万象の人々、直直速歩の人よ―忠海光湖●北海道文学散歩・樺太編(97)―木原直彦●風見鶏●創作・評論・鷺田小彌太・詩・齊藤正義・短歌―村田俊秋・俳句・園田夢蒼花

八月号(第二十四卷第八号) 283

●創作・水の中のひとり―松島ていこ 二十日友達―辻野有紀子●随筆・石炭に贈る言葉

―相良主彦 二人の死者へ―北村巖 石狩川河口―吉川みす江 都市化のなかの農家―竹内靖雄 砂金掘り―島井綾子〔林福園日記〕文学碑のごとく―佐々木逸郎●時評・シ・シュボスへの神話あるいは不条理の感覚よせて―堀川哲●書評・性は文化である―おおたみえこ●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑤白夜の想い―菅原澄子●北海道文学散歩・樺太編(98)―木原直彦●風見鶏●創作・評論・妹尾雄太郎・詩―小池温子・短歌―嵯峨美津江・俳句―四方万里子

九月号(第二十四卷第九号) 284

●創作・夜明けの音―小池温子 敗者 遺稿―東山めい●随筆・掃葉雜記―桜庭宏 彼の落葉作戦―佐藤舞子●実録原辰哉裁判②シロウト原辰哉裁判の筆は切つて落とされた―姉帯美和子●時評・深夜の妄想―木下順一●書評・日本文化のルーツを探る―皆藤健●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑥喧嘩四悪―菅原澄子●北海道文学散歩・樺太編(99)―木原直彦●風見鶏●創作・評論・森山軍治治郎・詩―齊藤正義・短歌―村田俊秋・俳句―園田夢蒼花

十月号(第二十四卷第十号) 285

●創作・D・カ―杉村暎子●随筆・「日本書紀」と蘇我氏の秘密―石渡信一郎 春・夏の紙面は花の花盛りに―北村洪史 とにかく書く―針山和美 マツカサの椅子―園田みさほ●時評・ここはの支配者たち―岡田範子●書評・ニューヨークは魔窟と化すか?―皆藤健●詩・地図は燃えつきて、都を落る―鈴木順二郎●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑦、速い微笑―菅原澄子●北海道文学散歩・樺太編(100)―木原直彦●メモリアル・コメント④・ミラクル札幌―池川包男●風見鶏●創作・評論・鷺田小彌太・詩―小池温子・短歌・嵯峨美津江・俳句―四方万里子

方万里子

十一月号(第二十四卷第十一号) 286

●創作・風が吹く部屋―正木としあらし 千春 閉塞交遊録 ペア閉塞選手権未記―遠藤雅子 寺澤國子 水人問今井美嶺子 章の嘘と誤り―倉島齊 水人問今井美嶺子 〔風の中で〕―その後―山本丞 時評・グルニエの「孤島」と「猫のムルトルー」―堀川哲●書評・定点からの世相観測―皆藤健●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑧哀れなデイトリッヒ―菅原澄子●北海道文学散歩・樺太編(101)―木原直彦●文学散歩 南空知を巡る―森山洋子●風見鶏 創作・評論―妹尾雄太郎・詩―齊藤正義・短歌・大朝晩子・俳句―園田夢蒼花

十二月号(第二十四卷第十二号) 287

●創作・鳥たちの別れ―桂城和子 一太郎との生活―羽田野たまよ●随筆・バエリアなどはどうですか―木村政子 土別から―前川公美夫 ガラス瓶の中―野沢静子 トカチブト―林玲二●時評・湾岸戦争とPKO法案―木下順一●書評・最近、人はなぜ自然に死を迎えられないのでしょうか―おおたみえこ●詩・藤田たみこ 七章 藤田たみこ 古い日曜日―アイドの心 星野―中村嘉人 小樽高商軍事練反対事件―について―山下脩馬●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑨愛情乞食―菅原澄子●北海道文学散歩・樺太編(102)―木原直彦●メモリアル・コメント⑤―ヒカンバイ―池川包男●風見鶏●創作・評論・鷺田小彌太・詩―小池温子・短歌―後藤美子・俳句―四方万里子

一九九九年

一月号(第二十五卷第一号) 288  
第一回「北方文芸新鋭賞」受賞発表・選考経

過ならびに概評

●創作・幻冬―伊藤桂子 なだれ―堀田公哉●随筆・バルトックに寄せて―安彦朝子 郷愁―菱沼美子 がん首―高木忍●時評・シ・ナ風―ナ論のココロミ―おおたみえこ●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑩こぼるる―ハンサム 水人問今井美嶺子 北海道文学散歩・樺太編(103)―木原直彦●風見鶏●創作・評論・森山軍治治郎・詩―齊藤正義・短歌・大朝晩子・俳句―園田夢蒼花

二月号(第二十五卷第二号) 289

●第一回北方文芸新鋭賞受賞報告・サン・セツピー―朝倉聡 佳作―上原商店日記―中村南 赤富士ト桃谷保子●随筆・茂吉とムーラン―ルージュ―田村哲三 母への感謝状 伊藤寿見子 日本海恨み節―かなまるよしあき 小さな町の出版記念会―太田正義●時評・共産主義と午前三時の意識について―堀川哲●書評・奔流の底の流れは速い―おおたみえこ●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑪神とともにあゆむと―菅原澄子●北海道文学散歩・樺太編(104)―木原直彦●ペイン・ジャーナル 紀要のアラベスター川辺為三か●風見鶏●創作・評論―妹尾雄太郎・詩―小池温子・短歌―後藤美子・俳句―四方万里子

三月号(第二十五卷第三号) 290

●創作・鐘も鳴れ―村上英治●随筆・ピバ・フレレンス―伊東秀子 電話―橋本征子 一枚の写真か―白石ななえ ワンモアチャンス―千天裕子●古い日日②港町の人たち―中村嘉人●詩・うたごえみⅡ―岩木誠一●札幌物語―カウ・ンターを越えてきた人たち⑫かけこみ寺―菅原澄子●北海道文学散歩・樺太編(105)―木原直彦●時評・道化の唄―木下順一●書評・古書の囁きを聴く―皆藤健

風見鶏 創作・評論 鷺田小彌太・詩 斉藤  
征義・短歌 大朝暁子・俳句 園田夢蒼花

四月号(第二十五卷第四号) 291

●創作・かりその遊戯 伊藤知子・随筆・  
「静かなドン」を読む 山川力・北海道の演  
劇 久保田浩 過論から発展をみせるマチ紋  
別 中村広光 時評・宮本百合子とケーテ・  
コルヴィツツ 鷺沢セツ 書評・葬送習慣に  
見る多様な異文化 皆藤健 ●時評・おうちに  
帰ろう 岡田範子 ●ヴァンデ紀行・フランス  
革命の裏側 ① 瀕死刑の町・ナント 森山治郎

●北海道文学散歩・樺太編(106) 一木  
原直彦 ●風見鶏 創作・評論 森山治郎・  
詩 小池温子・短歌 後藤美子・俳句 四方  
万里子

五月号(第二十五卷第五号) 292

●創作・霞の溜まる街 市川恵子 ダッグダ  
ー中村南 尾なし犬 佐野良二 ●随筆・ニコ  
ライ・アレクサンドロヴィッチ・ネフスキの  
アイヌ語との出会い 一魚井 一由 一茶と並ぶ  
乙二大嶋寛 楳田志向 一香川良道 一赤煉  
瓦 一のころ 一工藤弥弥 雪女 山本由美 ●書  
時評・言葉を教えるということ 堀川哲 ●書  
時評・ウオッカとユモアで醗酵に耐える 皆  
藤健 ●恥多きわが昭和二十年代 ① 抵抗の  
日 日 藤本英夫 ●ヴァンデ紀行・フランス革  
命の裏側 ② 怒れる民衆の町、そして馬 森山  
治郎 ●北海道文学散歩・樺太編(107) 一  
木原直彦 ●ポルトガル紀行 シントラ城の  
タイトル 川辺達三 ●風見鶏 創作・評論 妹  
尾雄太郎・詩 斉藤征義・短歌 大朝暁子・  
俳句 園田夢蒼花

六月号(第二十五卷第六号) 293

●創作・桐子のソックス 佐藤靖子 ●阪大新  
聞編集部辛 長谷川慶太郎をめぐって 中村  
嘉人 ●評論 三島由紀夫の謎 木下順一 ●随

筆・親子 寺田文恵 ●書評・フロイスが見た  
日本 おおたみえ ●時評・私の自衛隊論 一  
木下順一 ●特攻・飛行予備学生の川柳会 一坂  
本幸四郎 ●恥多きわが昭和二十年代 ② 心暗れ  
ぬまま 小松美子 ●ヴァンデ紀行・フランス革  
命の裏側 ③ もうひとつの震源地 森山治郎

●北海道文学散歩・樺太編(108) 一木原  
直彦 ●詩集「オルガ」の響き」を手に 一忠海  
光朗 ●読書の遍歴 鷺田小彌太 ●風見鶏 創  
作・評論 鷺田小彌太・詩 小池温子・短歌  
一後藤美子・俳句 四方万里子

七月号(第二十五卷第七号) 294

●創作・はるか止まる(へ三三〇) 杖  
重福 ●随筆・時々もって 伊藤桂子 ●時評・  
セカンド・ラブ 岡田範子 ●書評・フェミニ  
ズムの立場から書かれた女医の承諾 おおた  
みえ ●恥多きわが昭和二十年代 ③ 恥の意  
識に追われて 一永井浩 ●ヴァンデ紀行・フラ  
ンス革命の裏側 ④ ふくろう 一森 森山  
治郎 ●北海道文学散歩・樺太編(109) 一  
木原直彦 ●風見鶏 創作・評論 森山治郎  
詩 斉藤征義・短歌 大朝暁子・俳句 谷口  
亜岐夫

八月号(第二十五卷第八号) 295

●創作・淡紅の秋 松島ていこ 聴こえない  
音の記憶 町野 守 随筆・抹殺された間宮  
海峽 高橋裕夫 宇護堂 菅原澄子 二十一  
世紀の鳥たち 杉村春子 息子のアシカ 盛  
田 一トドモ多々 一アサコ 一太田弘  
子 花春のコードで考えること 一いのうえひ  
ら ●歌物語の笑い 一上岡勇司 ●時評・全共闘  
世代の感覚 堀川哲 ●書評・「コワロイお話  
代」のおたみえ ●恥多きわが昭和二十年  
代 ④ 橋の上の短刀 一柳蔵部 ●ヴァンデ紀  
行・フランス革命の裏側 ⑤ 西北西)の風に  
抗して 森山治郎 ●北海道文学散歩・樺太  
編(110) 一木原直彦 ●新刊書を読む 山

本由美子著「永遠のライフメイト」一木木泰  
●フランスの味・シャトー・ガツサンのごつ  
た煮 川辺達三 ●風見鶏 創作・評論 妹尾  
雄太郎・詩 小池温子・短歌 後藤美子・俳  
句 高橋留美

九月号(第二十五卷第九号) 296

●創作・さんじやくのそら 桂城和子 ●随筆・  
ユカタン断章 橋場文俊 ●もう一人のニコラ  
イ 一ロマンフ家のオルゴール 中村嘉  
人 ●時評・支配は姿を変えて登場している 一  
木下順一 ●書評・赤い 神父たちの晩い

青春 皆藤健 ●評論・かくれんぼ鬼幻想 寺  
山修司 小論 白石なな ●ヴァンデ紀行・フ  
ランス革命の裏側 ⑥ 故郷 ヴァンデに向けて 一  
森山治郎 ●恥多きわが昭和二十年代 ⑤ 未熟  
の演技者 小林金三 ●北海道文学散歩・樺太  
編(111) 一木原直彦 ●詩・イシカリ ラ  
イサツ川 一折り 一忠海光朗 ●風見鶏 創  
作・評論 鷺田小彌太・詩 斉藤征義・短歌  
一 大朝暁子・俳句 谷口亜岐夫

十月号(第二十五卷第十号) 297

●創作・鴨 堂本茂 納豆著 秋山敬典 ●東直  
己 ●もう一人のニコライ(2) 一ロマンフ家  
のオルゴール 中村嘉人 ●時評・新・翔ぶの  
が怖い 岡田範子 ●随筆・ヨボエヨ 馬場  
昭 一ネクタイを替る 一斉藤洋子 ●書評・精神  
の高下を問う 皆藤健 ●ヴァンデ紀行・フラ  
ンス革命の裏側 ⑦ ヴァンデ戦争の評論 森山  
治郎 ●恥多きわが昭和二十年代 ⑥ 文弱の  
青春 一木村敏男 ●北海道文学散歩・樺太編  
(112) 一木原直彦 ●風見鶏 創作・評論  
一森山治郎・詩 小池温子・短歌 後藤美  
子・俳句 高橋留美

十一月号(第二十五卷第十一号) 298

●創作・突然のルーム・メイト 一木木ゆう  
か 赤いトランジスタ・ラジオ 一麦穂まり ●

随筆・クルド人の青年と山へ登る 一息村雅子  
私の部屋 一渡辺美千恵 ベランダから 一山川  
黎 一嵐 雄都 一藤田美和子 ハワイのインテ  
リ 一さん 一林美香子 ●時評・表現の問題 一堀川  
哲 ●書評・天賦重視のアメリカの教育 一皆藤  
健 ●ヴァンデ紀行・フランス革命の裏側 ⑧ 再  
び ナントにて 一森山治郎 ●恥多きわが昭和  
二十年代 ⑦ 墨を塗る 一高野ケイ ●北海道文学  
散歩・樺太編(113) 一木原直彦 ●風見鶏  
一創作・評論 妹尾雄太郎・詩 斉藤征義・  
短歌 一瀬見恵子・俳句 谷口亜岐夫

十二月号(第二十五卷第十二号) 299

●創作・夜 樹木下順一 一 半歩 歩く ●  
一 蒲生ゆかり ●丹生木銀河 視行 一 中村久子 ●  
随筆「あとがき」 一 東直己 一 律儀な職業 一  
菅原澄子 ● ケージの中の懲りない私 一 我孫子  
晴美 一 夢人情 大槻寛知子 ● 書評 一 おいしい  
フランス料理 一 おおたみえ ● 詩 一 イシカリ  
街道 一 大島龍 ● 時評 一 証人の証人 一 木下順一  
● ヴァンデ紀行・フランス革命の裏側 ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

一九九三年

一月号(第二十六卷第一号) 300  
●創作・三〇〇号記念 風を聴く 一桂城和子  
●ファミリア 一北村浩史 一風を聴く 一桂城和子  
●三〇〇号記念北方文芸賞発表 一選考経過後及  
び選評 一エッセイ 一魅る夢想庵 一山内栄治  
路地裏 一原惟新 一「真澄遊覧記」を読んで 一  
堺比呂志 ●書評「民族」を止揚して「人間」  
へ 一李恢成 一流域「一 おおたみえ ● 時評 一  
チャイニーズ・レストラン 一 岡田範子 ● ヴァ  
ンデ紀行・フランス革命の裏側 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

一九九三年

一九九三年

捕虜たちを特赦せよ―森山軍治郎●恥多きわが昭和二十年代③三文詩人―堀越義三●北海道文学散歩・樺太編(115)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―森山軍治郎・詩評・藤征義・短歌―瀬戸恵子・俳句―高橋笛美●新年名刺交歓●北方文芸会目次・昭和63年11月号から平成4年12月号まで

二月号(第二十六卷第二号) 301

●創作・虫と黄色い夏―朝倉聡●エッセイ・それから―中村嘉人・あお二十二年語―香川良道・札幌市新宿区―小川千春・冬の雨―宮櫻利一●時評・全体化への視線―世界との接点と回響―藤川野●評論・関保という病―梅崎春生論―水野曜二●書評・評夢と現実の危うい境界線―デヴィッド・オたまえこ●ヴァンデレ行・フランス革命の裏側①もしオレがひるんだら―森山軍治郎●恥多きわが昭和二十年代④スリの匂うまちとクリア・ガースン―川辺為三●北海道文学散歩・樺太編(116)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―小池温子・短歌―木村進・俳句―谷口亜夫

三月号(第二十六卷第三号) 302

●創作・ねじれ―中村南・ブライベイト―本元千鶴子●エッセイ・私の旅は印象派―高久裕子・海と私、そして写真―城生親二●海のように―中村久実子にて写る人―麻生一郎●差別と言いつつ―妹尾雄太郎●時評・多様な個性(異変ありき)―木下順一●書評・最初に思想の現在、あるいは源氏物語―おたまえこ●ヴァンデレ行・フランス革命の裏側(最終回)―妖気漂う中―森山軍治郎●恥多きわが昭和二十年代⑤酒と文学と青春―工藤欣弥●北海道文学散歩・樺太編(117)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―川辺為三・詩―

齊藤征義・短歌―瀬戸恵子・俳句―谷口亜夫

四月号(第二十六卷第四号) 303

●創作・赤い星・町野一郎・風の配置―加地慶子●エッセイ・白い色と赤い色―森一生●記憶のひきだし―浦生ゆかり・スペイン・広場スケッチ―太田弘子・選挙疑惑―藤本英夫●書評・地球人になるための方程式―ビーター・フランクル著『数学放浪記』―皆藤健●新刊書を読む・朝鮮民族の歴史をつづる歌―金智栄―川口力共著『日韓合併』とアリソン―朴重鎬●時評・アナウンス効果―岡田純子●恥多きわが昭和二十年代⑥悔しい青春の日々―島原省生論―北海道文学散歩・樺太編(118)―木原直彦●中国行―二つの路線の間の大國―川辺為三●風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―小池温子・短歌―木村進・俳句―高橋笛美

五月号(第二十六卷第五号) 304

●創作・日曜日のミウ―阿部日和・一九九三年八月十六日―東直己〔遺稿〕鶏こぼれ話―中紙輝●エッセイ・神様と人間―川常盤悦・進歩とは何か?―北村敏・冬のアトリエ―小林金三●書評・モリゼン・商社マンの末期に思い描いた風景―佐野英二●著『パスターの白い空から』―皆藤健●時評・ヨーロッパのナショナルズ―工藤孝史●恥多きわが昭和二十年代⑦音楽評論家とよはれたあのころ―新妻博●北海道文学散歩・樺太編(119)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―森山軍治郎・詩―齊藤征義・短歌―瀬戸恵子・俳句―谷口亜夫

六月号(第二十六卷第六号) 305

●創作・還らない風―榎木惟人・白のポルトレ―村本権子・通いの嫁はらんほりきせいこ●エッセイ・夜の音―千葉裕子・山とヒ

トと―高橋あい・手紙―小林時子・名残雪の中で―小田節子・お迎え―山岸謙之介・永遠のおねえさん―山本由美子●安き妖怪の住む街・室蘭―『叙事詩むらろん』を巡って―笠原肇●書評―山崎三郎の光と影―佐野眞一著『遠い山びこ』―皆藤健●時評・男の文化、女の文化―木下順一●北海道文学散歩・樺太編(120)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―小池温子・短歌―木村進・俳句―高橋笛美●文学散歩のご案内

七月号(第二十六卷第七号) 306

●創作・ナイシ―中村南●エッセイ・逆さまの風景―米坂ヒナリ・ユラップ川・サケのいるランドシャフト―中川悦子・青い夢―田辺安一●ヴェネシアン・フラインド―東直己・カメラ―三浦昇●評論―中村南の作品―再び―妹尾雄太郎・詩―小池温子●明治のアイヌ青年・金成太郎―浦田遊●書評・千年ほどの歴史をいつも往還している堀田さん―堀田善衛『めぐりあひしるびと』―おたまえこ●時評・お寿司大好き―野宮純子●北海道文学散歩・樺太編(121)―木原直彦●恥多きわが昭和二十年代⑧水瓜畑―澤田誠一●風見鶏―創作・評論―森山軍治郎・詩―畑野信太郎・短歌―瀬戸恵子・俳句―竹田つとむ

八月号(第二十六卷第八号) 307

●創作・弱い関係―我孫子晴美・墓守りの女たち―松島いこ・14.5日の中世―イメイル―寺田文恵●エッセイ・『夷』の中世―佐伯真一・ガレージセール―関根光男・横浜日記―森谷今日子・大菩薩峠―田中裕一・飛ばない鳥と鳥の関係―廣瀬誠・八木義徳文学展のこと―樋口游魚・カメラの錯覚―川辺為三●貴重な資料を前に―東延江●時評・フィクションの侵食機械あるいはテレビ―工藤孝史

●書評・沈黙と別離の物語―アゴタ・クリストフ著・堀越義三●第三の嘘―おたまえこ●恥多きわが昭和二十年代⑨手探りの日々―朴重鎬●北海道文学散歩・樺太編(122)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩・文梨政幸・短歌―木村進・俳句―堀白雨

九月号(第二十六卷第九号) 308

●創作・鯨揚がり―北村洪史・乱反射―吉田典子・窓―渡辺美代子●叙事詩・むらろん―笠原肇●エッセイ・出会い―宮原登●時評・梅毒とエイズ―木下順一●書評・石になって子供たちを救ったハーメルンの笛吹き男の子―安美知子訳『ハーメルンの死の舞踏』―おたまえこ●恥多きわが昭和二十年代⑩海とく時は過ぎて行つたけれど―山川力●北海道文学散歩・樺太編(123)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―朴重鎬・詩―畑野信太郎・短歌―瀬戸恵子・俳句―竹田つとむ

十月号(第二十六卷第十号) 309

●ひとりのパラソル―正木としか・熱の話―中村南・傘がある―麦穂まり●エッセイ・吉田一穂の『米島漂流記』―青田三吉・飛ばしてしまつた編目―富山洋子・母の母の日―盛田 かねこ―加藤美佳●時評・セントラルで思ったこと―野宮純子●書評・男のシンドルライフだつて捨てたもんじゃない―津野流白●『歩く平野』―皆藤健●新刊を読む―田中裕一●私考―屹立つる文学の光彩―山川精一●大空の彼うきわ・地方の時代―滝川市航空フェア―川辺為三●恥多きわが昭和二十年代⑪茶チリに包んだゆで玉子―木原直彦●風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩・文梨政幸・短歌―木村進・俳句―堀白雨●第23回北海道文学まつりのご案内

十一月号(第二十六卷第十一号) 310

●創作 鎮魂歌(レクイエム)―勝野俊久はねのなまへ―麦穂まり●エッセイ 田本の「竜之介集」玉井裕之。夫は待っている―小池温子「火」に手をかざして―聴く―北山幸太郎●時評 エコロジのために―上藤孝史●書評 死体を原点として人間や自然を考える―養老孟司「よこそ解剖学教室へ」―皆藤健●恥多きわが昭和二十年代(9)ラにもなれず―小松珠彦●北海道文学散歩―創作 森山軍治郎●詩 畑野信太郎●短歌 大川佐穂子●俳句 竹田つを●第23回北海道文学まつりのご案内

十二月号(第二十六卷第十二号) 311

●笑気パティー朝倉聡 プールサイドの25時―水木ゆうか はくしんぼ―藤田美和子●エッセイ 札幌に筑摩書房があった頃―平澤秀和 つめたい水の中へ―松島ていこ 鯉のいた河川路―藤沢清典 一世紀の流れ―牧牛場の用水路―田辺安一●書評 亡命日本人が見たソ連の盛衰―寺島儀藏著 長旅の記録 わがラゲリの20年。―皆藤健●時評 私には「平和憲法」を守る―木下順一●恥多きわが昭和二十年代(9)逃亡の旅―室本茂●北海道文学散歩 樺太編(126)―木原直彦●韓国縦断文学散歩 ソウルは快晴―白石ななえ●風見鶏―創作 評論 朴重鎬 詩 文藝政幸・短歌 後藤寿雄・俳句 堤白雨

一九九四年

一月号(第二十七卷第一号) 312

●エッセイ ふるさと再生への二方策―松村昭雄 韓国は近かつた―鈴木龍祝 健康布巾 栗田桂子●俳句 初空―幹光彦●創作 清国から来た農夫たち 第一章 中国山東省から札幌―田中和夫 内と外と―木下順一 受胎―原雅恵●書評 いざ文学散歩に出発 中

二月号(第二十七卷第二号) 313

●エッセイ 桜島 西村英樹 講演会―山岸謙之介 (元元)の功罪―山本由美子●創作 ぶたつめの夜に―正木としか 彼女の一件―麦穂まり●友への手紙(2)二月のたより―米坂ヒデノリ●刈影 農民抜きのコメ政治は愚か―山川力●デッサンよもやま話2―渡会純价●北海道文学散歩 樺太編(128)―木原直彦●時評 解答のない世界へ―土藤孝史●書評 本好き―おたみえこ●百首詠 昭和びと―木村隆●風見鶏―創作 評論 森山軍治郎 詩 文藝政幸・短歌 後藤寿雄・俳句 堤白雨

三月号(第二十七卷第三号) 314

●エッセイ 日本は韓国を見る鏡―盧鳳煥 つれづれなるままに―朴日泳 北海道の思い出―洪性裕 コスモスとの出会い―鄭武運●創作 墓所への道―李康彦●在日同胞の日本語小説研究 李漢昌 朴重鎬訳 最近の韓国文学あれこれ 朴重鎬●随想 大きな状況と小さな接点―皆藤健 コチジャンの太田弘野ケイ 韓国のシジャン(市場)―田中弘子●対談 日韓文化交流の過去・現在・未来―李漢昌×藤本英夫・司会 森山軍治郎●詩 川

日本はどう見られているか―山川力●友への手紙(3)三月のたより―米坂ヒデノリ●北海道文学散歩 樺太編(129)―木原直彦●書評 韓国文学のニクウエイブリーディング―シラン著/安学 翻訳アダムが目覚める。トシ●おたみえこ●時評 コメの文化―木下順一●風見鶏―創作 評論 川辺為三 詩 畑野信太郎●短歌 大川佐穂子●俳句 竹田つを

四月号(第二十七卷第四号) 315

●エッセイ わが胸に栖む瘦虎―倉島齊ハ イミスター 症候群の母たち―小川千春●創作 宙返りするグライダー―不破俊輔 清国から来た農夫たち 第二章 清国招集農夫開墾地―田中和夫●時評 長い内乱―野宮純子●書評 通信使に見る日朝交流の光と影―三宅英利著 近世アジアの日本と朝鮮半島―皆藤健●刈影 二公共の利益―とはなにをいうのだろうか―山川力●友への手紙(4)四月のたより―米坂ヒデノリ●デッサンよもやま話3―渡会純价●北海道文学散歩 樺太編(130)―木原直彦●風見鶏―創作 評論 妹尾雄太郎 詩 文藝政幸・短歌 後藤寿雄・俳句 堤白雨

五月号(第二十七卷第五号) 316

●エッセイ いった日本はとうなるんだ?―名前のこと―奥山茂樹 復刻された長見義三著「アイヌの学校」―佐藤梅子 奮闘した妹―山本丞 お召列車―佐藤英子 江別叢書のこと―柳田栄子●創作 清国から来た農夫たち【最終回】第三章 それぞれの別れ―田中和夫 青い穂―安彦朝子 この世の果て―五嶋純也●書評 USAカントリ―ロード 紀行―長田弘著 詩は友人を救える方法―皆藤健●時評 裸の音楽―南聡 彩色計画Ⅷ(9) 17-18(1992)―を聴いて―三上勝生●刈影 毎日新聞の「卒論」を読

んだ―山川力●友への手紙(5)五月のたより―米坂ヒデノリ●デッサンよもやま話4―渡会純价●北海道文学散歩 樺太編(131)―木原直彦●風見鶏―創作 評論 森山軍治郎 詩 畑野信太郎●短歌 大川佐穂子●俳句 竹田つを●文学散歩のご案内

六月号(第二十七卷第六号) 317

●エッセイ 地球のリズム―香川良道 わたしの十一面観音像―高村はる 野菜のちから―斉藤征義 耳(33)―日 佐藤玲子 市川恵子●創作 鳥たちの祀り―我孫子晴美 絵馬―桂城和子●書評 日本型プロレスとの共感と疑問―ロナルド・ドーア著「日本への差別を書く」と―木下順一●新刊書を読む 杉村春子「バスター」―妹尾雄太郎●楽園の幸福と悲劇―バリ島で考えた―川辺為三●友への手紙(6)六月のたより―米坂ヒデノリ●刈影 「アメリカ先住民族某氏の演説」―山川力●デッサンよもやま話5―渡会純价●北海道文学散歩 樺太編(132)―木原直彦●風見鶏―創作 評論 川辺為三 詩 文藝政幸・短歌 後藤寿雄・俳句 堤白雨●文学散歩のご案内

七月号(第二十七卷第七号) 318

●エッセイ 父の五十回忌―朴重鎬●創作 今様 恋の重荷―畑田公哉 遺影―藤倉徹夫 坂の上のポレロ―藤田美和子●刈影 「アマリカ先住民族某氏の演説(続)」―山川力●友への手紙(7)七月のたより―米坂ヒデノリ●デッサンよもやま話6(最終回)―渡会純价●北海道文学散歩 樺太編(133) 樺太(サハリン)文学年表―木原直彦●時評 愛されなかつたあなたへ―野宮純子●書評 父と母と私の間を北国の風が吹き抜ける―澤井繁男著「旅道」―おたみえこ●風見鶏

創作・評論―妹尾雄太郎・詩―斉藤征義・短歌  
大川佐稚子・俳句―相坂郁夫

八月号(第二十七卷第八号) 319

●エッセイ「純(ピュア)」な話―菊地和恵  
消えた米―缺けい●創作・パティイしようよ  
―正木としか カメラと耳の葉―尾敷聖紀子  
●北村洪史の作品―妹尾雄太郎●書評・札幌  
●札幌止まりのスパイ小説―東直己著―沈黙の橋―おおたみえこ●時評・ナチユラル  
でピュアな悪意について―映画―時の翼に  
のつて―三上勝生●刃影―朝鮮民族の詩人たちから―山川力●友への手紙⑧  
八月のたより―134●樺太(サハリン)文学年表(下)―未定稿●木原直彦●風見鶏―創作・評論―朴重鐸・詩―文梨政幸・短歌―後藤寿雄・俳句―林佑子

九月号(第二十七卷第九号) 320

●エッセイ「北海道近代文学懇話会―神谷忠孝  
ロタン」の鎮―中川悦子●創作・増外●朴重鐸 晩夏―江藤あさひ●短歌(三十五首)  
札幌諸方―田村哲三●山田義夫 装画とカッ  
この画業時代―平澤秀和●新刊紹介・山川力  
「この北風はどくぞく吹く」―森山治郎●友への手紙⑨―九月のたより―米坂ヒデノリ●  
アフリカ―アメリカンを書いた写真集―山川力●北海道文学散歩・千鳥編(1)―木原直彦●書評・それは人類がはじめて月を歩いた夏だった―ローレル・オスタチ著●柴田元幸  
訳「ムーン・パレス」―白石ななこ●時評・三田記事―木下順一●日韓文化交流会へのお  
誘い●風見鶏―創作・評論―森山治郎●詩―  
斉藤征義・短歌―大川佐稚子・俳句―相坂

十月号(第二十七卷第十号) 321

●エッセイ・田中小実昌の歌―小樽山博  
50%賛成「ウエディングベル」―正木としか  
●創作 スベアキーズ―水木ゆうか 遠きか  
―水沢新一著「はじまりのレニー」―皆藤健  
●時評 憩いの場所―野宮純子●刃影・同  
時代人金日成主席の死去に感涙―山川力●  
北海道文学散歩・千鳥編(2)―木原直彦●  
風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―文梨  
政幸・短歌―後藤寿雄・俳句―林佑子●文学  
まつりのお知らせ

十一月号(第二十七卷第十号) 322

●エッセイ「今夏に出会った素晴らしい人  
たち―稲田雅洋 遠き想い―桜庭宏「みちの  
く」哀話―太田弘子 みちのくの旅―市川恵  
子 感涙のツアーに参加して―中山敬也●創  
作・金ボタン―原雅恵 樟樹くすのき)―  
中野武彦●書評「あなたはなにを食べていま  
すか」辺見庸子「もの食う人びと」―皆藤健  
●時評 新しい人間について―もうとつ  
生―三上勝生●刃影・中国の舞妓の詩人吉狄  
馬加き―山川力●友への手紙⑩十一月のた  
より―米坂ヒデノリ●北海道文学散歩・千鳥  
編(3)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―  
朴重鐸 詩・斉藤征義・短歌―浪岡豊明・俳  
句―相坂郁夫●文学まつりのお知らせ

十二月号(第二十七卷第十二号) 323

●エッセイ「両腕の入院―朝倉賢一 不惑の惑  
―山本由美子●創作・松崎青果西口支店―  
林俊彦 カクタスの土地で―市川恵子 つ  
めたい水―屋敷聖紀子●書評・口太郎。た  
ちの青春―高橋秀実著「ゴングまであと30  
秒」―皆藤健●時評・死体と死後の世界―  
下順一●刃影・あらためて、島崎藤村の「破  
戒」を読んだ―山川力●友への手紙⑪最終回  
十一月のたより―米坂ヒデノリ●北海道文学

散歩・千鳥編(4)―木原直彦●風見鶏―創作・  
評論―森山治郎●詩―文梨政幸・短歌―西  
川紀野・俳句―林佑子

一九九五年

一月号(第二十八卷第一号) 324  
●エッセイ「静かなる大地―富樫利一 波の  
幕参―佐藤英子●書評 哲学感覚で読む不  
思議の「アリス」―三上勝生著「世界に  
であうレックス」―おおたみえこ●創作・ひ  
ととき―中村南●新刊紹介・吉岡道夫著「風  
と涛」―皆藤健●北海道文学散歩・千鳥編  
(5)―木原直彦●刃影・金田一がカムイを  
たずね下った訳した「パチエラ」八重子をしの  
びつつ思う―山川力●風見鶏―創作・評論―  
妹尾雄太郎 詩―斉藤征義・短歌―浪岡豊明・  
俳句―相坂郁夫●新年名刺交換

二月号(第二十八卷第二号) 325

●辞書をあそぶ―すずきゆたか 木の効用―  
金春柱●創作・ゲームの終りに―村本権子  
ジン・ブル―水野佳子●刃影・文学は抵  
抗する「戦後文学」と編集者―読山山川力●  
北海道文学散歩・千鳥編(6)―木原直彦●  
書評「お居へ」の苦い愛を語る―渡辺保著  
「台といて」神話」―おおたみえこ●時評・い  
めは「問題」ではなく、「解答」である―三上  
勝生―現代中国少数民族文学選―木太鼓の響  
き―重秀英(翻訳・川口孝夫)●好意と感  
謝―東直己●風見鶏―創作・評論―朴重鐸・  
詩―文梨政幸・短歌―西川紀野・俳句―林佑  
子

三月号(第二十八卷第三号) 326

●エッセイ「李万氏の微笑―川辺為三 日  
韓文化交流の旅に参加して―中村久子 韓国  
の暮―皆藤健 百済残照―高野ケイ ケサラ  
ンパサラン―加藤美佳●座談会「アイヌの  
学校」問題に学ぶ―阿部ユボ・小笠原克・多  
原良子・朴重鐸・司会・森山治郎・資料●  
韓国詩人の作品・出会い―金圭泰 櫻蘭―  
李相冕 私たちの愛は他―金小栗●旅人のス  
ケッチ―藤本英夫●小篇連作―開くこの意  
味―陸書もつた子供との関わりの中で 台  
風―二十八号―原雅恵 現代中国少数民族文学  
選 小篇をたつ「純白の花」川にたどらぬス  
カート」―重秀英(翻訳・川口孝夫)●書評・  
共に生きていくための方法を活かす思想―社  
会論 橋爪三郎対論 自分を活かす思想―竹田青  
東に核融合実験炉誘致とやら―知事選挙も  
からむとやら―山川力●北海道文学散歩・千  
鳥編(7)―木原直彦●風見鶏―創作・評論  
―森山治郎●詩―斉藤征義・短歌―浪岡豊  
明 俳句―相坂郁夫

四月号(第二十八卷第四号) 327

●エッセイ「ぐい呑」寺久保友哉 創造の原  
点―稲薫 思廊にカレレの匂いが流れて―鈴  
木葉子 書かれざる記―坂田資宏 半身小説  
家は爽やかには笑ひ―宮本信●刃影・二田昌  
秀神繩知事が再選された―政治家の信念  
が問われている―山川力●創作・夏の実  
力―中村南 飛び出しナイフ―佐野良二 暮  
れていく空―藤田美和子●現代中国少数民族  
文学選―眞人の道―ノロ 猪熊、そして日  
本文学―教長福(翻訳・川口孝夫)●書評・木  
も人も静を生かす―塩野米松―木のいのち  
木のことろ。人。―皆藤健●北海道文学散歩・  
千鳥編(8)―木原直彦●風見鶏―創作・評  
論―妹尾雄太郎・詩―文梨政幸・短歌―西川  
紀野・俳句―林佑子●お詫び

五月号(第二十八卷第五号) 328

●エッセイ「辞書をあそぶ2―すずきゆたか  
大蔵に住む―小川千春「文化的」というこ  
と―宮路真人●創作・名前を教えて―江藤あ

さび サンビラー 畠山英治郎 透明な世界  
一屋敷重紀子 一人旅の北海道 崔仙女 ●書評・コリアン・アパッチ族奮戦記 梁石日著  
『夜を賭けて』 皆藤健 ●現代中国少数民族文学 雪の日の樺林 逃げる日本兵を追って ウォルト (翻訳 川口孝夫) ●刃影・林白言さんの死に 山川力 ●北海道文学散歩 千島編 (9) 木原直彦 ●風見鶏 創作・評論 朴重鎬・詩 斉藤征義 短歌 浪岡豊明・俳句 相坂郁夫

六月号(第二十八巻第六号) 329

●エッセイ 地震災害と寺田寅彦 香川良道 つね子の生き方 小川恵子 「道徳の彼方」のこと 四ツ木柳子 自称神さま 赤木民子 満喫病 友妻まり 創作 差別 稲葉 片隅の夏 相原友 瀧死のヨーロッパ 瀧死の日本 三上勝生 有島武郎の逸文とリビングストーン伝 前川公美夫 ●書評 個性派女性にはイギリス暮らしが一番 カズコ・ホキキ 著「ロンドンの床」カズコ・ホキキと借り著「ロンドン」 皆藤健 ●刃影 政府の慰安婦「基金」制度案は考え直すべきだ 山川力 ●現代中国少数民族文学 雪 月光はシアンボンを照らす ユー・ジンレン (翻訳 川口孝夫) ●北海道文学散歩 千島編 (10) 木原直彦 ●風見鶏 創作 評論 森山重治郎 詩 文梨政幸 短歌 西川紀野 俳句 林佑子

七月号(第二十八巻第七号) 330

●エッセイ 辞書をあそぶ 31 ずきゅたか ●あの時 伊藤桂子 父からの贈りもの 一黒田明美 ●創作 白い蛇 桃谷保子 ●評論 一輪をつげる鳥をめぐって 宮澤利一 輪にかかろうと思いつく 山内英治 ●書評 ざこちなく、きくしくと十八歳の旅立ち 藤堂志津子 著「青い扉」おおたみこ ●刃影・沖繩合同歌集「黄金木」を読む 山川力 ●現代中国少数民族文学 雪 娘伴(ニヤンバ

ン、花嫁のつきそい) トン族の結婚談義 譚良州 (翻訳 川口孝夫) ●北海道文学散歩 千島編 (11) 木原直彦 ●風見鶏 創作・評論 妹尾雄太郎 詩 斉藤征義 短歌 浪岡豊明 俳句 脇田繁 北方文芸の催しものご案内

八月号(第二十八巻第八号) 331

●エッセイ 北海道の美術史を読み直す 吉田豪介 ●坪野哲久論 上梓して 山本司 見た 北村洪一 ●創作 盛田順 カワセ木としか 白いブラックボックス 外岡立人 ●書評 幸福の極みは二つの人生を営むこと 平野 セロ 著 小川高義 詩 グスタフ・グイゲラ 彫刻の背中を見た 芸術の森美術館にて 山川力 ●北海道文学散歩 千島編 (12) 木原直彦 ●現代中国少数民族文学 愛の渴望 岳丁 (翻訳 川口孝夫) 山の中のすさまじき出会い 山川力 ●北海道文学散歩 千島編 (13) 木原直彦 ●風見鶏 創作 評論 森山重治郎 詩 文梨政幸 短歌 西川紀野 俳句 鈴木みえ ●北方文芸の催しものご案内

九月号(第二十八巻第九号) 332

●エッセイ 女性原理のシャクシ 王秀文 辞書をあそぶ 41 ずきゅたか ●創作 裏街 人生 伊藤桂子 五味氏の宝物 佐野良二 ●書評 おもしろくてやがてかたしき物語 田辺聖子 著「おあさん疲れたよ」おおたみこ ●刃影 加藤多一の馬を洗って…… 山川力 ●現代中国少数民族文学 雪 タイ族農民のある日の朝のこーロエンハンビ (漢語訳 文野 翻訳 川口孝夫) ●北海道文学散歩 千島編 (13) 木原直彦 ●札幌道文学会 平澤秀和 ●風見鶏 創作 評論 川辺若三 詩 斉藤征義 短歌 浪岡豊明 俳句 脇田繁 ●北方文芸の文学散歩

文学まつりのご案内

十月号(第二十八巻第十号) 333

●エッセイ 自転車とカメラ 勇崎哲三 親愛なる同居人にて 居候の亀へ 勇崎哲三 晴美雪駄の母 夕日 埋められた記憶 山川黎 たそがれに プレイホール 寺田文恵 文学の下心について 越前結花 ●創作 御尋 外岡立人 ドント・ウォウリーと誰かが言うー真岡むらさき ●書評 被災地に花をー中井久夫編「1995年1月」皆藤健 ●刃影 二風谷にて 山川力 ●現代中国少数民族文学 雪 根と老人の話 一民族女性作家アルエ(阿番) (翻訳 川口孝夫) ●北海道文学散歩 千島編 (14) 木原直彦 ●北の夏 文学「社会文学」の見直し 日本社会文学会札幌大会 神谷忠孝・ジャンルをこえて 一九九五年度日本近代文学会北海道東北地区合同研究会 中澤千磨夫 現代詩はよみがえるか 95 現代詩シンポジウムから 小杉元一・ミニミニエ から萌芽する詩 日本詩人クラブ北海道大会 斉藤征義 ●風見鶏 創作 評論 妹尾雄太郎 詩 文梨政幸 短歌 西川紀野 俳句 鈴木みえ ●第25回北海道文学まつりのご案内

十一月号(第二十八巻第十一号) 334

●エッセイ 北京 コワバリの旅 杉山弘 辞書をあそぶ 57 テカ ●落葉帰根」の思い 桜庭宏 ラジオ深夜便 長谷川みさを ●創作 萩の花 栗田桂子 ヒロシマの飛崎 岡部昌生 ●書評 日朝の壁と天皇 一森崎和江 二つのことは 二つのこと ころ 一森崎和江 二つの戦後 一皆藤健 ソウル マンナム・ボクの韓国物語 消える旧朝鮮総督府 青木隆直 ●刃影 日本語の「植民地支配」のあいまいさ 山川力 ●現代中国少数民族文学 雪 年頭の夜雨 1 旗ロウミン (翻訳 川口孝夫) ●北海道文学散歩 千島編 (15) 木原直彦 ●時間旅行者の歩いたベトナム(上) サイゴンにて 古林邦和 ●風見鶏 創作 評論 朴重鎬 詩 斉藤征義 短歌 高橋一弘 俳句 脇田繁

十二月号(第二十八巻第十二号) 335

●エッセイ 視点 丸伊満 手提げ袋の身中 朝倉隆 おとといからあさって 一堀利幸 大いなる川に陽は落ちて 一佐藤美津子 イツ・ゼア・ロス 水木ゆうか 天狗半のナキウサギ 松居友友 ●創作 夢の終りに 山下邦子 砂漠で会いましょう 友妻まり ●書評 愛と孤独と追憶と 一アーンズ・フィリップ 著 吉田花子訳 五重奏 一おおたみこ ●新刊書を読む 一いま「アイヌ」新法を考える」を読む 一川早苗 ●刃影 手稲山への「朝鮮人強制連行」山川力 ●ソウル マンナム・ボクの韓国物語 2 秀吉は生きている 青木隆直 ●北海道文学散歩 千島編 (16) 木原直彦 ●時間旅行者の歩いたベトナム(下) サイゴンにて 古林邦和 ●風見鶏 創作 評論 森山重治郎 詩 文梨政幸 短歌 秦美恵子 俳句 鈴木みえ

(一九九六年)

一月号(第二十九巻第一号) 336

●エッセイ 「百回は一見にしかず」 藤本英夫 民族文化への帰郷 多原香里 辞書をあそぶ 61 ずきゅたか 一しけんめ物語 佐藤英子 ●創作 千世 あるひとに 栗田桂子 ●評論 「うつつ」の世界 一ひょうたんのシンポジウムについての考察 王秀文 ●書評 二つの人生を駄目とした。嘘の真実 一サナン・タマロ 著 泉典子訳 心のおもむくまに 一皆藤健 ●刃影 詩 難波田

龍起詩集】—山川力●ソウル マンナム・ボクの韓国物語3キムチと強制連行―青木隆直●現代中国少数民族文学選(最終回)・故郷への愛情―滿族・王家男(翻訳・川口孝夫)●北海道文学散歩・千鳥編(17)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―斎藤征義・短歌―高橋一弘・俳句―脇田繁●新年名刺交換

二月号(第二十九卷第二号) 338  
●エッセイ・図書情報●二オウム捜査―渡辺重夫・与えられた命―小田節子・運ぎだした出発―鎌田純一 二十二年ぶりのアメリカ市川恵子・芸術家の生涯―富永信●詩と写真・風土―加藤征治●創作・微笑―外岡立人・鎮のジロー―今田ともり 三輪車―木下順●書評・イ・ハートボの夢と現実―井上さし編・著―宮沢賢治に聞く―皆藤健●ソウルマンナム・ボクの韓国物語4全羅道の星●青木隆直●刃影・沖繩は抵抗する―山川力●北海道文学散歩・千鳥編(18)―木原直彦●沖繩通信】1―沖繩問題ではない―平山良明●新刊書を読む・前川公美夫著―北海道音楽史―刊行とさらなる期待―松下鈞●風見鶏―創作・評論―朴重鎬・詩―文梨政幸・短歌―秦美恵子・俳句―鈴木きみえ

三月号(第二十九卷第三号) 338  
●エッセイ・手と手の出会い―藤本幸久 合歌本―菱沼和雄●創作・クロノスの食卓―時間をめぐぐる七つの短編―原雅恵・ペーパーマジック―安田美由 ガロの風―阿保勝美●書評・ミンソクガクの二人の巨人は同時代人だった―米山俊直著―クニオとクマガム―おおたみこ●評論―三島隆直●豊饒の海―第一巻―春の書論―藤藤明美●新刊書を読む・吉田豪介著―北海道の美術史―異端と正統のダイナミズム―皆藤健●刃影・再び、アメリカン・インディアンについて―山

川力●ソウル マンナム・ボクの韓国物語5似て非なる国―青木隆直●沖繩通信】2原日本人の―北上―について―又吉民人●北海道文学散歩・千鳥編(19)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―森山直太郎・詩―斎藤征義・短歌―高橋一弘・俳句―脇田繁 四月号(第二十九卷第四号) 339

●エッセイ・エゴン・シレーと『死の町―チエスキ―ケルムロフ―瀬良久夫・アナタノヘヤハリアメセー―伊藤蓮 靴がほしかったとき―山本丞 辞書をおそぶ―すずきゆたか 消息―山内実治●文学の功罪―千本さきく●創作・生体―外岡立人・ヘルスメーター―水野佳子●書評・強情に、したかに山下りんの生涯―高橋文彦著 理の心(山) 山下りん―おおたみこ●新刊書を読む―朴重鎬著 消えた日々―皆藤健●刃影・ああ、シシリムカよ、そして苦寒―山川力●ソウルマンナム・ボクの韓国物語6李起福さんのこと―青木隆直●沖繩通信】3沖繩の為朝伝説―運天政徳●北海道文学散歩・千鳥編(20)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―妹尾雄太郎 詩―文梨政幸・短歌―秦美恵子・俳句―鈴木きみえ

五月号(第二十九卷第五号) 340  
●エッセイ・青虫のうた―宇井宏 幻影―藤井まきみ すべは、夢のまごころから始まった―藤本幸久●創作・そして、私も―富樫利一【父と母と】①うさぎ、②しげも―鎌田純一 ヒトリシヅク・ピエオ―中塚由樹子●書評・南海の孤島―日本を逆照射する―鶴見良行者―ゴッソ島奇譚―おおたみこ●刃影・牛よ立て、そして歩け 砂塵―ビッキをしながら―短評―山川力●ソウル マンナム・ボクの韓国物語7鄭ハルモニ―青木隆直●沖繩通信】4戦後五十年目の沖繩―玉城洋子●北海道文学散歩・千鳥編(21)―木原

直彦●風見鶏―創作・評論―朴重鎬・詩―斎藤征義・短歌―高橋一弘・俳句―脇田繁 六月号(第二十九卷第六号) 341  
●エッセイ・真実の持つ重さ―台田一 道電子―ミシン―杉村映子 フアンレター―前川公美夫●創作・水のない川―土倉康平 モノクロ・マーブル―水野佳子●書評・葉草園に真実は秘められた、甦る中世の修道院―エリス・シリタス著 岡達子訳 修道道士ドフェル・シリタス②―『背教者カドフェル』―白石ななえ●刃影・ヘミングウェイの(武器よさらば)―十三三の会余録から―山川力●ソウル マンナム・ボクの韓国物語8祖国で―青木隆直●沖繩通信】5戦後五十年目の誓い(一)―大城●北海道文学散歩・千鳥編(22)―木原直彦●風見鶏―創作・評論―森山直太郎・詩―文梨政幸・短歌―秦美恵子・俳句―鈴木きみえ

七月号(第二十九卷第七号) 342  
●三月の風景―西村英樹 白愁のとき―小池温子 風船の行方―井上由美 セピア色の時―村岡光 数ならぬ身 芭蕉―永野照子「きゅうざん」といごっそう―勝佳史 小特集―人間・林白文【座談の会】白文さんと語る―小林金三・小林正・高野ケイ・中島祥一・司会・森山直太郎●創作・白い月―平野温美●旅行記―シクロードを旅して―馬場昭●吾妻志計乃口述持―坂田資宏●国際人の日・私の日本滞在記―人と社会―謝洪勇●書評・写生文の新しい可能性へのトライ―奥泉光●吾輩は猫である―殺人事件―皆藤健●刃影・作家、李相哲さんの『政治家―山川力●ソウル マンナム・ボクの韓国物語9三金』―そして日韓―青木隆直●沖繩通信】6

敗戦五十年目の誓い(二)―大城●北海道文学散歩・千鳥編(23)―木原直彦●新刊書を読む・松島ていこ著『沖繩の中の独り』―お

おたみこ●文芸時評―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―藤正広・短歌―高橋一弘・俳句―高橋抱石 八月号(第二十九卷第八号) 343  
●エッセイ・腹違い事件―谷川孝一 私が宝くじを買わない理由―稲田雅洋 三方節が聞こえる―波多野信子●創作・飛翔―外岡立人 喜良久湯極楽―桃谷保子●書評・旧約世界から韓国の状況を透視―李文烈著 安字権訳 ひとの心―神に挑む者―皆藤健●刃影・アイソトピアの二十世紀的アイロニー―回想のなから―山川力●ソウルマンナム・ボクの韓国物語10韓は望遠鏡と―青木隆直●沖繩通信】7ひめゆりの塔と資料館―親泊文子●北海道文学散歩・千鳥編(24)―木原直彦●ル・シー・マリヤ・ホスト夫人とヒリオンボウ先生のこと―中村久子●文芸時評―創作・評論―朴重鎬・詩―三村美代子・短歌―秦美恵子・俳句―白幡千草●暑中お見舞名刺広告

九月号(第二十九卷第九号) 344  
特集・エッセイと評論―宮沢賢治 ●エッセイ・奇跡のように―林洋子 私と『銀河鉄道の夜』―本山節韻・ひとりごと けんじのこと―能戸美奈子 道迷い人の賢治雑感―堤寛治 清六さんのこと―加藤征義 天に椅子を架けた人―三浦敬子 テンポク線の賢治さん―加藤多一 新田【風の又三郎】観覧記―柴村紀代 ネパールの『宮沢賢治北海道修学旅行』をめぐめる報告書―梅木万里子 話集―オウム・クリシナ・ティミルシナ―北海道修学旅行―宮沢賢治を語る会の十五年―畑野信太郎 イギリスの海岸からブリオシンの海岸へ―茗宮明彦 私のお賢治―八森虎太郎 マグノリアの木―佐藤孝 髪毛 風吹けば―高畑勲 ●評論 詩的共同体への道しるべ―宮沢賢治論―原千修 詩による絵画展―自由画検定

委員」のごとく佐藤榮二 大正七年末、トシ入院と、賢治と父次政二郎一内田朝雄（賢治）語のひみつ・工藤正広・ソウル・ナム・ボクの中の沖繩111の朝鮮族・青木隆直（影）の韓国物語111の朝鮮族・青木隆直（影）の韓国物語111の朝鮮族・青木隆直（影）のなからら2・山川力●【沖繩通信】8写真編(25)―木原直彦●書評・岩礁の海には来た人、人は去り―中村稔著「新編 うばら抄」おおたみえ●●新刊書を読む・モノクロの時代の青春を描く―佐野良二著「軍治郎」―北村敏●文芸時評―評論・森山軍治郎・詩・工藤正広・短歌―高橋一弘・俳句―高橋抱石●文学散歩・文学まつりのご案内

### 十月号(第二十九卷第十号) 345

●エッセイ・「嵐が丘」を訪ねて―市川恵子息子の初陣―佐甲信雄 旅行なれば、入院上手―生前分骨の記―馬場昭 N高甲子園譚―福地順一●創作・帽子をとる日―真岡むらさき●書評・ものものがたりのハローエニー―新井満著「私の小さな美術館」おおたみえ●●新刊書を読む・森山軍治郎著「ヴァンデ戦争」―橋本直子●ソウル・ナム・ボクの中の韓国物語111(最終回)―李ソマンの涙―青木隆直●刈影・続・忘れられない、あの七十年安寝―9回読者の人々の想いと美意識―仲程喜美枝●北海道文学散歩・千鳥編(26)―木原直彦●文芸時評―創作・評論・妹尾雄太郎・詩―三村美代子・短歌・秦美恵子・俳句―白幡千草

### 十一月号(第二十九卷第十一号) 346

●エッセイ・潮まつり―橋本直子 螢のよみに―佐藤英子 墓掘り―朝倉聡●創作・又の町、ヨイ・ドン―中村南●日韓文化交流小特集「日韓食文化の比較」●キム子日は日韓友

好の懸け橋・青木隆直●韓国両国の食べ物あれこれ―圭全泰・洞爺湖畔 詩の朗読会より洞爺のかぜ―圭全泰 湖畔の夜雨―李一香野の草に野花に―李環小嬢 いま、わたしたちは愛に未然たれれば―金小嬢 合掌―朴慶書夏の木―金南屏「随想」韓国表層見聞記―豊田文雄 ムンファアの咲く園を訪ねて―桜庭宏●評論・星彦きてもなお……永遠なるものありか―扇藤明美おはら病予防法に寄せて―高島敏●書評・おばあさんか聞いた婆の長い候節令嬢はなして始まる物語―ガルシア・マルケス著/日歌介訳「愛その他の悪霊について」―白石ななえ●刈影・現當の時代論―丸山真男とわしたし・回想のなからら4―山川力●【沖繩通信】10賢治への想い―島袋保子●北海道文学散歩・千鳥編(27)―木原直彦●文芸時評―創作・評論―朴重鎬・詩―工藤正広・短歌・柳本志津子・俳句―高橋抱石●編集人を経てきたにあたって―森山軍治郎

### 十二月号(第二十九卷第十二号) 347

特集・現代詩の現在  
【96アンソロジー】街―高文彦 尺度―永井浩 詩よおまを尻目に―洪谷美代子 観光―志海光朔 猪のミライ―江原光太 霧の肖像―米山将治【96アンソロジーII】R・I・N―ある敗北宣言―高橋秀明 風さから降りて、パスは夜に向かう―結城富家 ナメラガザメ―アナキシマンドロス の博物館による―江口順一 葉脈―小杉元一 葬送の輝きはささやかな羽化を重ねた沈黙である―松尾真由美 日常の、でんわ―瀬川進 セロ―植田理佳 光る―澤田れい子 昏れない―一日―小柴節子 海を見たい―本間淳子 十六夜に、潮吹くよ、をを―青木崇 けもの息 薄明の―山根千恵子【評論】松下昇寛 平―高橋秀明「座談」現代詩の変貌―司会・野原一良、笠井嗣夫、斎藤正義、工藤正広、野

坂政司、高橋秀明●書評・華麗なるスコットの華麗ではなかった生涯―一九二〇年代を駆け抜けた作家―村上春樹訳・著「パビロンに帰る」―白石ななえ●刈影・フランス革命と国後―日架戦争―森山軍治郎氏の「ヴァンデ戦争」をいへつて―山川力●【沖繩通信】11ハロウワークの窓口―山原直彦●北海道文学散歩・千鳥編(28)―木原直彦●文芸時評―創作・評論―森山軍治郎・詩―三村美代子・短歌―風間喜美子・俳句―白幡千草

### 二一九七号

#### 一月号(第三十卷第一号) 348

●詩・櫻冬期―高文彦●エッセイ・正月雑感―高橋俊一郎 丸山真勇その他―日高善風 防林のなかの破れ陸屋―長光太●スベイン―河野文二郎●創作・コトちゃん・沖繩で戦死した兄①色が白く力もち―加藤多一●葛西善蔵の娘との会見―神谷忠孝 ラスプーチン氏の津軽―千葉寿夫●回想の詩人たち―1・鷲巣さんのアルパム―江原光太●評論・福沢諭吉と朝鮮 一 亜細亜諸国との和戦は我々等に関するの説―村端信彦●北海道文学散歩・千鳥編(29)―木原直彦●今月の短編・天神山小景―澤田誠一●文芸時評―創作・評論―妹尾雄太郎・詩―斎藤正義・短歌・柳本志津子・俳句―脇田繁●執筆者紹介●新年名刺交歓

#### 二月号(第三十卷第二号) 349

●詩・二月―高文彦 湖底に沈んだ白鳥のへブリーメモリー(春)―倉内佐知子●掌編・マヤの誓―米山将治●文学エッセイ・田「満州」旅行記―神谷忠孝●自伝的エッセイ・わが詩的遍歴―和田徹三●評論・痲痺するデジャ・ヴー―ビデオで読む小津安二郎①「淑女と髯」―宮城のシャボン玉、そしてマルクスの(御真影)―中澤千磨夫●福沢諭吉と朝

鮮二 朝鮮は退歩にあらずして停滞なるの説―村端信彦●安部公房論―高野志美●創作・コトちゃん・沖繩で戦死した兄②冬のなかに―加藤多一●天神山小景(二)―澤田誠一●研究ノトから・宮沢賢治の北海道・樺太旅行―松岡義和●回想の詩人たち2・中金家太郎さんの髯―江原光太●韓民族文学人大会から―朴重鎬●北海道文学散歩・千鳥編(30)―木原直彦●文芸時評―詩―三村美代子・短歌―風間喜美子・俳句―白幡千草

#### 三月号(第三十卷第三号) 350

●詩・わかれ―高文彦 ささきこり店―支倉隆子 黄橋論D―北川誠 招待―瀬尾育生ドゥウン―斎藤正義●評論・近藤潤一の俳句―非在との対詩・菱川善夫●評論・安部公房論―高野志美●エッセイ・「満州」を凝視した作家―島本健作の「満州紀行」を読む―神谷忠孝●自伝的エッセイ・わが詩的遍歴2―和田徹三●名譽ある。終刊へ―米山将治●楽しい出会いを書いてみれば―鷲田小太●創作・天神山小景(三)―澤田誠一●コトちゃん・沖繩で戦死した兄③オキナワという痛み―加藤多一●評論・痲痺するデジャ・ヴービデオで読む小津安二郎②「淑女と髯」―宮城のシャボン玉、そしてマルクスの(御真影)(承前)―中澤千磨夫●かなしき町の歌のしじま―石川啄木あるいはひとつの小樽論―高橋秀明●福沢諭吉と朝鮮三 朝鮮人が外国留学の当初 本塾も亦外人を入れる、の発端―村端信彦●研究ノト・鳥の遷移―賢治詩において鳥が投影するところ―石本裕之●三十年のひととま―澤田誠一●北海道文学散歩・千鳥編(31)―木原直彦

【350号+特別別冊にて月刊は終】  
北方文芸別冊 総目次  
北方文芸別冊(19985.1) 351

●ワルシヤワの黒い犬一角轡春雄●熱い記憶  
―小樽山博●美術館の源流を記録する―工藤  
欣弥●夢遊観音―Kさんへの手紙―結城遠一  
●ウァン・ゴッホと三好十郎―澤田誠一●眠  
れぬない鳥たち―高橋あい●爪は白の色―田村  
喜恵

北方文芸別冊2(1999・11・1) 352  
●追悼・寺久保友哉―澤田誠一●追悼・坂本  
幸四郎―澤田誠一●遺稿・海の妾て子―坂本  
幸四郎●「日本音数律論」余話―坂口昌明●  
創作・ベンジャミンの部屋―寺田文恵●創作・  
針槐ふたたび―中野武彦●創作・フェイヌ―  
本居ジェーン●戯曲・焚き火の女―本山節  
彌

北方文芸別冊3(2001・4・25) 353  
●呼び声―寺田文恵●沼から逃れて―斎藤正  
義●ホ・シ・ユー星をもつ馬―加藤多一●「北  
方文芸」(小笠原克編)集長を悼む―澤田誠一●  
小笠原克編「北方文芸」特集・伊藤信二と  
風間六三さんのこと―玉川薫●追悼・西村信  
一―澤田誠一●西村信さんをしるんで―吉井よ  
う子●有り難うございました―原田孝一●衆  
しかつた日の思い出―工藤欣弥●雲の、墓  
銘―三つ追悼の章―藤原正廣●越鳥南枝  
の碑―坂田資宏●小説家のうた―澤田誠一  
●坪野哲久の歌との出会い―福本東希子●古い  
書簡のなかの私―澤田誠一●編集後記―澤田  
誠一

北方文芸別冊4(2002・1・20) 354  
●原野忌によせて―中村久子●文学館を魅力  
あらしめるために―玉川薫●想いに浮かぶ  
人々―加戸徳晃●パブリカ+別海野で+馬鈴  
薯と+ヒノホカ+友田多喜雄●「魂の歌手」  
―河井涉●平岸村(一)―澤田誠一

●一人だけの寒い日―藤沢清典●庶民の  
思想史(連載第一回)―小池喜孝●西村君の  
憶い出―池田宏●カケスの雪宿り―山神博子  
●寅年生まれの古い言い伝え―白石敏男●  
性・その他―高田賢誠●四国の父と白鳥坂  
優子●死んだ弟は賢い―菅原重夫●詩・われ  
ら旅先より―工藤正廣●詩・すずらん摘み―  
斎藤正義●平岸村(二)蝦夷(一)―澤田誠一  
北方文芸別冊6(2003・2・20) 356  
●吊り橋―寺田文恵●百年のく雨雀々―ア  
イスの煙―周辺―工藤正廣●庶民の思想史  
「連載第二回」―小池喜孝●通行人―鷲谷峰  
雄●行かなくや―村田道●まゆこのふゆや  
すみまきとまきあき●ドローの「ホウゼ」と  
9・11―井上理恵●牧野郎さんの「北国暮  
原」のことなど―工藤欣弥●やせ馬の朝「現  
代民話の試み」―加藤多一●流水―村林貞子  
●平岸村(三)―澤田誠一

北方文芸別冊7(2003・6・25) 357  
●鬼面―澤井繁男●塔の見える時―藤澤清典  
●津軽方言詩選生繰起―坂口昌明●鳥牧挽歌  
―静かなる障太女樹―讃歌―工藤正廣●「聖  
孝」追悼特集(別)家孝孝の思い出―エドワイ  
ン・ダンをめぐって―田辺安一●北を彫った  
京人―影刺家孝孝●小林金三・孝孝さんと坂  
本直行さん―澤田誠一●庶民の思想史(連  
載第三回)―小池喜孝●平岸村(四)―澤田  
誠一

北方文芸別冊8(2003・11・1) 358  
●シベリウスを聴きながら―寺田文恵●白い  
沖へ―河井涉●よみがえる啄木―啄木の現代  
性―森川喜孝●カトマンズの月―友田多喜雄  
詩+蔭中喬章画●アルニカの午さび―斎藤  
正義●庶民の思想史(連載第四回)―小池  
喜孝●平岸村(五)―澤田誠一

北方文芸別冊9(2004・2・25) 359  
●テラカンおやじの隆坑―河井涉●凍裂―高  
木五郎●野鯉―藤澤清典●夕暮のキャッチ  
ボール―鷲谷峰雄●紡ぎ紡がれ文なす糸は―  
中村久子●斑鳩の里を歩く―工藤欣弥●青空  
に叫んだ幸せ―山神博子●もて余す時間男  
の止まり木―菅原重夫●異常気象なのか―  
白石敏男●小笠原克の「北方文芸」―結城遠  
一●平岸村(六)●村を去りまた村へ―澤田誠  
一

北方文芸別冊10(2004・6・10) 360  
●刺繍―澤井繁男●流れてきた人―藤沢清典  
●陶器―寺田文恵●世界に産み落とされる最  
初の人間―河井涉●文藝時評2004・5・  
戦争と詩人、パステルナークの場合―工藤正  
廣●久保栄と澤田誠一―本山節彌●平岸村  
(七)林橋みもの―澤田誠一

北方文芸別冊11(2004・12・25) 361  
●蜜柑の実の熟すまで―薬谷正久●間の原―  
刺賀秀子●詩・死んだふりをしている木―斉  
藤正義●三岸好太郎と外山朔三―工藤欣弥  
●歳月遠望―山田昭夫氏のこと―平原一良●  
娘の結婚―高橋知子●便利な声―上田敦子●  
篤―工藤欣弥●かわい砂―河井涉●平岸村  
(八)―澤田誠一

北方文芸別冊12(2005・11・10) 362  
●炎のわかれ―河井涉●雪原に太陽がのぼる  
時―玉井裕志●連作散文詩集―友田多喜雄●  
帰省―新井健一郎●ここに来る母がある―  
工藤欣弥●北海道文学館創立のころの思い出  
―澤田誠一

北方文芸別冊13(2006・12・10) 363  
●それは抛れず―藤澤清典●逆立ちをした木  
―斎藤正義●「本庄陸男全集」逸文録/小説  
「移住地を流れる蔵月」私注 ほか二点/吉井

よう子●指標としての堀田善衛―現在再読中  
―平原一良●敗戦前後のころ―澤田誠一●マ  
フラー綺談 河井涉

\*この全号目次総覧は「北方文芸」誌上に幾  
度か掲載された「総目次」(1〜299)を下  
敷きに、300号から350号、別冊1〜13  
号を新たに追加したものである。校閲には全力  
を尽くしましたが、個人名などにも表記の插  
れが目立ち、スタイルが統一されていないな  
ど、多くの問題点・改良点を残していますが、  
原則そのままとしました。本稿により、「北方  
文芸」の全体が見渡せることとなります。研  
究者によるさらなるバージョンアップを期待  
しております。